子產聽鄭國之政。以其乘輿濟人於溱洧。孟子曰。惠而不知爲政。歲十一月徒杠成。十二月輿梁成。民未病涉也。君子平其政。行辟人可也。焉得人人而濟之。故爲政者。每人而悅之。日亦不足矣。

孟子告齊宣王曰。君之視臣如手足。則臣視君如腹心。君之視臣如犬馬。則臣視君如國人。君之視臣如土芥。則臣視君如寇讎。王曰。禮爲舊君有服。何如斯可爲服矣。曰。諫行言聽。膏澤下於民。有故而去。則君使人導之出疆。又先於其所往。去三年不反。然後收其田里。此之謂三有禮焉。如此則爲之服矣。今也爲臣。諫則不行。

子產(一)鄭國の政(二)を聽き、其乘輿(三)を以て、人を溱洧(四)に濟す。孟子曰く、惠にして政を爲すを知らず。歲の十一月徒杠(五)成り、十二月輿梁(六)成る、民未だ涉(七)るを病(八)まざるなり。君子其政を平にせば、行きて人を辟けしむるも可なり。焉(九)ぞ人人にして之れを濟すを得ん。故に政を爲す者は、人毎に之れを悅ばさば、日(一〇)も亦足らず。

一 鄭の大夫の公孫僑の字なり 二 政治を行ひ 三 乘りたる車 四 二つの川の名なり 五 渡す 六 人の徒歩して渡るべき橋 七 車輿を通ずべき橋 八 徒歩にて水を涉るなり 九 患ふるに及ばず 一〇 位ある人を指す 一一 人を左右に押し分くるなり 一二 いくちやつたとて到底やり切れる話に非ず

孟子、齊の宣王に告げて曰く、君の臣を視ること、手足の如くなれば、則ち臣の君を視ること腹心の如し。君の臣を視ること犬馬の如くなれば、則ち臣の君を視ること國人の如し。君の臣を視ること土芥の如くなれば、則ち臣の君を視ること寇讎の如し。王曰く、禮に舊君(一一)の爲めに服(一二)ありと。何如なる斯に爲めに服すべきか。曰く、諫(一三)行はれ言聽かれ、膏澤(一四)民に下り、故ありて去れば、則ち君人を(一五)して之を導きて疆(一六)を出だしめ、又其の往く所に先ち(一七)、去りて三年にして反らざれば、然る後に其田里を收む。此を之れ三有禮(一八)と謂ふ。此の如くなれば則ち之れが爲めに服す。今や臣と爲り、諫むれば則ち行はれず、言へば則ち聽かれず、膏澤民に下らず、故ありて去れば、則ち君之れを搏執し、又之れを其の往く所に極し(一九)、去るの日、遂に其田里を收む。此を之れ寇讎と謂ふ。寇讎には何の服かこれあらん。

一 土や、草の如くに手荒く取り扱はゞ 二 仇敵なり 三 前に事へし君なり 四 忠臣あり 五 諫言を採用せられ 六 意見の採用せらる 七 恩澤を人民に及ぼすなり 八 事故ありて其の國を去る 九 領内をする なり 一〇 國境 一一 其の往かむとする國に對して富人の往き著く前に其の才能を吹聽してやり 一二 其の田 采里居を取り上ぐるなり 一三 領内と、他國への吹聽と、三年立ちて田祿里居を取り上ぐるとの三つの證なり、 有は添へ字なり 一四 召し捕ふ 一五 惡みて之を苦しむ

言則不レ聽膏澤不レ下レ於レ民。有レ故而去。則君搏二執之一。又極二之於其所レ往。去之日遂收其田里一。此之謂二寇讎一。寇讎何服之有。

孟子曰。無レ罪而殺レ士。則大夫可二以去一。無レ罪而戮レ民。則士可二以徙一。○孟子曰。君仁莫レ不レ仁。君義莫レ不レ義。○孟子曰。非禮之禮。非義之義。大人弗レ爲。

孟子曰。罪なくして士を殺さば、則ち大夫以て去るべし。罪なくして民を戮せば、則ち士以て徙るべし。○孟子曰く、君仁なれば仁ならざる莫し。君義なれば義ならざる莫し。○孟子曰く、非禮の禮、非義の義は、大人は爲さず。

㊀ 之れやがて禍の其の身に及ぶべければなり ㊁ 他國へ徙るなり ㊂ 此句既に上篇に出づ ㊃ 長を敬するは禮なり、然れども夫は妻を拜せず、昔陳質と云へる人、妻を娶りしに已よりも年長なりしかば之れを拜せり、此は禮に似て非禮なり ㊄ 人の力を藉りて仇討ちをする如き即ち非義の義なり

孟子曰。中也養二不中一。才也養不才一。故人樂レ有二賢父兄一也。如中也棄二不中一。才也棄二不才一。則賢不肖之相去。其間不レ能レ以レ寸。

孟子曰く、中や不中を養ひ、才や不才を養ふ。故に人は賢父兄あるを樂む。如し中や不中を棄て、才や不才を棄てば、則ち賢不肖の相去ること、其間寸を以てする能はず。

孟子曰。人有レ不レ爲也。而後可二以有レ爲一。○孟子曰。言二人之不善一。當下如二後患一何上。○孟子曰。仲尼不レ爲二已甚者一。○孟子曰。大人者言不二必信一。行不二必果一。惟義所レ在。

孟子曰く、人爲さざるあり、而る後に以て爲すあるべし。○孟子曰く、人の不善を言はば、當に後患を如何すべき。○孟子曰く、仲尼は已甚しき者を爲さず。○孟子曰く、大人は言必ずしも信ならず、行必ずしも果ならず。惟義の在る所。

㊀ 惡事を爲さず ㊁ 善事を爲す ㊂ 後日難儀を被るべし ㊃ 孔子の字 ㊄ 飛びはなれたること ㊅ 道に達せし人 ㊆ 義を以て度と爲すが故に言信なちん事を期必せず、即ち子が父の罪をかくすが如きをいふ

孟子曰。大人者。不レ失二其赤子之心一者也。○孟子曰。養レ生者不レ足二以

孟子曰く、大人は其赤子の心を失はざるものなり。○孟子曰く、生を養ふ者、以て大事に當つるに足らず。惟死を送る、以て大事に當つべし。

㊀ 中和の氣のある賢人の意 ㊁ 養育教誨す ㊂ 才ある人なり ㊃ 中にして才ある父兄なり ㊄ 賢者をして愚者を教養せざらしめば、其の結果としては賢者も愚者とあまり變らないものとなつてしまふ

㊀ 大德の人君 ㊁ 己が治むる民の心、一說に嬰兒の心なりと ㊂ 生に事ふるは ㊃ 子孫一生の大事となす

當大事。惟送死可以當大事。

孟子曰。君子深造之以道。欲其自得之也。自得之則居之安。居之安則資之深。資之深則取之左右逢其原。故君子欲其自得之也。

○孟子曰。博學而詳說之。將以反說約也。

孟子曰。以善服人者。未有能服人者也。

に足らず　㊄ 死したる親を見送る、一生一度の事なれば禮を盡すにも大事なり

孟子曰く、君子は深く之れに造るに道を以てするは、其の之れを自得せんことを欲すればなり。之れを自得すれば、則ち之れに居ること安し。之れに居ること安ければ、則ち之れに資ること深し。之れに資ること深ければ、則ち之れを左右に取り、其原に逢ふ。故に君子は其の之れを自得するを欲するなり。○孟子曰く、博く學びて詳に之れを說くは、將に以て反りて約を說かんとするなり。

㊀ 深く道理に進み入るなり　㊁ 仕方といふこと　㊂ 道をば強ひて求めずして、自然に得んとす　㊃ 道理の上に心を落ち着くることの安らかなるなり　㊄ 道理を取り用ひることの深遠なり　㊅ 道理を我が身の左右前後に取り用ひるなり　㊆ 道理の本源に出逢ふなり、原は源と同じ　㊇ 學びて道理を說明す　㊈ 要領の義

孟子曰く、善を以て人を服する者は、未だ能く人を服する者にあらざるなり。善を以て人を養うて、然る後能く天下を服す。天下心服せずして王たる者は、未だ之れあらざるなり。○孟子曰く、言に實の不祥なし。不祥の實は、賢を蔽ふ者之れに當る。

㊉ 善を以て人を服するは善を我が有として人を威壓するものなり　㊋ 善を以て人を教養して善に赴かしむ　㊌ 世人の名づけて不祥といふ事に眞實の不祥と見るべきものなし　㊍ 賢を蔽ふのが眞實の不祥なり

徐子曰。仲尼亟稱於水曰。水哉水哉。何取於水也。孟子曰。原泉混混。不舍晝夜。盈科而後進。放乎四海。有本者如是。是之取爾。苟爲無本。七八月

徐子曰く、仲尼亟く水を稱して、曰く、水なるかな水なるかなと。何ぞ水に取るや。孟子曰く、原泉混混として、晝夜を舍てず。科に盈ちて而る後に進み、四海に放る。本ある者は是の如し。是れを之れ取るのみ。苟も本なかりせば、七八月の間雨集り、溝澮皆盈つれども、其の涸るゝや立つて待つべきなり。故に聲聞情に過ぐるは、君子之れを恥づ。

㊀ 徐辟なり　㊁ 屢々なり　㊂ 水の德を稱するなり　㊃ 水は源泉より渾渾として絶えず流れ出でて地を行くや　㊄ 晝夜絶間なし　㊅ 穴なり　㊆ 大海の意　㊇ 至るなり　㊈ みぞ、溝とは田間の水道なり　㊉ 乾なり　㊋ 久しかちぬ意　㊌ 名が實よりも高きは雨水の溝澮を盈すが如く、すぐ壞ずるのみ

之間雨集。溝澮皆盈。其涸也可立而待也。故聖聞過情。君子恥之。

孟子曰。人之所以異於禽獸者幾希。庶民去之。君子存之。舜明於庶物。察於人倫。由仁義行。非行仁義也。

孟子曰。禹惡旨酒。而好善言。湯執中。立賢無方。文王視民如傷。望道而未之見。武王不泄邇。不忘遠。周公思兼三王以施四事。其有不合者。仰而思之。夜以繼日。幸而得之。坐以待旦。

孟子曰。人の禽獸に異なる所以の者幾んど希なり。庶民は之れを去り、君子は之れを存す。舜は庶物に明かに、人倫を察す。仁義に由りて行ふ。仁義を行ふに非ざるなり。

孟子曰く、禹は旨酒を悪んで、善言を好む。湯は中を執る、賢を立つるに方なし。文王は民を視ること傷くが如し。道を望んで未だ之れを見ざるが而し。武王は邇を泄らさず、遠きを忘れず。周公は三王を兼ねて以て四事に施さんと思ふ。其の合はざるある者は、仰いで之れを思ひ、夜以て日に繼ぐ。幸にして之れを得れば、坐して以て旦を待つ。

一 少しのことである　二 仁義をいふ　三 庶物の理に明なるなり　四 人倫五常を見聞むる意　五 舜の行ふ仁義は自分の有する仁義によりて行ふなり、庶民の如く外より仁義を取りて行ふにあらず

一 美酒なり、夏の禹王に時に儀狄といふ者、始めて酒を作りしに、禹王之れを飲みて、歎じて曰く後世になりて酒の爲めに國を亡ぼす者あらんと、儀狄を遠ざけ、酒を絶ちたり、是れ其の酒を惡みたるなり　二 過不及なきを中といふ　三 方は、方角なりといひ或は規なりといふ、即ち賢者の樂りし方向と解し又は賢者の類と解す　四 人民を視ること、怪我人を取り扱ふやうに、注意して取扱ふ　五 仁道を謀み行うて而も未だ酒は至ちざる所あるが如く苦心す、而は如と通ず　六 近き朝臣に親み狎れて、疎略にせぬなり　七 遠き諸侯を忘却して、疎遠にせぬなり　八 禹王と湯王と文王武王となり　九 上述の禹王湯王文王武王の行ひし事、一説に四事は四季なりと　一〇 夜明け

孟子曰。王者之迹熄而詩亡。詩亡然後春秋作。晉之乘。楚之檮杌。魯之春秋一也。其事則齊桓晉文。其文則史。孔子曰。其義則丘竊取之矣。

孟子曰く、王者の迹熄んで、詩亡ぶ。詩亡びて、然る後春秋作らる。晉の乘、楚の檮杌、魯の春秋は一なり。其事は則ち齊桓・晉文、其文は則ち史。孔子曰く、其義は則ち丘竊に之れを取ると。

一 周の制度によりて、王者十二年目に天下を巡狩して、方岳の下に至りて、諸侯を明堂に朝會せしめ、太史に命じて、詩を陳奏せしめて、民間の風俗を觀察す、然るに、周の平王の東遷以後、巡狩の禮廢たれて、王者の迹止みければ、采詩の官の國風を察する事もなくなり詩の亡びたるなり　二 孔子の春秋の書の成り出でたるなり　三 晉の記錄の名なり、之れを乘といへるは、善惡共に載せざるはなしといふ義なり　四 楚の國の記錄の名なり、惡獸の名より轉じて、凶人の號となり、又轉して、惡を記して、戒めを垂る、義となりたるなりといふ　五 北狄裁

孟子曰。君子之澤。五世而斬。小人之澤。五世而斬。予未レ得レ爲二孔子徒一也。予私淑二諸人一也。

孟子曰。可二以取一。可二以無レ取。取傷レ廉。可二以與一。可二以無レ與。與傷レ惠。可二以死一。可二以無レ死。死傷レ勇。

は同じきなりと　(五) 春秋の記事　(六) 當時の筋者の人名　(七) 記錄役の法による　(八) 春秋善惡を褒貶したる題意なり　(九) 内々にて取り極むるなり、是れ諺語の言葉なり

孟子曰く、君子の澤は、(一)五世にして斬え、小人の澤も、五世にして斬ゆ。予未(二)だ孔子の徒たるを得ざるなり。(三)予私かに諸れを人に淑くするなり。(四)

(一) 君子小人は德の有無に就きていふなり、一說に位の有無に就きていふと　(二) 子孫に傳はる餘澤なり　(三) 父子相繼ぐを一世といふ、五世とは、父、祖父、曾祖父、高祖父までなり、之れより下への五世なれば、子、孫、曾孫、玄孫までなり、或は云ふ百五十年間と卽ち一世を三十年間と見るなり　(四) 絕ゆ　(五) 孔子の弟子なり　(六) 間接に孔子の道を人より聞きて、我が身を善くすることを得たるなり

孟子曰く、以て取るべし、以て取るなかるべし、取れば廉を傷る。以て與ふべし、以て與ふるなかるべし、與ふれば惠を傷る。以て死すべし、以て死するなかるべし、死すれば勇を傷る。

(一) 略々見て、自ら許す言葉なり、初めて見たる時、之れを取るべしと思ひたるなり　(二) 深く察して、自ら疑ふ言葉なり、再び見るに及びて、之れを取るべからざることを知りたるなり、これ朱註の說也、要に輕く見て取つてもよいやうにもあり、取らない方がよいやうにもある場合と解する方、文義に於て寧ろ可ならんか

逢蒙射を羿に學ぶ。羿の道を盡くし、思へらく、天下惟羿のみ己に愈ると爲す。是に於て羿を殺す。孟子曰く、是れ亦羿も罪あり。公明儀曰く、宜しく罪なきが若くなるべし。曰く、薄きかと云ふのみ、惡んぞ罪なきを得ん。鄭人子濯孺子をして衛を侵さしむ。衛、庾公之斯をして之れを追はしむ。子濯孺子曰く、今日我れ疾作る、以て弓を執るべからず、吾れ死なんか。其僕に問ふ、曰く、我を追ふ有は誰ぞ。其僕曰く、庾公之斯なり。曰く、吾れ生きん。其僕曰く、庾公之斯は、衛の善く射る者なり。夫子曰ふ、吾れ生きんと、何の謂ぞや。曰く、庾公之斯は射を尹公之佗に學ぶ。尹公之佗は射を我に學ぶ。夫の尹公之佗は端人なり、其の友を取ること必ず端ならん。庾公之斯至りて、曰く、夫子何爲ぞ弓を執らざる。曰く、今日我れ疾作る、以て弓を執る可からず。曰く、小人射を尹公之佗に學ぶ。尹公之佗は射を夫子に學ぶ。我れ夫子の道を以て、反つて夫子を害するに忍びず。

逢蒙學二射於レ羿。盡二羿之道一。思天下惟羿爲レ愈レ己。於是殺レ羿。孟子曰。是亦羿有レ罪焉。公明儀曰。宜レ若レ無レ罪焉。曰。薄乎云爾。惡得レ無レ罪。鄭人使二子濯孺子一侵二衛。衛使二庾公之斯追一之。子濯孺子曰。今日我疾作。不レ可二以執一弓。吾死矣夫。問二其僕一曰。追レ我者誰也。其

(一) 逢蒙射を羿に學ぶ。羿の道を盡くし、思へらく、天下惟羿のみ己に愈ると爲す。(二) 是に於て羿を殺す。孟子曰く、是れ亦羿も罪あり。公明儀曰く、宜しく罪なきが若くなるべし。曰く、薄きかと云ふのみ、惡んぞ罪なきを得ん。(三) 鄭人子濯孺子をして衛を侵さしむ。(四) 衛、庾公之斯をして之れを追はしむ。(五) 子濯孺子曰く、今日我れ疾作る、以て弓を執るべからず、吾れ死なんか。其僕に問ふ、曰く、我を追ふ有は誰ぞ。(六) 其僕曰く、庾公之斯なり。曰く、吾れ生きん。(七) 其僕曰く、庾公之斯は、衛の善く射る者なり。(八) 夫子曰ふ、吾れ生きんと、何の謂ぞや。曰く、庾公之斯は射を尹公之佗に學ぶ。尹公之佗は射を我に學ぶ。夫の尹公之佗は端人なり、其の友を取ること必ず端ならん。(九) 庾公之斯至りて、曰く、夫子何爲ぞ弓を執らざる。曰く、今日我れ疾作る、以て弓を執る可からず。曰く、小人射を尹公之佗に學ぶ。尹公之佗は射を夫子に學ぶ。我れ夫子の道を以て、反つて夫子を害するに忍びず。(一〇)

僕曰。庾公之斯也。曰。吾生矣。其僕曰。庾公之斯。衛之善射者也。夫子曰。吾生何謂也。曰。庾公之斯學射於尹公之佗。尹公之佗學射於我。夫尹公之佗端人也。其取友必端矣。庾公之斯至曰。夫子何爲不執弓。曰。今日我疾作。不可以執弓。曰。小人學射於尹公之佗。尹公之佗學射於夫子。我不忍以夫子之道反害中夫子。雖然。今日之事君事也。我不敢廢抽矢扣輪去其金發乘矢而後反

孟子曰。西子蒙不潔。則人皆掩鼻而過之。雖有惡人。齊戒沐浴。則可以祀上帝。

然りと雖も、今日の事は君の事なり、我敢て廢せずと。矢を抽き輪に叩き其金を去り、乘矢を發して而る後に反る。

一 羿は、昔の射術を善くせし役人の通稱にして、一人の名にあらざるが如し、逢蒙は、其の一人の弟子なりと、或は曰く羿は有窮國の君にして逢蒙は其臣と 二 勝さる 三 其の罪を逢蒙に比すれば、少し輕いと云ふだけだ 四 鄭の大夫なり 五 侵掠せしむ 六 衛の大夫なり 七 御者なり 八 子濯孺子をさす 九 衛の人 一〇 正しき人なり 一一 拙者なり 一二 君命なり 一三 えびちより矢を抜き取るなり 一四 車の輪に叩き附くるなり 一五 其の鏃を取り除き 一六 四本の矢なり 一七 引き返すなり

孟子曰く、西子不潔を蒙らば、則ち人皆鼻を掩うて之れを過ぎん。惡人有り と雖も、齊戒沐浴せば、則ち以て上帝を祀るべし。

一 昔の美女の西施 二 汚物を頭巾につけて被るなり 三 臭氣を避くるなり 四 容貌の醜き人なり 五 物忌みをして、心を清むるなり 六 髪を洗ひ身を洗ふなり 七 天帝を祭るなり

孟子曰。天下之言性也。則故而已矣。故者以利爲本。所惡於智者。爲其鑿也。如智者若禹之行水也。則無惡於智矣。禹之行水也。行其所無事也。如智者亦行其所無事。則智亦大矣。天之高也。星辰之遠也。苟求其故。千歲之日至。可坐而致也。

孟子曰く、天下の性を言ふや、故に則るのみ。故とは利を以て本と爲す。智に惡む所の者は、其の鑿するが爲めなり。如し智者禹の水を行るが若くならば、則ち智に惡むなし。禹の水を行るや、其の事なき所に行るなり。如し智者も亦其の事なき所に行らば、則ち智も亦大なり。天の高き星辰の遠き、苟くも其の故を求めば、千歲の日至も、坐して致すべきなり。

一 過去の證迹に則るなり、朱註によれば「則ち故のみ」と訓じ、已然の迹によるのみと 二 自然に順利なるなり 三 無理なる穿鑿をするなり 四 洪水を導くなり 五 水の自然に順ひて導くなり 六 性の自然に順はば 七 星辰の地を去ること遠きなり 八 過去の證迹に就きて、自然に順利なるものを推し求むるなり 九 千年以後の冬至なり 一〇 骨折らずしてすぐ分かるべしと

公行子有子之喪。右師往弔。入門。有進師の位に就き、而して右師と言ふ者あり。

公行子子の喪あり、右師往きて弔し、門に入る。進んで右師と言ふ者あり。右師と言はず。右師悅ばずし

而與二右師一言者。有下就二右師之位一而與二右師一言者。孟子不下與二右師一言。右師不レ悅曰。諸君子皆與レ驩言。孟子獨不二與レ驩言一。是簡レ驩也。孟子聞レ之曰。禮朝廷不二歷レ位而相與言一。不二踰レ階而相揖一也。我欲レ行レ禮。子敖以レ我爲レ簡。不二亦異一乎。

て曰く、諸君子皆驩と言ふ。孟子獨り驩と言はず、是れ驩を簡にするなり。孟子之れを聞きて、曰く、禮に朝廷には位を歷て相與に言はず、階を踰えて相揖せざるなり。我禮を行はんと欲す、子敖我を以て簡と爲す、亦異ならずや。

㊀ 齊の大夫なり　㊁ 役名なり、王驩時に此の役に在り　㊂ 右師が公行子の門に入るなり　㊃ 右師の前に進み出づるなり　㊄ 右師の座席の前に就く　㊅ 來合はせたる人々をいふ　㊆ 疎略にするなり　㊇ 人の座席を差し越しては　㊈ 堂の階段を差し越すなり　㊉ 奇怪なり

孟子曰。君子所二以異一於人者。以二其存一心也。君子以レ仁存レ心。以レ禮存レ心。仁者愛レ人。有レ禮者敬レ人。愛レ人者人恆愛レ之。敬レ人者人恆敬レ之。有レ人於レ此。其待レ我以二橫逆一。則君子必自反也。我必不仁也。必無禮也。此物奚宜レ至哉。其自反而仁矣。自反而有レ禮矣。其橫逆由レ是也。君子必自反也。我必不忠。自反而忠矣。其橫逆由レ是也。君子曰。此亦侮人也已矣。如レ此則與禽獸一奚擇哉。於二

孟子曰く、君子の人に異なる所以は、其の心を存するを以てなり。君子は仁を以て心に存し、禮を以て心に存す。仁者は人を愛し、禮ある者は人を敬す。人を愛する者は人恆に之れを愛し、人を敬する者は人恆に之れを敬す。此に人あり。其の我を待つに橫逆を以てすれば、則ち君子必ず自ら反するなり。我は必ず不仁なり、必ず無禮なり、此の者奚ぞ宜しく至るべけんやと。其の自ら反して

仁なり、自ら反して禮あり、其橫逆由ほ是のごとくなれば、君子必ず自ら反するなり。我必ず不忠なりと。自ら反して忠なり、其の橫逆是の如くなれば、君子曰く、此れ亦妄人なるのみ。此の如きは則ち禽獸と奚ぞ擇ばんや。禽獸に於て又何ぞ難ぜんと。是の故に君子は終身の憂ありて、一朝の患なきなり。乃ち憂ふる所の若きは則ち之れあり。舜も人なり、我も亦人なり、舜は法を天下に爲し、後世に傳ふべし。我は由ほ鄕人たるを免れざるがごとし。是れ則ち憂ふ可きなり。之れを憂へば如何にせん。舜の如くせんのみ。夫の君子の若きは、患ふ所は則ち亡し、仁に非ざれば爲すなきなり。禮に非ざれば行ふなきなり。一朝の患あるが如きは、則ち君子は患へず。

㊀ 心を存して、放れしめざるなり　㊁ 無理非道なる仕向け　㊂ 事なり　㊃ 無法者なり　㊄ 何等差別なきなり　㊅ 禽獸に異なるなき者は敢て論難するにも及ばず　㊆ 生涯に通ずる深き憂慮　㊇ 外より來る一時の心配なり　㊈ 村里の常人なり　㊉ 無と同じ、患無き理を說く

禽獸又何難焉。是故君子。有終身之憂。無一朝之患也。乃若所憂則有之。舜人也。我亦人也。舜爲法於天下。可傳於後世。我由未免爲鄉人也。是則可憂也。憂之如何。如舜而已矣。若夫君子所患則亡矣。非仁無爲也。非禮無行也。如有一朝之患。則君子不患矣。

禹稷當平世。三過其門而不入。孔子賢之。顏子當亂世。居陋巷。一簞食一瓢飲。人不堪其憂。顏子不改其樂。孔子賢之。孟子曰。禹稷顏回同道。禹思天下有溺者由己溺之也。稷思天下有飢者由己飢之也。是

禹・稷は平世に當り、三たび其門を過ぎて入らず。孔子之れを賢とす。顏子亂世に當り、陋巷に居り、一簞の食、一瓢の飲、人は其憂に堪へず、顏子は其樂を改めず、孔子之れを賢とす。孟子曰く、禹・稷・顏回道を同じくす。禹は天下に溺るゝ者あれば、由ほ己れ之れを溺すがごとしと思ふ。稷は天下に飢うる者あれば、由ほ己れ之れを飢すがごとしと思ふ。是を以て是の如く其れ急なるなり。禹・稷・顏子、地を易へば則ち皆然らん。今同室の人鬬ふ者あらば、之を救ふに被髮纓冠して之を救ふと雖も可なり。鄉鄰に鬬ふ者あり、被髮纓冠して往いて之を救ふは則ち惑なり。戸を閉づと雖も可なり。

㊀ 禹は洪水を治め、稷は農業を教ふ　㊁ 堯舜の平治の時なり　㊂ 家門　㊃ 見苦しき小路　㊄ 飯籠一つの飲物　㊅ 三たび其門を過ぎて入らざりしをいふ　㊆ 被髮は髮亂れて頭を被ふ義、急ぎて理髮に暇あらざるなり　㊇ 纓は冠の紐にて顎に結ぶものなり、纓冠は纓を結ぶ能はず纓を冠と共に頭に加ふるを云ふ

以如是其急也。禹稷顏子。易地則皆然。今有同室之人鬬者。救之雖被髮纓冠而往救之可也。鄉鄰有鬬者。被髮纓冠而往救之則惑也。雖閉戸可也。

公都子曰。匡章通國皆稱不孝焉。夫子與之遊。又從而禮貌之。敢問何也。孟子曰。世俗所謂不孝者五。惰其四支。不顧父母之養。一不孝也。博奕好飲酒。不顧父母之養。二不孝也。好貨財。私妻子。不顧父母之養。三不孝也。從

公都子曰く、匡章は通國皆不孝と稱す。夫子之れと遊び、又從つて之を禮貌す。敢て問ふ何ぞや。孟子曰く、世俗の所謂不孝なる者五つあり。其四支を惰らせ、父母の養を顧みざるは、一の不孝なり。博奕し飲酒を好み、父母の養ひを顧みざるは、二の不孝なり。貨財を好み妻子に私し、父母の養ひを顧みざるは三の不孝なり。耳目の欲を從にし、以て父母を戮を爲すは、四の不孝なり。勇を好み鬬狠し、以て父母を危くするは、五の不孝なり。章子是に一つあるか。夫の章子は、子父善を責めて相遇はざるなり。善を責むるは朋友の道なり。父子善を責むるは、恩を賊ふの大なる者なり。夫の章子は豈に夫妻子母の屬あるを欲せざらんや。罪を父に得て近づくを得ざるが爲めに、妻を出し子を屏け、終身養はず。其の心を設くること、以爲らく是の若くならざれば、是れ則ち罪の

耳目之欲。以爲二父母戮一四不孝也。好レ勇鬬狠。以危二父母一。五不孝也。章子有レ一レ於レ是乎。夫章子子父責レ善。而不二相遇一也。責レ善朋友之道也。父子責レ善。賊レ恩之大者。夫章子豈不レ欲レ有二夫妻子母之屬一哉。爲下得二罪於父母一上。不レ得レ近。出レ妻屏レ子。終身不レ養焉。其設レ心以爲不レ若レ是。是則罪之大者。是則章子已矣。

大なる者と。是れ則ち章子のみ。

一 齊國の人　二 全國　三 顏色を和げ體を以て遇するなり　四 世間普通なり　五 博は、雙六の類なり、奕は、圍碁なり　六 妻子の愛に引かるゝなり　七 聲色に溺るゝことなり　八 恥辱なり、父母の名を辱かしむ　九 喧嘩口論するなり、狠は、爭ひ訟ふるなり　一〇 匡章の章に子を添へたるなり　一一 子父は章子よりしていふ　一二 折り合はぬこと　一三 一般の父子を云ふ　一四 妻子をいふ、妻に對して、夫の字を添へ、子に對して、母の字を添へたるなり、夫は、卽ち己れ、母は、卽ち己れの妻をいふ　一五 卻くるなり　一六 妻子の養ひを受けぬ　一七 心を用ふること

曾子居二武城一。有二越寇一。或曰。寇至。盍レ去レ諸。曰。無下寓三人於二我室一。毀中傷其薪木上。寇退則曰。脩二我牆屋一。我將レ反。寇退。

曾子武城に居る。越の寇あり。或ひと曰く、寇至る、盍ぞ諸れを去らざると。曰く、人を我が室に寓し、其薪木を毀傷する無かれと。寇退けば則ち曰く、我が牆屋を脩めよ、我將に反らんとすと。寇退き、曾子反る。左右曰く、先生を待つこと、此の如く其れ忠にして且つ敬するなり、寇至れば則ち先づ去り、以て民の望を爲し、寇退けば則ち反る、不可なるに殆し。沈猶行曰く、是れ汝が知る

曾子反。左右曰。待二先生一如レ此。其忠且敬也。寇至則先去。以爲二民望一。寇退則反。殆レ於二不可一。沈猶行曰。是非二汝所レ知也。昔沈猶有二負芻之禍一。從二先生一者七十人。未レ有レ與焉。子思居レ於レ衞。有二齊寇一。或曰。寇至盍レ去。諸子思曰。如伋去君誰與守。孟子曰。曾子子思同レ道。曾子師也。父兄也。子思臣也。微也。曾子子思。易レ地則皆然。

所に非ざるなり。昔沈猶負芻の禍あり。先生に從ふ者七十人、未だ與るあらず。子思衞に居る、齊の寇あり、或ひと曰く、寇至る、盍ぞ諸れを去らざる。子思曰く、如し伋去らば、君誰と與にか守らん。孟子曰く、曾子・子思道を同じうす。曾子は師なり、父兄なり。子思は臣なり、微なり。曾子・子思、地を易へば則ち皆然らん。

一 魯の邑名　二 國名　三 寓居す　四 地面內の薪に取る樹木などを切り倒しなどしてはいけない　五 牆と屋根　六 曾子の弟子　七 武城の大夫等置子を取り扱ふことの鄭重なるをいふ　八 人民をして、寇に見て、其の眞似をせしむる手本を爲し　九 宜しからぬやうでございます　一〇 曾子の弟子、沈猶は姓、行は名なり　一一 亂を作こし、者の名　一二 其の騷動に關係せざるなり　一三 孔子の孫の伋の字なり　一四 父兄の位置なるを以に民に寇を逃るべき手本を示せり　一五 身分の微賤なるも臣たりの意

儲子曰。王使二人伺一之。果然。人之有二異乎一哉。孟子曰。何以異。

儲子曰く、王、人をして夫子を覘はしむ。果して以て人に異なるあるか。孟

人嚼二夫子一。果有以異レ於レ人乎。孟子曰何以異レ於レ人哉。堯舜與レ人同耳。

子曰く、何を以て人に異ならんや。堯舜も人と同じきのみ。

㊀ 齊人 ㊁ 齊の王 ㊂ 賢者の身貌俗人に異なるあるべしと考へしなり

齊人有二一妻一一妾一。而處レ室者一。其良人出。則必饜二酒肉一而後反。其妻問下所二與飲食一者上。則盡富貴也。其妻告二其妾一曰。良人出則必饜二酒肉一而後反。問二其與飲食者一。盡富貴也。而未嘗有二顯者來一。吾將レ瞷二良人之所レ之也一。蚤起施從二良人之所レ之。徧二國中一無二與立談者一。卒之東郭墦間之祭者一。乞二其餘一。不レ足。又顧而之レ他。此其爲二饜足一之道也。其妻歸告二其妾一曰。良人者所二仰望而終レ身也一。今若レ此。與二其妾一訕二其良人一。而相泣於中庭一。而良人未二之知一也。施從レ外來。驕二其妻妾一。由二君子一觀レ之。則人之所二以求一富貴利達一者一。其妻妾不レ羞也。而不二相泣一者幾希矣。

齊人一妻一妾にして室に處る者あり。其の良人出づれば、則ち必ず酒肉に饜きて而る後に反る。其の妻、與に飲食する所の者を問へば、則ち盡く富貴なり。其の妻其の妾に告げて、曰く、良人出づれば則ち必ず酒肉に饜きて、而る後に反る、其の與に飲食する者を問へば、盡く富貴なり、而して未だ嘗て顯者の來るあらず、吾將に良人の之く所を瞷はんとすと。蚤に起き、他して良人の之く所に從ふ。國中を徧くすれども與に立談する者なし。卒に東郭墦間の祭者に乞ひ、其の餘を乞ふ。足らざれば又顧みて他に之く。此れ其の饜足を爲す道なり。其の妻歸り其の妾に告げて、曰く、良人とは仰望して身を終ふる所なり、今是の若しと。其妻と與に其良人を訕りて、而して中庭に相泣く。而るに良人は未だ之を知らざるなり。施施として外より來り、其妻妾に驕る。君子由り之を觀れば、則ち人の富貴利達を求むる所以の者は、其妻妾羞ぢず、而して相泣かざる者は幾んど希れなり。

㊀ 婦人夫を稱して良人といふ ㊁ 飽くなり ㊂ 貴顯の人なり ㊃ 朝早く起き出づるなり ㊄ 强めて附きに從ふなり、心付かれやぬうに、跡をつくるなり ㊅ 城下を殘らず廻はるなり ㊆ 遂に ㊇ 東の外郭なり ㊈ 墓地の間なり ㊉ 供物の殘りの酒肉なり ㊋ 誘るなり ㊌ 內庭なり ㊍ 攫據よきさまなり ㊎ 利運達なり ㊏ 其手段陋劣瓦妻妾をして恥ぢて泣かしむるに類せざるものは殆ど無い

萬章問曰。舜往于田。號泣于旻天。何爲其號泣也。孟子曰。怨慕也。萬章曰。父母愛之。喜而不忘。父母惡之。勞而不怨。然則舜怨乎。曰。長息問於公明高。曰。舜往于田。則吾既

卷之九

萬章章句上

萬章問ふ、曰く、舜は田に往き、旻天に號泣す、何爲ぞ其れ號泣するや。孟子曰く、怨慕するなり。萬章曰く、父母之を愛せば、喜んで忘れず、父母之を惡めば勞して怨みず。然らば則ち舜は怨みたるか。曰く、長息、公明高に問うて曰く、舜の田に往くは、則ち吾れ既に命を聞くを得たり。旻天に父母に號泣するは、則ち吾れ知らざるなりと。公明高曰く、是れ爾が知る所に非ざるなり。夫の公明高は孝子の心を以て、是の若く恝ならずと爲す。我力を竭し田を耕し、子たる職を共するのみ。父母の我を愛せざるも、我に於て何ぞや。帝其の子九男二女をして、百官、牛羊、倉廩を備へ、以て舜に畎畝の中に事へしむ。天下

得聞命矣。號泣于旻天。于父母。則吾不知也。公明高曰。是非爾所知也。夫公明高以孝子之心爲不若是恝。我竭力耕田。共爲子職而已矣。父母之不我愛。於我何哉。帝使其子九男二女。百官牛羊倉廩備。以事舜於畎畝之中。天下之士多就之者。帝將胥天下而

の士之に就く者多し。帝將に天下を胥て之に遷さんとす。父母に順ならざる爲めに、窮人の歸する所なきが如し。天下の士之を悅ぶは、人の欲する所なり。而して以て憂を解くに足らず。好色は人の欲する所、帝の二女を妻として、而して以て憂を解くに足らず。富は人の欲する所、富天下を有ちて、而して以て憂を解くに足らず。貴きは人の欲する所、貴きこと天子と爲り、而して以て憂を解くに足らず。人之を悅ぶ、好色富貴、以て憂を解くに足る者なし、惟だ父母に順にして、以て憂を解くべし。人少ければ則ち父母を慕ふ。好色を知れば則ち少艾を慕ふ。妻子有れば則ち妻子を慕ふ。仕ふれば則ち君を慕ふ。君に得ざれば則ち熱中す。大孝は終身父母を慕ふ。五十にして慕ふ者は、予大舜に於て之を見る。

一 舜は五帝の一なり、其の父瞽瞍は後妻の子象を愛して舜を殺さんとして虐待至ちざるなし　二 旻は閔なり、天は萬物を憫む故に旻天といふ　三 呼びて泣くなり　四 父母の心に叶はざることを怨みて、父母を慕ふなり　五 公明高の弟子　六 曾子の弟子　七 教へなり　八 父母を呼びて泣くなり　九 下文の我竭力耕田以下を

遷也之焉。爲レ不レ順於二父母一。如二窮人無レ所レ歸。天下之士。悅レ之人之所レ欲也。而不レ足二以解レ憂。好色人之所レ欲。妻二帝之二女一。而不レ足二以解レ憂。富人之所レ欲。富有二天下一。而不レ足二以解レ憂。貴爲二天子一。而不レ足二以解レ憂。人悅レ之。好色富貴。無レ足二以解レ憂者一。惟順レ於二父母一。可二以解レ憂。人少則慕二父母一。知好色一。則慕二少艾一。有二妻子一。則慕二妻子一。仕則慕レ君。不レ得レ於レ君則熱中。大孝終身慕二父母五十而慕者一。予於二大舜一見レ之矣。

萬章問曰。詩云。娶レ妻如レ之何。必告二父母一。信二斯言一也。宜レ莫レ如レ舜。舜之不レ告而娶。何也。

指す　(一〇)怒は、顧著せざる意　(一一)供するなり　(一二)胥は、須つなり、天下の平定するを待つなり。一説に樂みるなりと、又は一説、視るなり、舜と共に天下の政事を視るなり　(一三)之れを移し與ふるなり　(一四)父母の心に叶はぬなり　(一五)困窮人なり　(一六)身を寄するなり　(一七)父母の若くして、顏よき女なり　(一八)悅服するなり　(一九)心中の燃ゆるばかりにいらだつこと　(二〇)婦人の美色なり　(二一)年

萬章問うて、曰く、詩に云ふ、妻を娶るは之を如何せん、必ず父母に告ぐと。斯の言を信ぜば、舜の如くなる莫かるべし。舜の告げずして娶るは何ぞや。孟子曰く、告ぐれば則ち娶るを得ず。男女室に居るは、人の大倫なり、如し告ぐれば則ち人の大倫を廢し、以て父母を怨む。是を以て告げざるなり。萬章曰く、舜の告げずして娶るは、則ち吾れ既に命を聞くを得たり。帝の舜に妻はして告げざるは何ぞや。曰く、帝も亦告ぐれば則ち妻はすを得ざるを知ればなり。萬章曰く、父母、舜をして廩を完めしめ、階を捐つ。瞽瞍廩を焚く。井を浚はしむ、出づ。從つて之を揜ふ。象曰く、都君を蓋するを謨るは咸な我が績なり。牛羊は父母、倉廩は父母、干戈は朕れ、琴は朕れ、弤は朕れ、二嫂は朕が棲を治めしめん。象往き舜の宮に入る。舜牀に在りて琴ひく。象曰く、鬱陶として君を思ふのみと。忸怩たり。舜曰く、惟れ茲の臣庶、汝其く予に于いて治めよと。識らず舜は象の將に己を殺さんとするを知らざるか。曰く、奚ぞ知らざらんや。象憂ふれば、亦憂へ象喜べば亦喜ぶ。曰く、然らば則ち舜は僞り喜ぶものか。曰く、否、ノ昔者生魚を鄭の子產に饋るあり。子產校人をして之を池に畜はしむ。校人之を烹て、反命して曰く、始め之を舍てば圉圉焉たり。少しくすれば則ち洋洋焉たり。悠然として逝くと。子產曰く、其所を得たるかな、其の所を得たるかな。

也。孟子曰。告則不レ得レ娶。男女居レ室。人之大倫也。如告則廢二人之大倫一。以懟二父母一。是以不レ告也。萬章曰。舜之不レ告而娶。則吾既得レ聞レ命矣。帝之妻レ舜。而不レ告何也。曰。帝亦知二告焉則不レ得レ妻也。萬章曰。父母使二舜完レ廩。捐レ階。瞽瞍焚レ廩。使レ浚レ井。出。從而揜レ之。象曰。謨蓋二都君一。

(一)詩　(二)斯の言を信ぜば　(三)人の大倫を廢し、以て父母を怨む　(四)是を以て告げざるなり　(五)廩を完めしめ　(六)階を捐つ　(七)井を浚はしむ　(八)從つて之を揜ふ　(九)象曰く　(一〇)都君を蓋するを謨るは　(一一)咸な我が績なり　(一二)牛羊は父母　(一三)倉廩は父母　(一四)干戈は朕れ　(一五)琴は朕れ　(一六)弤は朕れ　(一七)二嫂は朕が棲を治めしめん　(一八)牀に在りて琴ひく　(一九)鬱陶として君を思ふ　(二〇)忸怩たり　(二一)惟れ茲の臣庶　(二二)汝其く予に于いて治めよ　(二三)識らず　(二四)奚ぞ知らざらんや　(二五)象憂ふれば亦憂へ　(二六)象喜べば亦喜ぶ　(二七)然らば則ち舜は僞り喜ぶものか　(二八)校人をして之を池に畜はしむ　(二九)圉圉焉たり　(三〇)少しくすれば則ち洋洋焉たり　(三一)悠然として逝く　(三二)其所を得たるかな

咸我績。牛羊父母。倉廩父母。干戈朕。琴朕。弤朕。二嫂使治二朕棲一。象往入舜宮。舜在牀琴。象曰。鬱陶思君爾。忸怩。舜曰。惟茲臣庶。汝其于予治。不識舜不知二象之將殺己。與曰。奚而不知也。象憂亦憂。象喜亦喜。曰。然則舜僞喜者與。曰。否。昔者有饋生魚於二鄭子產一。子產

なと。校人出でて曰く、孰か子產を智と謂ふ。予既に烹て之を食へり。曰く、其所を得たるかな。其所を得たるかなと。故に君子は欺くに其方を以てすべし。罔(二九)じて之を喜ぶ、奚ぞ僞らん。

るに其道に非ざるを以てし難し。彼は兄を愛するの道を以て來る。故に誠に信

一 詩經齊風の南山の篇なり 二 誠に此の詩の辭の如くなるべくば 三 怨むなり 四 嫁に遣るなり 五 倉廩を備蓄す 六 梓を引くなり 七 井戸を浚はしめ其の出でんとする時、井に蓋すと、又、一說に井戸を掘りて、土を出ださしむ、又、一說には、出は、舜の橫穴より出でたるなりと 八 掘り出だしたる土を、舜の上に落す 九 瞽瞍の後妻の子 一〇 孽は、於なり、君は、舜なり、又、舜の住めば三年にして都をなすより舜を云ふと 一一 盍は害の借字なり、一說に、盍は、井戸の上より土を落して、舜を生き埋めにすることなり 一二 謀るなり 一三 皆我が手柄なり 一四 舜の彈じたる五絃の琴なり 一五 舜の秘藏の弓の名 一六 二人の兄嫁なり、娥皇、女英をさす 一七 吾が寢所に待ちしむるなり 一八 寢臺の上にて、琴を彈ずる 一九 氣の塞ぐことなり 二〇 恥かしげなるなり 二一 百官をいふ 二二 予が爲めに治めよといはむが如し 二三 牧治の番人なり 二四 放つるなり 二五 苦みのまだ舒びざるさまなり 二六 道なり 二七 漸くに身の働きの自由になりたるさまなり 二八 元氣よく泳ぎ去りたるなり 二九 だますなり

使二校人一畜之池。校人烹之。反命曰。始舍之圉圉焉。少則洋洋焉。悠然而逝。子產曰。得二其所一哉。得二其所一哉。校人出曰。孰謂二子產智一。予既烹而食之。曰。得二其所一哉。得二其所一哉。故君子可二欺以二其方一。難下罔以非二其道一。彼以愛兄之道來。故誠信而喜之。奚僞焉

萬章問曰、象日以殺舜爲事。立爲二天子一。則放之。何也。孟子曰。封之也。或曰。放焉。萬章曰。舜流二共工于幽州一。放二驩兜于崇山一。殺二三苗于三危一。殛二鯀于羽山一。四罪而天下咸服誅二不仁也。象至不仁。封二之有庫一。有庫之人。

萬章問ふ、曰く、象は日に舜を殺すを以て事と爲す。立ちて天子と爲れば則ち之を放くは何ぞや。孟子曰く、之を封ずるなり。或ひと曰く、放くと。萬章曰く、舜は、共工を幽州に流し、驩兜を崇山に放ち、三苗を三危に殺し、鯀を羽山に殛し、四罪して天下咸な服す。不仁を誅するなり。象至つて不仁なり、之を有庫に封ず。有庫の人奚の罪かある。仁人は固より是の如きか。他人に在りては則ち之を誅し、弟に在りては則ち之を封ず。曰く、仁人の弟に於ける、怒を藏さず、怨を宿めず、之を親愛するのみ。之に親めば其の貴きを欲するなり。之を愛すれば其富を欲するなり。之を有庫に封ずるは之を富貴にするなり。身は天子たり。弟は匹夫たらば、之を親愛すと謂ふべきか。敢て問ふ。或ひと曰く、放くとは、何の謂ひぞ。曰く、象は其國に爲す有るを得ず、天子吏をして其國を治め

奚罪焉。仁人固如是乎。在他人則誅之。在弟則封之。曰仁人之於弟也。不藏怒焉。不宿怨焉。親愛之而已矣。親之欲其貴也。愛之欲其富也。封之有庫宮貴之也。身爲天子。弟爲匹夫。可謂親愛之乎。敢問。或曰放者。何謂也。曰象不得有爲於其國。天子使吏治其國而納其貢稅焉。故謂之放。豈得暴彼民哉。雖然欲常常而見之。故源源而來。不及貢。以政接于有庫。此之謂也。

咸丘蒙問曰。語云。盛德之士。君不得而臣。父不得而子。舜南面而立。堯帥諸侯。北面而朝之。瞽瞍亦北面而朝之。舜見瞽瞍。其容有蹙。孔子曰。於斯時也。天下殆哉。岌岌乎。不識此語誠然乎哉。孟子曰。否。此非君子之言。齊東野人之語也。堯老而舜攝也。堯典曰。二十有八載。放勳乃徂落。百姓如喪考妣。

しめ、而して其貢稅を納れしむ。故に之を放くと謂ふ。豈に彼の民を暴するを得んや。然りと雖も、常常にして之を見んと欲す。故に源源として來る、貢に及ばず、政を以て有庫に接すと。此れの謂なり。

咸丘蒙問ふ、曰く、語に云ふ、盛德の士は、君得て臣とせず。父得て子せず。舜は南面して立ち、堯は諸侯を帥ゐて北面して之に朝す。瞽瞍も亦北面して之に朝す。舜は瞽瞍を見て、其の容蹙たる有り。孔子曰く、斯の時に於て、天下殆いかな。岌岌乎たりと。識らず此の語誠に然るか。孟子曰く、否、此れ君子の言に非ず。齊東野人の語なり。堯老いて舜攝するなり。堯典に曰く、二十有八載、放勳乃ち徂落す。百姓考妣を喪するが如く、三年四海八音を遏密す。孔子曰く、天に二日なく、民に二王なしと。舜既に天子たり、又天下の諸侯を帥ゐて、以て堯の三年の喪を爲さば、是れ二天子なり。咸丘蒙曰く、舜の堯を臣とせざるは則ち吾れ既に命を聞くを得たり。詩に云ふ、普天の下は、王土に非ざるなく、率土の濱は、王臣に非ざるなしと。而して舜既に天子と爲れり。敢へて問ふ、瞽瞍の臣に非ざるは如何。曰く、是の詩や、是の謂ひに非ざるなり。王事に勞して而して父母を養ふを得ざるなり。曰く、此れ王事に非ざること莫し、我れ獨り賢勞するなり。故に詩を說く者は文を以て辭を害せず、辭を以て志を害せず、意を以て志を逆ふ、是れ之を得たりと爲す。若し辭のみを以てせば、雲漢の詩に

三年四海遏密八音。孔子曰。天無二日。民無二王。舜既爲天子矣。又帥天下諸侯。以爲堯三年喪。是二天子矣。咸丘蒙曰。舜之不臣堯。則吾既得聞命矣。詩云。普天之下。莫非王土。率土之濱。莫非王臣。而舜既爲天子矣。敢問。瞽瞍之非臣如何。曰。是詩也非是之謂也。勞於王事。而不得養父母也。曰。此莫非王事。我獨賢勞也。故說詩者。不以文害辭。不以辭害志。以意逆志。是得之。如以辭而已矣。雲漢之詩曰。周餘黎民。靡有孑遺。信斯言也。是周無遺民也。孝子之至。莫大乎尊親。尊親之至。莫大乎以天下養。爲天子父。尊之至也。以天下養。養之至也。詩曰。永言孝思。孝思維則。此之謂也。書曰。祗載見瞽瞍。夔夔齊栗。瞽瞍亦允若。是爲三父。不得而子也。

曰く、周餘の黎民、孑遺あることなしと。斯の言を信ずれば是れ周に遺民なきなり。孝子の至は親を尊ぶより大なるはなし。親を尊ぶの至は天下を以て養ふより大なるはなし。天子の父となるは尊の至なり。天下を以て養ふは養ふの至なり。詩に曰く、永く言孝を思ふ。孝を思へば維れ則と。此の謂なり。書に曰く、載を祗みて瞽瞍に見ゆ。夔夔として齊栗す。瞽瞍も亦允若すと。是れ父得て子とせずとなすなり。

一 孟子の弟子なり 二 世の譏なり 三 天子の位なり 四 臣の位なり 五 舜の父 六 安んぜざるさまなり 七 危きなり 八 高山の今にも崩れんとするさま 九 齊の國の片田舎の百姓どもの傳說にして、由るに足ちず、齊は東方に近き片田舎なり、咸丘蒙は齊の人なる故にいふ 一〇 天子の事を代理するなり 一一 今の書經の虞書篇名 一二 舜の代理せし二十八年目なり 一三 堯なり 一四 堯御なり 一五 亡父、亡母なり 一六 音曲停止なり、金、石、絲、竹、匏、土、革、木を八音といふ 一七 詩經小雅北山の篇 一八 天が下は殘らずなり 一九 陸地 隅の海邊までなり 二〇 賢は、もと財多きことより轉じて勞苦の太だ多きなり 二一 文字の上なり 二二 一句の辭なり 二三 作者の志なり 二四 讀者の意なり 二五 迎へ取るなり 二六 詩經大雅篇 二七 周の餘りの人民なり 二八 獨立脫漏するなり、一人として生き殘りたる者なきなり 二九 詩經大雅下武の篇

三〇 長く孝行をするなり 三一 天下の法則となるなり 三二 今の書經の大禹謨 三三 事を敬むなり 三四 敬慎恐懼せるさまなり 三五 信じて順ふなり

萬章曰く、堯天下を以て舜に與ふと。諸れありや。孟子曰く、否、天子は天下を以て人に與ふること能はず。然らば則ち舜の天下を有つや、孰れか之を與ふる。曰く、天之を與ふ。天之を與ふとは諄諄然として之を命ずるか。曰く、否、天言ず。行と事とを以て之に示すのみ。曰く、行と事とを以て之に示すとは之を如何。曰く、天子能く人を天に薦む。天をして之に天下を與へしむること能はず。諸侯能く人を天子に薦む。天子をして之に諸侯を與へしむること能はず。大夫能く人を諸侯に薦む。諸侯をして之に大夫を與へしむること能はず。昔者堯、舜

興レ事示レ之而已矣。曰。以二行與レ事示之者一如レ之何。曰。天子能薦二人於一天。不レ能レ使二之天下一諸侯能薦二人於一天子一。不レ能レ使二天子一與レ之諸侯。大夫能薦二人於一諸侯一。不レ能レ使二諸侯一與レ之大夫。昔者堯薦二舜於一天一而天受レ之。暴二之於一民一而民受レ之。故曰。天不レ言。以二行與レ事示レ之而已

を天に薦めて天之を受け、之を民に暴はして民之を受く。故に曰く、天言はず。行と事とを以て之に示すのみと。曰く、敢て問ふ、之を天に薦めて天之を受け、之を民に暴して、民之を受くと如何。曰く、之をして祭を主らしめて百神之を享く。是れ天之を受くるなり。之をして事を主らしめて事治まり、百姓之に安んず。是れ民之を受くるなり。天之を與へ、人之を與ふ。故に曰く、天子は天下を以て人に與ふること能はずと。舜、堯に相たること二十有八載、人の能く爲す所に非ず、天なり。堯崩じ、三年の喪畢りて、舜、堯の子に南河の南に避く。天下の諸侯朝覲する者堯の子に之かずして舜に之き、訟獄する者堯の子に之かず して舜に之き、謳歌する者堯の子を謳歌せずして、舜を謳歌す。故に曰く、天なり。夫れ然る後に中國に之きて天子の位を踐めり。而るを堯の宮に居り堯の子に逼らば是れ簒へるなり。天の與ふるにあらざるなり。太誓に曰く、天の視るは我民に自つて視る、天の聽くは我民に自つて聽くとは、此れの謂なり。

矣。曰。敢問。薦二之於一天一而天受レ之。暴二之於一民一而民受レ之。如何。曰。使二之主一レ祭。而百神享レ之。是天受レ之。使二之主一レ事。而事治百姓安レ之。是民受レ之也。天與レ之。人與レ之。故曰。天子不レ能レ以二天下一與レ人。舜相レ堯二十有八載。非二人之所一能爲一也。天也。堯崩。三年之喪畢。舜避二堯之子於一南河之南一。天下諸侯朝覲者。不レ之二堯之子一而之レ舜。訟獄者。不レ謳二歌堯之子一而謳二歌舜一。故曰。天也。夫然後之二中國一踐二天子位一焉。而居二堯之宮一。逼二堯之子一。是簒也。非二天與一也。太誓曰。天視自二我民一視。天聽自二我民一聽。此之謂也。

一 丁寧に語るさま　二 舜の身に行ふこと　三 他の之れを受くること　四 顯はし示すこと　五 受納するなり　六 丹朱を云ふ　七 帝堯の都の南　八 參朝奉伺す　九 公事訴訟をする者なり　一〇 君の德を歌ふ　一一 書經の周書篇名　一二 從ふなり

萬章問曰。人有レ言。至レ於レ禹而德衰。不レ傳レ於賢。而傳レ於子。有レ諸。孟子曰。否。不レ然也。天與レ賢則與。賢。天與レ子則與。子。

萬章問ひて曰く、人言へることあり。禹に至つて德衰へ、賢に傳へずして子に傳ふと。諸れありや。孟子曰く、否、然らざるなり。天賢に與ふれば則ち賢に與へ、天子に與ふれば則ち子に與ふ。昔者舜禹を天に薦むること十有七年、舜崩じ、三年の喪畢つて、禹、舜の子に陽城に避く。天下の民之に從ふこと、堯崩ずるの後、堯の子に從はずして舜に從ふが若し。禹、益を天に薦むること七年、

與レ子。昔者舜薦二禹於レ天。十有七年、舜崩。三年之喪畢。禹避三舜之子於二陽城一。天下之民從レ之若レ堯崩之後不レ從二堯之子一。而從二舜也一。禹薦二益於レ天。七年。禹崩。三年之喪畢。益避三禹之子於二箕山之陰一。朝覲訟獄者不レ之レ益而之啓。曰。吾君之子也。謳歌者不レ謳二歌益一。而謳二歌啓一。曰。吾君之子也。丹朱之不肖。舜之子亦不肖。舜之相レ堯。禹之相レ舜也。歷レ年多。施二澤於レ民久。啓賢能敬。承二繼禹之道一。益之相レ禹也。歷レ年少。施二澤於レ民未レ久。舜禹益相去久遠。其子之賢不肖皆天也。非二人之所一能爲一也。莫二之爲一而爲者。天也。莫二之致一而至者。命也。匹夫而有二天下一者。德必若舜禹。而又有二天子薦レ之者一。故仲尼不レ有二天下一。伊尹相レ湯。以王レ於天下。湯崩。太丁未レ立。外丙二年。仲壬四年。太甲顚覆二湯之典刑一。伊尹放二之於桐一三年。太甲悔レ過。自怨自艾。於桐處レ仁遷レ義三年。以聽二伊尹之訓一レ己也。復二歸于レ亳。周公之不レ有二天下一。猶二益之於レ夏。伊尹之於レ殷也。孔子曰。唐虞禪。禹、崩じ三年の喪畢りて、益、禹の子に箕山の陰に避く。朝覲訟獄する者益に之かずして啓に之く。曰く、吾が君の子なりと。謳歌する者、益を謳歌せずして啓を謳歌す。曰く、吾が君の子なりと。丹朱の不肖、舜の子亦不肖、舜の堯に相たる、禹の舜に相たる、年を歷ること多く、澤を民に施すこと久し。啓賢にして能く敬んで禹の道を承繼す。益の禹に相たる年を歷ること少く、澤を民に施すこと未だ久しからず。舜・禹・益相去ること久遠、其子の賢不肖は皆天なり。人の能く爲す所に非ざるなり。之を爲す莫くして爲る者は天なり。之れを致す莫くして至る者は命なり。匹夫にして天下を有つ者は、德必ず舜・禹の若くにして又天子の之を薦むる者あり。故に仲尼は天下を有たず。世を繼ぎて天下を有つ。天の廢する所必ず桀紂の若くなる者なり。故に益・伊尹・周公は天下を有たず。伊尹、湯に相として以て天下に王たらしむ。湯崩じて太丁未だ立たず。外丙は二年、仲壬は四年。太甲、湯の典刑を顚覆す。伊尹之を桐に放くること三年、太甲過を悔い、自ら怨み自ら艾めて、桐に於て仁に處り義に遷る三年、以て伊尹の己を訓ふるを聽く。亳に復歸す。周公の天下を有たざるは猶ほ益の夏に於ける、伊尹の殷に於けるがごときなり。孔子曰く、唐虞は禪り、夏・殷・周は繼ぐ、其義一なりと。

一 舜が禹をして政を攝せしむること十七年となり 二 堯崩なり 三 嵩山の下に在り 四 同上、陰は山の北なり 五 禹王の輔佐なり 六 禹王の子 七 堯の子 八 招きて來すの義 九 湯の太子の太丁が位に立たずして死す 一〇 太丁の弟の外丙の、位に在ること二年 一一 外丙の弟の仲壬の、位に在ること四年 一二 太丁の子なり 一三 湯王の制度を破壞す 一四 地の名にして、湯王の墓のある所なり 一五 流罪にするが如き意 一六 自ら其の惡行を怨み改む 一七 自ら治めて過ちを改む 一八 教訓の意 一九 湯王の都の亳へ歸ちしむ 二〇 位を授くるなり、禪譲して位を授く、故に讓位の意に用ふ 二一 繼嗣に繼がしむ 二二 其義は何れも皆民を安んずるにありと

萬章問曰。人有レ言。伊尹以二割烹一要レ湯。有レ諸。孟子曰。否。不レ然。伊尹耕レ於二有莘之野一。而樂二堯舜之道一焉。非二其義一也。非二其道一也。祿レ之以二天下一。弗レ顧也。繫馬千駟。弗レ視也。非二其義一也。非二其道一也。一介不二以與レ人。一介不二以取一諸人一。湯使二人以幣聘一之。囂囂然曰。我何以二湯之聘幣一爲

萬章問うて曰く、人言へることあり。伊尹割烹を以て湯に要むと。諸れありや。孟子曰く、否、然らず。伊尹有莘の野に耕して堯舜の道を樂しむ。其義にあらず、其道にあらざれば、之に祿するに天下を以てするも顧ざるなり。繫馬千駟も視ざるなり。其義にあらず、其道にあらざれば、一介も以て人に與へず、一介を以て諸れを人に取らず、湯人をして幣を以て之を聘せしむ。囂囂然として曰く、我何ぞ湯の聘幣を以て爲さんや。我豈に畎畝の中に處り、是に由りて以て堯舜の道を樂むに若かんや。湯三たび往きて之を聘せしむ。旣にして幡然として改めて曰く、我畎畝の中に處り、是に由りて以て堯舜の道を樂まんよりは、吾豈に是の君をして堯舜の君たらしむるに若かんや。吾豈に是民をして堯舜の民たらしむるに若かんや。吾豈に吾身に於て親しく之を見るに若かんや。天の此民を生ずるや、先知をして後知を覺さしめ、先覺をして後覺を覺さしむ。予は天民の先覺なる者なり。予將に斯の道を以て、斯の民を覺さんとするなり。予之を覺すに

非ずして誰ぞやと。天下の民、匹夫匹婦も堯舜の澤を被らざる者あれば、己推して之を溝中に內るゝが若しと思ふ。其自ら任ずるに天下の重きを以てすること此の如し。故に湯に就きて之に說くに夏を伐ち民を救ふを以てす。吾未だ己を枉げて、人を正す者を聞かざるなり。況んや己を辱しめ以て天下を正す者をや。聖人の行ひ同じからざるなり。或ひは遠く、或ひは近く、或ひは去り、或ひは去らず、其身を潔くするに歸するのみ。吾其の堯舜の道を以て湯に要むるを聞く。未だ割烹を以てすることを聞かざるなり。伊訓に曰く、天誅攻を造すは牧宮より始めと。朕亳より載むと。

一 食物の料理なり 二 殷の湯王 三 仕官を求む 四 國名 五 馬車に繫ぐ馬四千匹 六 个に同じ、一箇なり 七 禮の進物にして、玉帛の類なり 八 謂待す 九 無欲にして、自得せるさまなり 一〇 田舍の意 一一 思ひ直すこと 一二 湯王をいふ 一三 人より先に知りたる者なり 一四 後れて未だ知るに至らざる者 一五 人より先に覺りたる者 一六 覺るにおくれたる者 一七 天の生ずる人民なり 一八 此の仁義の道なり 一九 庶民のこと、一夫一婦 二〇 仕へて 二一 山林にかくれたる者もあれば、廟堂に立ちたる者もあり 二二 君の御

民之先覺者也。予將下以二斯道一覺中斯民上也。非二予覺一之而誰也。思下天下之民匹夫匹婦。有不被二堯舜之澤一者。若己推而內之溝中。其自任以天下之重一如此。故就湯而說之。以二伐夏救一民。吾未聞枉一己而正一人者也。況辱一己以正天下一者乎。聖人之行不同也。或遠或近。或去或不去。歸潔二其身一而已矣。吾聞下其以二堯舜之道一要中湯。未聞以二割烹一也。伊訓曰。天誅造攻自二牧宮一。朕載自亳。

側を去りたゝる者もあれば、去らざる隱者もあり　二三 今書經商書の篇名　二四 造は作なり　二五 桀王の宮殿なり　二六 我れは殷の都の亳より起りて、之れを征伐することを始むと

萬章問曰。或謂。孔子於衛主二癰疽一。於齊主二侍人瘠環一。有諸乎。孟子曰。否。不然也。好事者爲之也。於衛主二顏讎由一。彌子之妻。與二子路之妻一。兄弟也。彌

萬章問ひて曰く、或ひと謂ふ、孔子衛に於ては癰疽を主とし、齊に於ては侍人瘠環を主とせりと。諸れありや。孟子曰く、否、然らざるなり。事を好む者之を爲すなり。衛に於て顏讎由を主とす。彌子の妻と子路の妻とは兄弟なり。彌子、子路に謂つて曰く、孔子我を主とせば、衛の卿は得べしと。子路以て告ぐ。孔子曰く、命ありと。孔子進むに禮を以てし、退くに義を以てす。之を得ると得ざると命ありと曰へり。而るに癰疽と侍人瘠環とを主とせば、是れ義なく命なきなり。孔子魯衛に悅ばれず。宋の桓司馬將に要して之を殺さんとするに遭ひ、微服して

子謂二子路一曰。孔子主二我一。衛卿可得也。子路以告。孔子曰。有命。孔子進以禮。退以義。得之不得。曰有命。而主二癰疽與二侍人瘠環一。是無義無命也。孔子不悅於魯衛。遭二宋桓司馬一。將要而殺之。微服而過宋。是時孔子當阨。主二司城貞子一。陳侯周臣。吾聞觀二近臣一。以二其所一爲主。若孔子主二癰疽與侍人瘠環一。何以爲二孔子一。

宋を過ぐ。是の時孔子阨に當れり。司城貞子陳侯周の臣となるを主とせり。吾れ聞く、近臣を觀るには、其の主となる所を以てし、遠臣を觀るには其の主となる所を以てすと。若し孔子、癰疽と侍人瘠環とを主とせば、何を以てか孔子となさん。

一 癰疽の醫者　二 近侍にして姦佞、名は環と云ひし人　三 宿の主人と頼むなり、近臣なり　四 物好きの者なり　五 衛 賢大夫なり　六 衛の靈公の臣、彌子瑕なり　七 孔子の弟子　八 姉妹なり　九 殆や衛の君の御氣には入らざりし　一〇 宋の大夫の桓魋なり　一一 待ち設けて擊たんとす　一二 微賤の衣服を著るなり　一三 衆雖に遭ふなり、主を擇ぶ暇なし　一四 陳の人なり　一五 陳の潛公にして、名は越といふ、忠臣なり　一六 自國の家來なり、之を見るには、その者が如何なる遠客の主となるかを觀察す　一七 他國より來る家來なり　一八 如何なる家に來り寓するかを觀察す

萬章問曰。或曰。百里奚自爲二秦養一牲

萬章問ひて曰く、或ひと曰く、百里奚自ら秦の牲を養ふ者に五羊の皮に鬻ぎ、牛を食うて以て秦の繆公に要むと。信なるか。孟子曰く、否、然らず。事を好む

者五羊之皮。食牛以要秦繆公。信乎。孟子曰。否。不然。好事者爲之也。百里奚虞人也。晉人以垂棘之璧與屈產之乘。假道於虞以伐虢。宮之奇諫。百里奚不諫。知虞公之不可諫而去之。秦年已七十矣。曾不知以食牛干秦繆公之爲汙也。可謂智乎。不可諫而不諫。

者之を爲すなり。百里奚は虞人なり。晉人垂棘の璧と屈產の乘を以て道を虞に假りて以て虢を伐つ。宮之奇諫む。百里奚は諫めず。虞公の諫む可からざるを知りて去りて、秦に之く。年已に七十なり。曾て牛を食ふを以て秦の繆公に干むる汙たるを知らざるや、智と謂ふ可けんや。諫む可からずして諫めず、不智と謂ふ可けんや。虞公の將に亡びんとするを知りて先づ之を去る、不智と謂ふ可からざるなり。時に秦に舉げられ繆公の與に行ふある可きを知りて之を相く、不智と謂ふ可けんや。秦を相けて其君を天下に顯はし、後世に傳ふ可くす、不賢にして之を能くせんや。自ら鬻ぎて以て其君を成すは、鄉黨の自ら好みする者も爲さず、而るを賢者之を爲すと謂はんや。

一 百里は姓、奚は名なり。虞の國の賢臣　二 自ら其の身を賣りて、秦の國の犧牲に用ひる獸類を飼ふ家の爲めに、牛を飼ひたるなり　三 國名　四 垂棘の地より出づる璧　五 屈の地より產する馬　六 道路を借りて軍を通すなり　七 國の名なり　八 虞の賢臣なり　九 無理に求むるなり　一〇 卑劣なる行ひなり　一一 村里の自ら身を好しとする者さへも爲さない

可謂不智乎。知虞公之將亡。而先去之。不可謂不智也。時舉於秦知繆公之可與有行也而相之。可謂不智乎。相秦而顯其君於天下。可傳於後世。不賢而能之乎。自鬻以成其君。鄉黨自好者不爲。而謂賢者爲之乎。

孟子曰。伯夷日不視二惡色一。耳不聽二惡聲一。非二其君一不事。非二其民一不使。治則進。亂則退。横政之所出。横民之所止。不忍居也。思與鄉人處。如以朝衣朝冠坐於塗炭也。當紂之時。居北海之濱。

卷之十

萬章章句下

孟子曰く、伯夷は目に惡色を視ず。耳に惡聲を聽かず。其君に非ざれば事へず。其民に非ざれば使はず。治まれば則ち進み、亂るれば則ち退く。横政の出づる所、横民の止る所、居るに忍びざるなり。思へらく鄉人と處ることは朝衣朝冠を以て塗炭に坐するが如しと。紂の時に當りて、北海の濱に居り以て天下の清むを待つ。故に伯夷の風を聞く者は頑夫も廉に、懦夫も志を立つることあり。伊尹曰く、何れに事へてか君に非ざる。何れを使うてか民に非ざる。治まるにも亦進み亂るゝにも亦進む。曰く、天の斯の民を生ずるや、先知をして後知を覺さしめ、先覺をして後覺を覺さしむ。予は天民の先覺なる者なり。予れ將に

以待二天下之清一也。故聞二伯夷之風一者。頑夫廉。懦夫有立志。伊尹曰。何事非君。何使非民。治亦進。亂亦進。曰。天之生二斯民一也。使下先知覺後知。使下先覺覺後覺。予天民之先覺者也。予將下以此道覺中此民上也。思天下之民。匹夫匹婦。有下不與二被堯舜之澤一者。若三己推而内二之溝

此道を以て此民を覺さしめんとするなり。思へらく天下の民匹夫匹婦も堯舜の澤を與り被らざる者あれば、己れ推して之を溝中に内るゝが若しと。其自ら任ずるに天下の重きを以てすればなり。柳下惠は汙君を羞ぢず、小官を辭せず、進みて賢を隱さず、必ず其道を以てす。遺佚して怨みず、阨窮して憫へず。鄉人と處り、由由然として去るに忍びざるなり。爾は爾たり、我は我たり。我が側に袒裼裸裎すと雖も、爾焉んぞ能く我を浼さんやと。故に柳下惠の風を聞く者は、鄙夫も寛に、薄夫も敦し。孔子の齊を去るや。淅を接して行る。魯を去るに曰く、遲遲として吾れ行く。父母の國を去るの道なりと。以て速かなる可くして速かに、以て久しかる可くして久しく、以て處るべくして處り、以て仕ふべくして仕ふるは孔子なり。

● 此一篇の文は公孫丑上の「孟子曰、伯夷非二其君一不レ事」の章に類似せる所多し ㊁ 正しかちざる色、所謂正色以外の色 ㊂ 正しかちざる聲なり、鼓の鄭聲のきをいふ ㊃ 無理なる政事 ㊄ 非道なる人民 ㊅ 正髮して塵埃中に座するが如く不快に思ふとと、公孫丑上に既出。以下の諸語概ね既出なり ㊆ 此一句萬章上に既出

中。其自任以天下之重也。柳下惠不羞汙君。不辭小官。進不隱賢。必以其道。遺佚而不怨。阨窮而不憫。與鄉人處。由由然不忍去也。爾爲爾。我爲我。雖袒裼裸裎於我側。爾焉能浼我哉。故聞柳下惠之風者。鄙夫寬。薄夫敦。孔子之去齊。接淅而行。去魯曰。遲遲吾行也。去父母國之道也。可以速而速。可以久而久。可以處而處。可以仕而仕。孔子也。

㊀ 水に漬けたる米を手にて掬ひ取るなり ㊁ 緩かなるさま ㊂ 緩かなり

孟子曰。伯夷聖之清者也。伊尹聖之任者也。柳下惠聖之和者也。孔子聖之時者也。孔子之謂集大成也。集大成也者。金聲而玉振之也。金聲也者。始條理也。玉振之也者。終條理也。始條理者。智之事也。終條理者。聖之事也。智譬則巧也。聖譬則力也。由射於百步之外也。其至爾力也。其中非爾力也。

孟子曰く、伯夷は聖の清なる者なり。伊尹は聖の任なる者なり。柳下惠は聖の和なる者なり。孔子は聖の時なる者なり。孔子は之を集めて大成すと謂ふ。集めて大成すとは、金聲り玉之を振むるなり。金聲るとは條理を始むるなり。玉之を振むとは條理を終ふるなり。條理を始むるは智の事なり、條理を終ふるは聖の事なり。智は譬へば則ち巧なり。聖は譬へば則ち力なり。由ほ百歩の外に射るがごとし。其至るは爾の力なり。其中るは爾の力に非ざるなり。

㊀ 清潔にして、濁りなきなり ㊁ 天下の事を自ら引受くる ㊂ 和樂なる事 ㊃ 其の時々の宜しきを得たるなり ㊄ 伯夷の清と、伊尹の任と、柳下惠の和とを、一身に集めて、其の德を大成したり ㊅ 音樂は、先づ鐘を撃ちて、聲を宣べ、後に磬を撃ちて聲を收むるなり ㊆ 樂音の脈絡を始むるなり ㊇ 弓を射る技術なり ㊈ 弓を射る力なり ㊉ 的に届くなり、卽ち孔子は巧力共に有して聰智を兼備せるなり、他の伯夷伊尹等は力餘り有れば巧たらず巧あれば力足らざるなり

北京錡問曰。周室班爵祿一也。如之何。孟子曰。其詳不可得聞也。諸侯惡其害己也。而皆去其籍。然而軻也嘗聞其略也。天子一位。公一位。侯一位。伯一位。子男同一位。凡五等也。君一位。卿一位。大夫

北京錡問ひて曰く、周室に爵祿を班すること之を如何。孟子曰く、其詳なることは、聞くを得べからざるなり。諸侯其の己を害するを惡みて皆其籍を去る。然れども軻や嘗て其略を聞けり。天子一位、公一位、侯一位、伯一位、子男同じく一位、凡て五等なり。君一位、卿一位、大夫一位、上士一位、中士一位、下士一位、凡て六等。天子の制地方千里を公侯は皆方百里、伯は七十里、子男は五十里、凡て四等。五十里なること能はずして天子に達せずして諸侯に附くを附庸と曰ふ。天子の卿は地を受くること侯に視ひ、大夫は地を受くること伯に視ひ、元士は地を受くること子男に視ふ。大國は地方百里、君は卿の祿を十にし、卿の祿は大夫を四にし、大夫は上士に倍し、上士は中士に倍し、中士は下士に倍し、下士

一位。上士一位。中士一位。下士一位。凡六等。天子之制。地方千里。公侯皆方百里。伯七十里。子男五十里。凡四等。不能五十里。不達於天子。附於諸侯。曰附庸。天子之卿受地視侯。大夫受地視伯。元士受地視子男。大國地方百里。君十卿祿。卿祿四大夫。大夫倍上士。上士倍中士。中士倍下士。下士與庶人在官者同祿。祿足以代其耕也。次國地方七十里。君十二卿祿。卿祿三大夫。大夫倍上士。上士倍中士。中士倍下士。下士與庶人在官者同祿。祿足以代其耕也。小國地方五十里。君十卿祿。卿祿二大夫。大夫倍上士。上士倍中士。中士倍下士。下士與庶人在官者同祿。祿足以代其耕也。耕者之所獲。一夫百畝。百畝之糞。上農夫食九人。上次食八人。中食七人。中次食六人。下食五人。庶人在官者。其祿以是爲差。

は庶人官に在る者と祿を同じくす。祿以て其耕に代ふるに足れり。次國は地方七十里、君は卿の祿を十にし、卿の祿は大夫を三にし、大夫は上士に倍し、上士は中士に倍し、中士は下士に倍し、下士は庶人の官に在る者と祿を同じくす。祿を以て其耕に代ふるに足れり。小國は地方五十里、君は卿の祿を十にす、卿の祿は大夫を二にす、大夫上士に倍す、上士は中士に倍す、中士下士に倍す、下士は庶人の官に在る者と祿を同じくす、祿は以て其耕に代ふるに足る。耕す者の獲る所、一夫百畝、百畝の糞へる、上農夫は九人を食ひ、上の次は八人を食ひ、中は七人を食ひ、中の次は六人を食ひ、下は五人を食ふ。庶人の官にある者は、其祿是を以て差となす。

一 衞の人 二 周の朝廷で銜位や秩祿を次第するなり 三 周の制度の已れの所爲を妨害するを恐れ 四 銜祿の書類を燒き棄てたるなり 五 一つの階級なり 六 畿内の小國を子といひ、畿外の小國を男といひ、其の男爵に在る者は、大小となく皆子といふ 七 天子諸侯を共にいふ 八 直接に其の姓名及び貢賦を天子に進達すること能はざるなり 九 準ずるなり 一〇 上士なり 一一 公侯の國 一二 十倍 一三 四倍 一四 二倍なり 一五 伯の國なり 一六 三倍なり 一七 子男の國なり 一八 二倍なり 一九 得るなり 二〇 肥料を施すなり

萬章問曰。敢問友。孟子曰。不挾長。不挾貴。不挾兄弟而友。友也者。友其德也。不可以有挾也。孟獻子百乘之家也。有五人焉。樂正

萬章問ひて曰く、敢て友を問ふ。孟子の曰く、長を挾まず、貴を挾まず、兄弟を挾まずして友たり。友とは其德を友とするなり。以て挾むことある可からざるなり。孟獻子の百乘の家、友五人あり。樂正裘・牧仲、其三人は則ち予之を忘れたり。獻子が此五人者と友たるや、獻子の家を無しとするなり。此五人の者も亦獻子の家ありとすれば、則ち之と友たらず。惟百乘の家のみ然りとなすに非ざるなり、小國の君と雖も亦之れなり。費の惠公の曰く、吾子思に於ては則

襄牧仲其三人則予忘之矣獻子之與二此五人者一友也。無二獻子之家一者也。此五之者亦有二獻子之家一則不二與之友一矣。非二惟百乘之家一爲レ然也。雖二小國之君一亦有之費惠公曰。吾於二子思一則師之矣。吾於二顏般一則友之矣。王順長息。則事レ我者也。非二惟小國之君一爲レ然也。雖二

ち之を師とし、吾顏般に於ては則ち之を友とし、王順・長息は則ち我に事ふる者なり。惟小國の君のみ然りと爲すに非ざるなり、大國の君と雖も亦之れあり。晉の平公の亥唐に於けるや、入れと云へば則ち入り、坐せと云へば則ち坐し、食へと云へば則ち食ふ。疏食菜羹と雖も、未だ嘗て飽かずんばあらざるなり。蓋し敢て飽かずんばあらず。然れども此に終るのみ。與に天位を共にせざるなり、與に天職を治めざるなり。與に天祿を食せざるなり。士の賢者を尊ぶや、王公の賢を尊ぶに非ざるなり。舜堯を見ゆ。帝、甥を貳室に館し、亦舜を饗して迭に賓主となる。是れ天子にして、匹夫を友とするなり。下を用つて上を敬するを貴ぶと謂ふ。上を用つて下を敬する、之を賢を貴ぶと謂ふ。貴を貴ぶと賢を貴ぶと其義一なり。

一 自ら年齢の高きを念ぜず　二 身分の貴き也　三 兄弟一族の富貴なる　四 自負する意　五 魯の賢大夫の仲孫蔑なり　六 獻子富貴の背景あるを忘れて赤裸々の人となるなり　七 獻子が其の家の富貴なることを恃わ心あらば　八 小子の名なり　九 曾の賢人なり　一〇 玄米の飯　一一 野菜の汁物なり　一二 上るなり、謁見の

大國之君一亦有レ之。晉平公之於二亥唐一也。入云則入。坐云則坐。食云則食。雖二疏食菜羹一未レ嘗不レ飽。蓋不二敢不一レ飽也。然終レ於此而已矣。弗三與共二天位一也。弗三與治二天職一也。弗三與食二天祿一也。士之尊二賢者一也。非二王公之尊一レ賢也。舜尚見レ帝。帝館二甥于二貳室一。亦饗レ舜迭爲二賓主一。是天子而友二匹夫一也。用レ下敬レ上。謂二之貴一レ貴。用レ上敬レ下。謂二之尊一レ賢。貴レ貴尊レ賢。其義一也。

身分より上なり　一三 甥なり、舜を指す　一四 控へ御殿なり　一五 逗留せしむるなり　一六 互に　一七 客と主人となり　一八 そのわけあひはおなじ

萬章曰。敢問。交際何心也。孟子曰。恭也。曰。卻レ之。卻レ之爲二不恭一何哉。曰。尊者賜レ之。曰其所レ取之者。義乎不義乎。而後受レ之。以レ是爲二不恭一。故弗レ卻也。曰。

萬章曰く、敢て問ふ。交際は何の心ぞや。孟子の曰く、恭なり。曰く、之を卻けん。之を卻くるを不恭となすは何ぞや。曰く、尊者之を賜ふに、其の取る所の者は義か不義かと曰ひて而る後之を受く。是を以て不恭となす。故に卻けざるなり。曰く、請ふ辭を以て之を卻くること無く、心を以て之を卻く。其の諸を民に取る不義なりと曰ひて、他の辭を以て受くること無きは不可ならん。曰く、其交るや道を以てし、其接するや禮を以てせば、斯に孔子之を受く。萬章曰く、今人を國門の外に禦むる者あらん。其交るや道を以し、其餽るや禮を以てせば斯に

請。無二以レ辭卻レ之。以レ心卻之。曰下其取二諸民一之不義上也。而以二他辭一無レ受不可乎。曰。其交也以レ道。其接也以レ禮。斯孔子受レ之矣。萬章曰。今有下禦三人於二國門之外一者上。其交也以レ道。其餽也以レ禮。斯可レ受レ禦與。曰。不可。康誥曰。殺二越人于貨一閔不レ畏レ死。凡民罔レ不レ譈。是不レ待レ教。而誅者也。殷受レ夏。周受レ殷。所レ不レ辭也。於レ今爲レ烈。如レ此何其受レ之。曰。今之諸侯取二之於民一也。猶レ禦也。苟善二其禮際一矣。斯君子受レ之。敢問。何說也。曰。子以爲有二王者作一。將比二今之諸侯一而誅之乎。其教レ之不レ改。而後誅レ之乎。夫謂下非二其有一而取レ之者盜也上。充レ類至二義之盡一也。孔子之仕レ行。是以未嘗三年淹二一物一而行二其道一也。孔子之仕也。爲レ魯。魯人獵較。孔子亦獵較。獵較猶ほ可なり。而況んや其賜を受くるをや。曰。然らば則ち孔子の仕ふるや、道を事とするに非ざるか。曰。道を事とするなり。道を事とせば奚ぞ獵較するや。曰。孔子先づ簿して祭器を正し、四方の食を以て簿正に供せず。曰。奚ぞ去らざるや。曰。之が兆を爲すなり。兆以て行ふに足れり。

禦むるを受くべきか。曰。不可なり。康誥に曰く、人を貨に殺越し閔として死を畏れず。凡そ民讐まざること罔し。是れ教を待たずして誅する者なり。殷は夏に受け、周は殷に受く、辭せざる所なり。今に於て烈こなす。此を如何ぞ其れ之を受けん。曰く、今の諸侯は之を民に取ること猶ほ禦むるがごときなり。苟も其禮際を善くせば、斯に君子之を受く。敢て問ふ、何の說ぞや。曰く、子以爲らく、王者作るあらば、今の諸侯を比して之を誅せんか。其れ之を教へて改めずして而る後に之を誅せんか。夫れ其有に非ずして、之を取る者は盜なりと謂はば、類を充てて義の盡くるに至らしむ。孔子の魯に仕ふるや、魯人獵較すれば、孔子も亦獵較す。獵較猶ほ可なり、而るを況んや其賜を受くるをや。曰く、然らば則ち孔子の仕ふるや、道を事とするに非ざるか。曰く、道を事とするなり。道を事とせば奚ぞ獵較するや。曰く、孔子先づ簿して祭器を正し、四方の食を以て簿正に供せず。曰く、奚ぞ去らざるや。曰く、之が兆を爲すなり、兆以て行ふに足れり。

孔子に行可を見るの仕あり、際可の仕あり、公養の仕あり。季桓子に於ては行可を見るの仕なり。衛の靈公に於ては際可の仕なり。衛の孝公に於ては公養の仕なり。

一 進物の遣り取りをして交はることを交際といふ 二 進物を返却す 三 失禮なり 四 陽貨の贈りし豚を受けし類、論語陽貨篇にも見ゆ 五 人を國都の門外で追返して貨物を奪ひ取り、而して後に禮を以て其人に交り荷物を返却せば之を受けますか 六 今の書經周書の篇の名 七 人の貨物はしさに人を殺して、死體を投げ棄てゝ 八 平氣で死を畏れざる惡人 九 惡み憎まぬことなきなり 一〇 君の命令を待たずして殺すべきもの 一一 殷周は此の法を受けて、三代共に一應の上申にも及ばず、直ちに之れを誅戮するなり、一說に今日は、先王の法は、多く廢壞したれども、此の法のみは歴然として存在せりと 一二 どうして進物を受納すべき 一三 禮儀交際なり 一四 連ぬるなり 一五 盜賊の種類を推して、名目の行き止まりまで論じ詰むるなり 一六 獲物の多少を比較して、勝敗を決す 一七 道を行ふことを專事とす 一八 帳面をもて、宗廟の祭りに用ゐる器具の員數を正しく定むるなり 一九 四方の國々の求め難き食物をもて、帳面上の正數に供せず 二〇 兆は、事の端なり、道を行ふ端を試みて人に示す 二一 人の後に其の道を行はざるなり 二二 止まるなり 二三 其の道の行はるべきことを見るなり 二四

於魯也。魯人獵較。孔子亦獵較。獵較猶可。而況受二其賜一乎。曰。然則孔子之仕也。非レ事レ道與。曰。事レ道也。事レ道奚獵較也。曰。孔子先簿正二祭器一。不レ以二四方之食一供中簿正。曰。奚不レ去也。曰。爲二之兆一也。兆足二以行一矣。而不レ行而後去。是以未嘗有レ所下終二三年一淹上也。孔子有下見二行可一之仕上。有二際可之仕一。有公養之仕。於二季桓一見二行可一之仕也。於衛靈公一。際可之仕也。於二衛孝公一。公養之仕也。

國君に禮敬をもて接待せらるゝなり　二五　賢者を養ふ資粮をもて養はる　二六　魯の卿の季孫斯なり　二七　此の邪春秋にも、史記にも所見なし、或は出公輒の事ならむかといへり

孟子曰。仕非レ爲レ貧也。而有レ時乎爲レ貧。娶レ妻非レ爲レ養也。而有レ時乎爲レ養。爲レ貧者。辭レ尊居レ卑。辭レ富居レ貧。辭レ尊居レ卑。辭富居レ貧。惡乎宜乎。抱關擊柝。孔子

孟子の曰く、仕ふるは貧の爲めに非ざるなり。而も時ありてか貧の爲めにす。妻を娶るは養の爲めに非ざるなり。而も時ありてか養の爲めにする者は尊を辭して卑に居り、富を辭して貧に居る。尊を辭して卑に居り、富を辭して貧に居る。惡れか宜しきや。抱關擊柝なり。孔子嘗て委吏となる。曰く、會計當るのみ。嘗て乘田となる。曰く、牛羊茁として壯長するのみ。位卑くして言高きは罪なり。人の本朝に立ちて道行はれざるは恥なり。

一　尊き位を辭退して、卑しき位に居る　二　關所の番人　三　拍子木を擊ちて、夜廻はりをする役　四　藏番な

嘗爲二委吏一矣。曰。會計當而已矣。嘗爲二乘田一矣。曰。牛羊茁壯長而已矣。位卑而言高罪也。立レ乎二人之本朝一。而道不レ行恥也。

り　五　勘定なり　六　牧場の番人　七　生長するさまなり　八　肥え太りて、成長するなり　九　人は君なり、本朝は其の朝廷なり

萬章曰。士之不レ託二諸侯一。何也。孟子曰。不レ敢也。諸侯失レ國。而後託レ於二諸侯一。禮也。士之託レ於二諸侯一。非レ禮也。萬章曰。君饋二之粟一。則受レ之乎。曰。受レ之。受レ之何義也。曰。君之於レ氓也。固周レ之。曰。周レ之則受。賜レ之則不レ

萬章曰く、士の諸侯に託せざるは何ぞや。孟子曰く、敢てせざるなり。諸侯國を失ひて而る後に諸侯に託す、禮なり。士の諸侯に託するは禮に非ざるなり。萬章曰く、君之に粟を饋れば則ち之を受くるか。曰く、之を受けん。之を受くるは何の義ぞや。曰く、君の氓に於けるや、固より之を周ふ。曰く、之を周へば則ち受く、之を賜へば則ち受けざるは何ぞや。曰く、敢てせざるなり。曰く、敢て問ふ、其の敢てせざるは何ぞや。曰く、抱關擊柝の者皆常職ありて以て上に食はる。常の職無くして上より賜る者は以て不恭と爲すなり。曰く、君之を饋れば則ち之を受く。識らず、常に繼ぐ可きか。曰く、繆公の子思に於けるや、亟〻問うて亟〻鼎肉を饋る。子思悅ばず。卒に於て使者を摽きて諸れを大門

受。何也。曰。不敢也。曰。敢問。其不敢何也。曰。抱關擊柝者皆有常職。以食於上。無常職而賜於上者。以爲不恭也。曰。君餽之則受之。不識可常繼乎。曰。繆公之於子思也。亟問。亟餽鼎肉。子思不悅。於卒也。摽使者出。諸大門之外。北面稽首再拜。而不受。曰。今而後知君之犬馬畜伋。蓋自是臺無餽也。悅賢不能養也。可謂悅賢乎。曰。敢問。國君欲養君子。如何斯可謂養矣。曰。以君命將之。再拜稽首而受。其後廩人繼粟。庖人繼肉。不以君命將之。子思以爲。鼎肉使己僕僕爾亟拜也。非養君子之道也。堯之於舜也。使其子九男事之。二女女焉。百官牛羊倉廩備以養之於畎畝之中。後舉而加諸上位。故曰。王公之尊賢者也。

萬章曰。敢問。不見諸侯何義也。孟子曰。在國曰市井之臣。在野曰卿。卿士之臣。皆在王畿。庶人不傳質爲臣。不敢見於諸侯。禮也。萬章曰。庶人召之。

の外に出し、北面稽首再拜して受けずして曰く、今にして後、君の伋を犬馬畜す(一〇)るを知ると。蓋し是れより臺も餽ること無し。賢を悅びて舉ぐること能はず。又養ふこと能はざるなり。賢を悅ぶと謂ふ可けんや。曰く、敢て問ふ、國君君子を養はんと欲す、如何にせば斯に養ふと謂ふべきと。曰く、君命を以て之を將ひ、再拜稽首して受く。其後廩人粟を繼ぎ、庖人肉を繼ぎ、君命を以て之を將はず。子思以爲らく鼎肉は己をして僕僕爾として亟亟拜せしむ。君子を養ふの道に非ざるなり。堯の舜に於けるや、其子九男をして之に事へしめ、二女は焉に女す。百官牛羊倉廩備へて以て舜を畎畝の中に養はしむ。後舉げて諸れを上位に加ふ。故に曰く、王公の賢を尊ぶ者なりと。

萬章曰く、敢て問ふ、諸侯を見ざるは何の義ぞ。孟子曰く、國に在るを市井の臣と曰ひ、野に在るを卿士の臣と曰ふ、皆庶人と謂ふ。庶人は質を傳へて臣と爲らざれば、敢て諸侯を見ざるは禮なり。萬章曰く、庶人之を召して役すれば則ち往きて役し、君之を見んと欲し之を召せば、則ち往きて之を見ざるは何ぞや。曰く、往きて役するは義なり。往きて見るは不義なり。且つ君の之を見んと欲するは何の爲めぞや。曰く、其多聞なるが爲めか、其賢なるが爲めか。曰く、其多聞なるが爲めならば、則ち天子すら師を召さず。而るを況んや諸侯をや。其賢なるが爲め

一 身を寄するなり　二 押し切つて爲さない　三 新附の民の困窮を救ふ　四 門番、夜警　五 常に繼續して得べきか　六 魯の君なり　七 度々使者を遣はして、安否を問ね、鼎にて煮たる肉を贈る　八 最後なり　九 手を振りて、外へ追ひ遣るなり　一〇 叩頭と同じ　一一 犬馬の如き扱ひにて養ふなり、犬馬は、養ふばかりにて、敬ふことなし　一二 臺は君命を傳ふる小役人なり、繆公立腹して、再び使者に肉を持たせて遣ちぎりしをかく臺を主とした。如く書けり　一三 執り行ふなり　一四 藏番なり　一五 料理番なり　一六 嫌はしきさまなり　一七 娥皇女英の二娘　一八 田舍の意　一九 高位に同じ

役則往役君欲見之召之則不往見之何也曰往役義也往見不義也且君之欲見之也何爲也哉曰爲其多聞也爲其賢也曰爲其多聞也則天子不召師而況諸侯乎爲其賢也則吾未聞欲見賢而召之也繆公亟見於子思曰古千乘之國以友之云乎子思不悅曰古之人有言曰事之云乎豈曰友之云乎子思之不悅也豈不曰以位則子君也我臣也何敢與君友也以德則子事我者也奚可以與我友千乘之君求與之友而不可得也而況可召與

らば、則ち吾れ未だ賢を見んと欲して之を召すを聞かざるなり。繆公亟〻子思を見て曰く、古千乘の國以て士を友とすと、如何と。子思悅ばずして曰く、古の人言へることあり。曰く、之に事ふと云ふ乎。豈に之を友とすと云ふと曰んやと。子思の悅ばざるや、豈に位を以てすれば則ち子は君なり、我は臣なり、何ぞ敢て君と友たらん、德を以てすれば則ち子は我に事ふるものなり、奚ぞ以て我と友たる可けんと曰ふにあらずや。千乘の君之と友たるを求めて、而も得べからざるなり。而るを況んや召すべけんや。

㊀ 都邑に居るなり　㊁ 市街の臣なり、昔は、飲料水ある處に市を立てたるに基づきて市井といふ　㊂ 郊外に居るなり　㊃ 葬は、草深きことなり　㊄ 進物を差し出して、家來分となるなり、傳ふは進物番の手を經る意

齊景公田。招虞人以旌。不至。將殺之。志士不忘在溝壑。勇士不忘喪其元。孔子奚取焉。取非其招不往也。曰。敢問招虞人何以。曰。以皮冠。庶人以旂。士以旂。大夫以旌。以大夫之招招虞人。虞人死不敢往。以士之招招庶人。庶人豈敢往哉。況乎以不賢人之招招賢

齊の景公田し、虞人を招くに旌を以てす。至らず。將に之を殺さんとす。志士は溝壑にあるを忘れず。勇士は其の元を喪ふことを忘れず。孔子奚をか取れるや。其招きに非ざれば往かざるを取れるなり。曰く、敢て問ふ。虞人を招くに何を以てする。曰く皮冠を以てす。庶人は旂を以てし、士は旂を以てし、大夫は旌を以てす。大夫の招きを以て虞人を招かば、虞人死すとも敢て往かず。士の招きを以て庶人を招かば、庶人豈に敢て往かんや。況んや不賢人の招きを以て、賢人を招くをや。賢人を見んと欲して其道を以てせざるは、猶ほ其の入るを欲して之が門を閉づるがごとし。夫れ義は路なり、禮は門なり。惟君子は能く是の路に由りて是の門を出入す。詩に云く、周道底の如し。其直きこと矢の如し。君子の履むところ、小人の視る所と。萬章曰く、孔子君命じて召せば、駕を俟たずして行くと。然らば孔子は非なるか。曰く、孔子仕ふるに當つて官職あり。其官を以て之を召せばなり。

㊀ 此段の文に就ては滕文公下首章を參照すべし、虞人は苑囿の番人　㊁ 田獵する時に冠る鹿の皮の冠　㊂ 無

人乎。欲レ見二賢人一。而不レ以二其道一。猶下欲二其入一而閉中之門上也。夫義路也。禮門也。惟君子能由是路。出二入是門一也。詩云。周道如レ底。其直如レ矢。君子所レ履。小人所レ視。萬章曰。孔子君命召。不レ俟レ駕而行。然則孔子非與。曰。孔子當レ仕有二官職一。而以二其官一召レ之也。

地の大幅の赤旗 ㊁ 二匹の龍を畫けゝる旗なり ㊂ 詩經小雅の大東篇 ㊃ 底は砥なり、周の道の平かなること砥石の如く其の眞直なること矢竹の如し ㊄ 上に在る君子の行ふ所なり、小人の視て手本とする所なり

孟子謂二萬章一曰。一鄉之善士。斯友二一鄉之善士一。一國之善士。斯友二一國之善士一。天下之善士。斯友二天下之善士一。以レ友二天下之善士一爲レ未レ足。又尙二論古之人一。頌二其詩一。讀二其書一。不レ知二其人一可乎。是以論二其世一也。是尙友也。

孟子萬章に謂つて曰はく、一鄉の善士は、斯に一鄉の善士を友とし、一國の善士は、斯に一國の善士を友とし、天下の善士は、斯に天下の善士を友とす。天下の善士を友とするを以て未だ足らずと爲し、又古の人を尙論す。其詩を頌し其書を讀む、其人を知らずして可ならんや。是を以て其世を論ず。是れ尙友なり。

㊀ 上に進みて、昔の人の得失を評論す ㊁ 吟味するなり ㊂ 上に進みて友とするの義

齊宣王問レ卿。

齊の宣王卿を問ふ。孟子曰く、王何の卿を之れ問ふや。王曰く、卿同じからざる

孟子曰。王何卿之問也。王曰。卿不レ同乎。曰。不レ同。有レ貴戚之卿一。有レ異姓之卿一。王曰。請二問貴戚之卿一。曰。君有二大過一則諫。反二覆之一而不レ聽則易レ位。王勃然變レ乎レ色。曰。王勿レ異也。王問レ臣。臣不三敢不二以レ正。封二王色定一。然後請二問異姓之卿一。曰。君有レ過則諫。反二覆之一而不レ聽則去。

か。曰く、同じからず。貴戚の卿あり、異姓の卿あり。王曰く、貴戚の卿を請ひ問ふ。曰く、君大過あれば則ち諫む。之を反覆して聽かれざれば則ち位を易ふ。王勃然として色を變ず。曰く、王異む勿れ。王臣に問ふ。臣敢て正を以て對へずんばあらず。王、色定りて然る後に異姓の卿を請ひて問ふ。曰く、君過あれば則ち諫む。之を反覆して聽かざれば則ち去る。

㊀ 一門親族の卿 ㊁ 士庶人より擧げ用ひられたる卿なり、他姓の大臣をいふ ㊂ 繰り返して再三諫む ㊃ 君位を取り易へて、親族中の賢を者王とす ㊄ 愈に顏色を變へる也、怒ること

告子曰。性猶二杞柳一也。義猶二桮棬一也。以二人性一爲二仁義一。猶下以二杞柳一爲中桮棬上。孟子曰。子能順二杞柳之性一而以爲二桮棬一乎。將戕二賊杞柳一。而後以爲二桮棬一也。如將戕二賊杞柳一。而以爲二桮棬一。則亦將戕二賊人一以爲二仁義一與。率二天下之人一而禍二仁義一者。必子之言夫。

卷之十一

告子章句上

告子曰く、性は猶ほ杞柳のごとし。義は猶ほ桮棬のごとし。人の性を以て仁義を爲すは、猶ほ杞柳を以て桮棬を爲るがごとし。孟子曰く、子能く杞柳の性に順ひて以て桮棬を爲るか、將た杞柳を戕賊して而る後に以て桮棬を爲るか。如し將た杞柳を戕賊して以て桮棬を爲らば、則ち亦た將た人を戕賊して以て仁義を爲すか。天下の人を率ゐて仁義を禍する者は必ず子の言ならんか。

一 告は姓、名は不害、仁内義外の說を主張して孟子と論難せし學者なり 二 柳の一種、桮棬は曲物の杯、人の性は本來善惡なく、どうでも曲るものなりと云ふなり 三 戕はそこなふこと

告子曰。性猶二湍水一也。決二諸東方一則東流。決二諸西方一則西流。人性之無レ分レ於二善不善一也。猶二水之無レ分レ於二東西一也。孟子曰。水信無レ分レ於二東西一。無レ分レ於二上下一乎。人性之善也。猶二水之就レ下也。人無レ有二不善一。水無レ有レ不レ下。今夫水搏而躍レ之。可レ使過レ顙。激而行レ之。可レ使在レ山。是豈水之性哉。其勢則然也。人之可レ使爲二不善一。其性亦猶レ是也。

告子曰。生之謂レ性。孟子曰。生之謂レ性也。

告子曰く、性は猶ほ湍水のごときなり。諸を東方に決すれば則ち東流し、諸を西方に決すれば、則ち西流す。人性の善不善を分つことなき、猶ほ水の東西を分つこと無きがごときなり。孟子曰く、水信に東西を分つこと無し。上下を分つこと無からんや。人性の善なるや、猶ほ水の下に就くがごとし。人不善あること無く、水下らざるあること無し。今夫れ水は搏ちて之を躍さば、顙を過さしむべし。激して之を行らば山に在らしむべし。是れ豈に水の性ならんや。其勢ひ則ち然るなり。人の不善を爲さしむべきこと、其性も亦猶ほ是のごときなり。

一 流れ出づる口のなき所にて湧く水を云ふ 二 擊つなり 三 跳ちすゝなり 四 額なり

告子曰く、生は之を性と謂ふ。孟子曰く、生は之を性と謂ふは、猶ほ白きを之れ白しと謂ふがごときか。曰く、然り。白羽の白は猶ほ白雪の白がごとく、白雪の

猶二白之謂一レ白與。曰。然。白羽之白也。猶二白雪之白一。白雪之白。猶二白玉之白一與。曰。然。然則犬之性。猶二牛之性一。牛之性。猶二人之性一與。

一 生れあつるに相を同じくするものは其性亦同じと云ふ

白は猶ほ白玉の白のごときか。曰く、然り。然らば則ち犬の性は猶ほ牛の性のごとく、牛の性は猶ほ人の性のごときか。

告子曰。食色性也。仁内也。非レ外也。義外也。非レ内也。孟子曰。何以謂二仁内義外一也。曰。彼長而我長レ之。非レ有レ長レ於レ我也。猶二彼白而我白レ之。從二其白於レ外也。故謂二之外一也。曰。異於白二馬之白一也。無二以異一於白二人之白一也。不レ識。長二馬之長一也。無二以異一於長二人之長一與。且謂長者義乎。長レ之者義乎。曰。吾弟則愛レ之。秦人之弟。則不レ愛也。是以レ我爲レ悅者也。故謂二之外一也。曰。耆二秦人之炙一。無二以異一於耆二吾炙一。夫物則亦有レ然者也。然則耆レ炙。亦有レ外與。

孟季子問二公都子一曰。何以謂二義内一也。曰。行二吾敬一。故謂二之内一也。長二楚人之長一。亦長二吾之長一。是以レ長爲レ悅。故謂二之外一也。曰。敬二吾兄一。酌レ彼則誰若レ主レ賓。曰。敬レ兄。酌レ彼則誰若。曰。敬レ兄。

告子曰く、食色(一)は性なり。仁は内なり、外に非ざるなり。義は外なり内に非ざるなり。孟子曰く、何を以てか仁は内、義は外なりと謂ふ。曰く、彼長じて我之を長とす。我に長あるに非ざるなり。猶ほ彼白にして我之を白とするがごとし。其白に外に從ふなり。故に之を外といふ。曰く、馬(二)の白を白とするや、以て人の白を白とするに異なる無きなり。識らず、馬の長を長とするや、以て人の長を長とするに異なること無きか。且つ謂へ、長ずる者は義か。之を長とする者は義か。曰く、吾が弟は則ち之を愛し、秦人(三)の弟は則ち愛せざるなり。是れ我を以て悅ぶことを爲す者なり。故に之を内と謂ふ。楚人(四)の長を長とし、亦吾の長を長とす。是れ長を以て悅ぶことを爲す者なり。故に之を外と謂ふなり。曰く、秦人の炙(五)を耆むは以て吾が炙を耆むに異なることなし。夫れ物も則ち亦然ることあり。然らば則ち炙を耆むも亦外に有るか。

一 食慾と性慾　二 長を長として敬するは義なり、而して長は我に在ちずして彼は在り、彼れ即ち外に在る長を敬するとり義生ず、即ち義は外に在るものに從つて生ずるものなれば義は外なりと云ふなり　三 胚文の異於の二字衍文ならんと云ふ　四 蘇秦なる人の意　五 同上　六 炙りたる肉を嗜む意

孟季子、公都子に問ひて曰く、何を以てか義は内なりと謂ふ。曰く、吾が敬を行ふ。故に之を内と謂ふ。鄉人(一)、伯兄より長ずること一歳ならば、則ち誰をか敬せん。曰く、兄を敬せん。酌(二)まば則ち誰をか先にせん。曰く、先づ鄉人に酌まん。

之内一也。鄉人長於二伯兄一一歲。則誰敬。曰。敬兄。酌則誰先。曰。先酌二鄉人一。所敬在此。所長在彼。果在外非由内也。公都子不能答。以告二孟子一。孟子曰。敬二叔父一乎。敬二弟乎。彼將曰。敬二叔父一。曰。弟爲尸則誰敬。彼將曰。敬弟。子曰。惡在其敬二叔父一也。彼將曰。在位故也。子亦曰。在位故也。庸敬在兄。斯須之敬在二鄉人一。季子聞之曰。敬二叔父一則敬。敬弟則敬。果在

敬する所此に在り。長ずる所は彼に在り。果して外にあり。内に由るに非ず。公都子答ふる能はず。以て孟子に告ぐ。孟子曰く、叔父を敬せんか、弟を敬せんか。彼將た曰ん、叔父を敬せん。曰く、弟尸たらば則ち誰をか敬せん。彼將た曰ん、弟を敬せん。子曰く、惡ぞ其の叔父を敬するに在らんや。彼將た曰ん、位に在るが故なり。子も亦曰く、位にあるが故なり。庸の敬は兄に在り。斯須の敬は鄉人に在り。季子之を聞きて曰く、叔父を敬すれば則ち敬す。果して外に在り。内に由るには非ざるなり。公都子曰く、冬日は則ち湯を飲み、夏日は則ち水を飲む。然らば則ち飲食も亦外に在るなり。

一 孟子の從兄弟かと云ひ又は孟の字は衍文にて季子と云ふは季任かとも云ふ 二 長兄なり 三 酒の酌 四 伯兄を云ふ 五 鄉人を云ふ 六 果して人の云ふ如く義は外にありの意 七 父の弟なり 八 已れの弟なり 九 神代なり、祖先の祭りをする時に、子弟を神の代はりに立てゝ、之れを主として祭るなり 一〇 神代の位に在るなり 一一 常なり 一二 其場合暫時なり

外非由内也。公都子曰。冬日則飲湯。夏日則飲水。然則飲食亦在外也。

公都子曰。告子曰。性無善。無不善也。或曰。性可以爲善。可以爲不善。是故文武興。則民好善。幽厲興。則民好暴。或曰。有性善。有性不善。是故以堯爲君。而有象。以瞽瞍爲父。而有舜。以紂爲兄之子。且以微子啓。王子比干。今曰性

公都子曰く、告子曰く、性は善なく不善なしと。或ひと曰く、性は以て善と爲す可く以て不善と爲すべし。是の故に文武興れば則ち民善を好み、幽厲興れば則ち民暴を好むと。或ひと曰く、性善なるあり、性不善なるあり。是の故に堯を以て君と爲して象あり。瞽瞍を以て父となして舜あり。紂を以て兄の子となし、且つ以て君と爲して微子啓・王子比干あり。今性善と曰ふ。然らば則ち彼皆な非なるか。孟子曰く、乃ち其情の若くすれば則ち以て善と爲す可し。乃ち所謂善なり。夫の不善を爲す若きは才の罪に非ざるなり。惻隱の心は人皆之れ有り。羞惡の心は人皆之れ有り。恭敬の心は人皆之れ有り。是非の心は人皆之れ有り。惻隱の心は仁なり。羞惡の心は義なり。恭敬の心は禮なり。是非の心は智なり。仁義禮智外より我を鑠すに非ざるなり。我固より之を有するなり。思はざるのみ。故に曰く、求むれば則ち之を得、舍つれば則ち之を失ふ。或は相倍蓰して算無き者、其

善。然則彼皆非與。孟子曰。乃若其情。則可以爲善矣。乃所謂善也。若夫爲不善。非才之罪也。惻隱之心。人皆有之。羞惡之心。人皆有之。恭敬之心。人皆有之。是非之心。人皆有之。惻隱之心仁也。羞惡之心義也。恭敬之心禮也。是非之心智也。仁義禮智。非由外鑠我也。我固有之也。弗思耳矣。故曰。求則得之。舍則失之。或相倍蓰而無算者。不能盡其才者也。詩曰。天生蒸民。有物有則。民之秉夷。好是懿德。孔子曰。爲此詩者。其知道乎。故有物必有則。民之秉夷也。故好是懿德。

孟子曰。富歲

孟子曰く、富歲には子弟賴多く、凶歲には子弟暴多し。天の才を降すこと爾く

才を盡すこと能はざる者なり。詩に曰く、天蒸民を生ず。物あれば則あり。民の夷を秉る。是の懿德を好むと。孔子曰く、此の詩を爲る者は其れ道を知るか。故に物あれば則あり。民の夷を秉るなり。故に是の懿德を好む。

(一) 周の文王、武王 (二) 周の幽王、厲王 (三) 舜の異母弟 (四) 曾ほ紂の庶兄、屢々紂を諫めて用ひられず、比干は紂の伯父、三諫して其胸を剖かる。今孟子の云ふ知く性善とせば殷即ち告子の徒の云ふ所皆非なるか (五) 本性の自然に發露する所を情と云ひ、性の自然の働を才と云ふ (六) 四端の說にて公孫丑上に詳かなり (七) 器は誤に屬し、敬は心に屬す (八) 仁義禮智は外部より來りて我を感化するものに非ず (九) 倍は二倍、蓰は五倍、算人と惡人の差は漸次增大して終には算なき程に至るとなり (一〇) 詩經〈雅蒸民篇 (一一) 天が衆民を生しそこに君臣父子の關係あれば自ち忠孝の道あり、人は此の常道を心に保持するが故に美德ある人を好む

子弟多賴。凶歲子弟多暴。非天之降才爾殊也。其所以陷溺其心者然也。今夫麰麥。播種而耰之。其地同樹之時又同。浡然而生。至於日至之時。皆熟矣。雖有不同。則地有肥磽。雨露之養。人事之不齊也。故凡同類者舉相似也。何獨至於人而疑之。聖人與我同類

殊なるに非ざるなり。其の其心を陷溺する所以の者然るなり。今夫れ麰麥は種を播して之を耰す。其地同じく之を樹うる時又同じ。浡然として生ず。日至の時に至りて皆熟す。同じからざるありと雖も、則ち地に肥磽あり。雨露の養、人事の齊しからざるなり。故に凡そ類を同じくする者は舉な相似たり。何ぞ獨り人に至りて之を疑はん。聖人も我と類を同じくする者なり。故に龍子曰く、足を知らずして屨を爲るも、我れ其の賣たらざるを知るなり。屨の相似たるは天下の足同じければなり。口の味に於ける同じく耆むことあるなり。易牙は先づ我が口の耆む所を得たる者なり。如し口の味に於ける其性の人と殊なること、犬馬の我と類を同じくせざるが若くならしめば、則ち天下何ぞ耆むこと皆易牙の味に於けるに從はんや。味に至りては天下易牙に期す。是れ天下の口相似たればなり。惟耳も亦然り。聲に至りては天下師曠に期す。是れ天下の耳相似たればなり。惟目も亦然り。子都に至りては天下其の姣を知らざることなきなり。子都

者。故龍子曰。不知足而爲屨。我知其不ヒ爲ル蕢也。屨之相似。天下之足同也。口之於ル味。有二同耆一也。易牙先得二我口之所ニ耆者一也。如使ド口之於ル味也。其性與ル人殊。若中犬馬之與ル我不ル同ル類也。則天下何耆。皆從二易牙之於ヒ味也。至ル於ル味。天下期ル於二易牙一。是天下之口相似也。惟耳亦然。至ル於ル聲。天下期ル於二師曠一。是天下之耳相似也。惟目亦然。至ル於ル子都一。天下莫ル不ル知二其姣一也。不ル知二子都之姣一者。無ル目者也。故曰。口之於ル味也。有二同耆一焉。耳之於ル聲也。有二同聽一焉。目之於ル色也。有二同美一焉。至ル於ル心。獨無ル所二同然一乎。心之所二同然一者何也。謂理也。義也。聖人先得二我心之所二同然一耳。故理義之悅二我心一。猶二芻豢之悅二我口一。

の姣を知らざる者は目なきなり。故に曰く、口の味に於けるや、同じく耆むとあり。耳の聲に於けるや、同じく聽くことあり。目の色に於けるや、同じく美することあり。心に至りては、獨り同じく然りとする所無からんや。心の同じく然りとする所の者は何ぞや。謂く理なり、義なり。聖人は先づ我が心の同じく然りとする所を得たるのみ。故に理義の我心を悅ばしむるは猶ほ芻豢の我口を悅ばしむるがごとし。

一 凶年の意 二 顯もしげなるもの多きなり 三 亂暴なること 四 其の心が年の凶囚に溺溺して或は類となり或は暴となる、天賦のオそのものに斯の如き辨別あるに非ず 五 大麥なり 六 種の上に土をかくるなり 七 種の蔕え出づるさまなり 八 夏至の意なり 九 地味の肥えたると、瘠せて石の多きと 一〇 皆と同じ 一一 古の賢人 一二 屨を作る職人が人の足の寸法を知らずに屨を造るも、丸で似もつか(蕢(モツゴ))とはならず、足に適不適あるもやはり屨は屨也 一三 齊の桓公の臣にして、能く物の味ひを知れる者なり 一四 書に精なる人、離婁の上篇の首章に所見 一五 昔の美男子なり 一六 顏好きなり 一七 可の如し、人の心に然りとするなり 一八 芻は、草を食ふ獸、豢は穀物を食ふ獸

孟子曰。牛山之木嘗美矣。以二其郊ヒ於二大國一也。斧斤伐ル之。可二以爲ヒ美乎。是其日夜之所ル息。雨露之所ル潤。非ル無二萌蘖之生一焉。牛羊又從而牧ル之。是以若ル彼濯濯也。人見二其濯濯也一。以爲ル未二嘗有ヒ材焉。此豈山

孟子曰く、牛山の木嘗て美なり。其の大國に郊たるを以て斧斤之を伐る、以て美となすべけんや。是れ其日夜の息する所、雨露の潤す所、萌蘖の生なきに非ず。牛羊又從つて之を牧す。是を以つて彼の若く濯濯たるなり。人其濯濯たるを見るや、以て未だ嘗て材あらずと爲す。此れ豈に山の性ならんや。人に存する者と雖も、豈に仁義の心なからんや。其の良心を放つ所以の者、亦猶ほ斧斤の木に於けるがごときなり。旦旦にして之を伐る。以て美と爲すべけんや。其日夜の息する所、平旦の氣、其好惡人と相近き者は幾ど希し、則ち其旦晝の爲す所之を梏亡するあり。之を梏して反覆すれば、則ち其夜氣以て存するに足らず。夜氣以て存するに足らざれば、其の禽獸を違ること遠からず。人其禽獸なるを見て以て未

之性也哉。雖下存乎人者上豈無二仁義之心一哉。其所三以放二其良心一者。亦猶二斧斤之於一木也。旦旦而伐之。可二以爲一美乎。其日夜之所息。平旦之氣。其好惡與人相近也者幾希。則其旦晝之所爲。有梏二亡之一矣。梏之反覆。則其夜氣不足二以存一。夜氣不足二以存一。則其違二禽獸一不遠矣。人見二其禽獸一也。而以爲未二嘗有一才焉者。是豈人之情也哉。故苟得二其養一。無二物不一長。苟失二其養一。無二物不一消。孔子曰。操則存。舍則亡。出入無時。莫知二其鄉一。惟心之謂與。

だ嘗て才あらずとなす者は、是れ豈に人の情ならむや。故に苟も其養を得れば、物として長ぜざるなく、苟も其養を失へば、物として消せざるなし。孔子曰く、操れば則ち存し、舍つれば則ち亡す。出入時なく、其鄉を知ること莫し。惟れ心の謂か。

一 齊の東南に在る山 二 大國齊の郊外に在り 三 生長するなり 四 萌とは眞直に出づる芽をいひ、蘖とは傍より出づるをいふ 五 生ずるに從つて食ひ盡くす 六 一草一木なき荒山となりたるさま水にて洗ひ去りたるが如しと 七 本然の善心にして、卽ち仁義の心なり 八 征朝なり 九 早朝未だ物と接せざる清明の氣を謂ふ 一〇 其の善を好み惡を惡む心の賢人と相近き心を少しは有すと也 一一 終日 一二 梏は、手枷なり、又終日之れを抑へつけて、消滅せしむることなり 一三 平旦の氣なり、夜に入りて、落ち着きたる氣分は、翌朝まで續くものなれば、平旦の氣ともいへり 一四 去るなり 一五 本色なり 一六 持ち守るなり 一七 鄉里の意にて、居處のことなり

孟子曰。無二或乎王之不智一也。雖二有二天下易一生之物一也。一日暴二之一。十日寒二之一。未二有一能生者一也。吾見亦罕矣。吾退而寒二之一者至矣。吾如二有一萌焉何哉。今夫奕之爲一數。小數也。不二專一心致一志。則不一得也。奕秋。通國之善一奕者也。使下奕秋誨中二人奕。其一人專一心致一志。惟奕秋之爲一

孟子曰く、王の不智を或むなかれ。天下生じ易き物ありと雖も、一日之を暴し十日之を寒せば、未だ能く生ずる者あらざるなり。吾見ゆること亦罕なり、吾れ退きて之を寒する者至る。吾れ萌すあるを如何せんや。今夫れ奕の數たる小數なり。心を專にし志を致さざれば則ち得ざるなり。奕秋は通國の奕を善くする者なり。奕秋をして二人に奕を誨へしめん。其一人は心を專にし志を致して、惟奕秋に之を聽くことを爲す。一人は之を聽くと雖も、一心に以爲らく、鴻鵠ありて將に至らむとす。弓繳を援きて之を射んことを思ふ。之を俱に學ぶと雖も之に若かず。是れ其智の若かざるが爲めか。曰く、然るに非ざるなり。

一 齊王なり 二 惑と同じ、怪しむなり 三 發生し易き物なり 四 熱氣にさらすこと 五 寒冷の氣にさらすこと 六 孟子齊王に謁見することを稀れなり 七 齊王の御前を退くや王を思もて冷す者進見す 八 雜心の萌芽の發生するなり 九 圍碁なり 一〇 志を極むるなり 一一 圍碁の名人の名を秋といふ者 一二 一國を通ずるなり 一三 圍碁の外に又一つの心あるなり 一四 鴻は大雁なり、鵠は鶴の屬なり 一五 繳は絲を矢に繋ぎて射るなり 一六 援は手元に引き寄するなり 一七 智慧の及ばざるが爲めにはあらずとの意

聽。一人雖レ聽レ之。一心以爲。有二鴻鵠一將レ至。思下援二弓繳一而射中之。雖二與レ之俱學一。弗レ若レ之矣。爲二是其智弗レ若與。曰。非レ然也。

孟子曰。魚我所レ欲也。熊掌亦我所レ欲也。二者不レ可レ得兼。舍レ魚而取二熊掌一者也。生亦我所レ欲也。義亦所レ欲也。二者不レ可レ得兼。舍レ生而取レ義者也。生亦我所レ欲。所レ欲有レ甚レ於レ生者。故不レ爲二苟得一也。死亦我所レ惡。所レ惡有レ甚レ於レ死者。故患有レ所レ不レ辟也。如使下人之所レ欲莫レ甚レ於レ生則凡可二以得一レ生者。何不レ用也。使下人之所レ惡莫レ甚レ於レ死者上則凡可二以辟一レ患者。何不レ爲也。由レ是則可二生。而有レ不レ用也。由レ是則可二以辟一レ患。而有レ不レ爲也。是故所レ欲。有レ甚レ於レ生者一。所レ惡有二甚レ於レ死者一。非二獨賢者有二是心一也。人皆有レ之。賢者能勿レ

孟子曰く、魚は我が欲する所なり。熊掌も亦我が欲する所なり。二者兼ぬることを得べからざれば、魚を舍てて熊掌を取る者なり。生も亦我が欲する所なり。二者兼ぬること得べからざれば、生を舍てて義を取る者なり。生も亦我が欲する所、欲する所生より甚しき者なり。故に苟も得ることを爲さざるなり。死も亦我が惡む所、惡む所死より甚しき者あり。故に患も辟けざる所あり。如し人の欲する所をして生より甚しきこと莫からしめば、則ち凡そ以て生を得べき者何ぞ用ひざらん。人の惡む所をして死より甚しき者莫からしめば、則ち凡そ以て患を辟くべき者、何ぞ爲さざらん。是れに由れば則ち生く、而して用ひざるあり。是れに由れば則ち以て患を辟くべし、而して爲ざざるなり。是の故に欲する所生より甚しき者あり。惡む所死より甚しき者あり。獨り賢者のみ是の心あるに非ざるなり。人皆な之れあり。賢者は能く喪ふこと勿きのみ。一簞の食一豆の羮、之を得れば則ち生き、得ざれば則ち死す。嘑爾として之を與ふれば道を行く人も受けず、蹴爾として之を與ふれば乞人も屑しとせざるなり。萬鍾は則ち禮義を辨ぜずして之を受く。萬鍾我に於て何ぞ加へん。宮室の美妻妾の奉、識る所の窮乏の者我に得るが爲めか。鄉には身の死するが爲めにして受けず。今は宮室の美の爲めに之を爲す。鄉には身の死するが爲めにして受けず。今は妻妾の奉の爲めに之を爲す。鄉には身の死するが爲めにして受けず。今は識る所の窮乏の者の我に得るが爲めに之を爲す。是れ亦た以て已むべからざるか。此れを之れ其本心を失ふと謂ふ。

一 生より甚しき者とは義なり　二 生を得るなり　三 不義なり　四 死亡の患　五 避と同じ　六 生くべく避くべき一路をいふ　七 一つの木器に盛りたる汁類なり　八 叱り飛ばすやうに食へといふさまなり　九 道を行く平凡の人なり　一〇 足蹴にするやうに突き出すさまなり　一一 乞食なり　一二 心持よく貰はぬなり　一三 六萬四千石の大藏なり　一四 我が身に加へ增すことなきなり　一五 奉養なり　一六 我が恩惠を得るなり　一七

喪耳。一簞食。一豆羹得レ之則生。弗レ得則死。嘑爾而與レ之。行レ道之人弗レ受。蹴爾而與レ之。乞人不レ屑也。萬鍾則不レ辨二禮義一而受レ之。萬鍾於レ我何如焉。爲二宮室之美一。妻妾之奉。所レ識窮乏者得レ我與。鄉爲二身死一而不レ受。今爲二妻妾之奉一爲レ之。鄉爲二身死一而不レ受。今爲二所レ識窮乏者得レ我而爲レ之。是亦不レ可二以已一乎。此之謂レ失レ其本心。

受くることを止むるなり

孟子曰。仁人心也。義人路也。舍二其路一而弗レ由。放二其心一而不レ知レ求。哀哉。人有二雞犬放一。則知レ求レ之。有二放心一而不レ知レ求。學問之道無レ他。求二其放心一而已矣。

孟子曰、仁は人の心なり。義は人の路なり。其路を舍てて由らず。其心を放ち(一)て求むることを知らず。哀しいかな。人雞犬放るゝことあれば、則ち之を求むることを知る。放心ありて而して求むることを知らず。學問の道他なし。其放心を求むるのみ。

(一) 本來居る可き場所を去らしむること

孟子曰。今有二無名之指一。屈而不レ信。非二疾痛害レ事也。加有能信レ之者。則不レ遠二秦楚之路一。爲二指之不レ若レ人也。指不レ若レ人。則知レ惡レ之。心不レ若レ人。則不レ知レ惡。此之謂レ不レ知レ類也。

孟子曰、今(一)無名の指屈して信びざるあり。疾痛して事に害あるに非ざるなり。如し能く之を信ぶる者あらば、則ち秦楚の路を遠しとせず。指の人に若かざるが爲めなり。指の人に若かざるは則ち之を惡むことを知る。心の人に若かざるは則ち惡むことを知らず。此れ之を類(三)を知らずと謂ふなり。

(一) 第四指なり、指として一番用ひざるもの (二) 伸ぶるなり (三) 比較輕重を知らざるなり

孟子曰。拱把之桐梓。人苟欲レ生レ之。皆知下所二以養一之者上。至レ於身。而不レ知下所二以養一之者上。豈愛レ身不レ若二桐梓一哉。弗レ思甚也。

孟子曰。人之於レ身也。兼レ所レ愛。兼レ所レ愛。則

孟子曰、拱(一)把の桐梓、人苟も之を生(二)せんと欲すれば、皆之を養ふ所以の者を知る。身に至りては之を養ふ所以の者を知らず。豈に身を愛することを桐梓に若かざらんや。思はざること甚しきなり。

(一) 拱は兩手を以て圍むこと、把は片手にてにぎること、何れも太さをあらはす言葉 (二) きりあづさなり、皆良材なり (三) 生長せしむるなり

孟子曰く、人の身に於けるや、愛する所を兼ぬ。愛する所を兼ぬれば則ち養ふ所を兼ぬるなり。尺寸の膚も愛せざる無ければ、則ち尺寸の膚も養はざるな

兼レ所レ養也。無二尺寸之膚一不レ愛焉。則無二尺寸之膚一不レ養也。所三以考二其善不善一者。豈有レ他哉。於レ己取レ之而已矣。

體有二貴賤一。有二小大一。無二以レ小害レ大。無二以レ賤害レ貴。養二其小一者爲二小人一。養二其大一者爲二大人一。今有二場師一。舍二其梧檟一養二其膚棘一。則爲二賤場師一。養二其一指一而失二其肩背一而不レ知也。則爲二狼疾人一也。飲食之人。則人賤レ之矣。爲二其養レ小以失レ大也。飲食之人。無レ有レ失也。則口腹豈適爲二尺寸之膚一哉。

きなり。其善不善を考ふる所以の者豈に他あらんや。己に於て之を取るのみ。體に貴賤あり小大あり。小を以て大を害することなく、賤を以て貴を害することなし。其小を養ふ者は小人と爲り、其大を養ふ者は大人と爲る。今場師あり。其梧檟を舍てて其膚棘を養はば則ち賤場師と爲さん。其一指を養ひて其肩背を失ひて知らざれば、則ち狼疾の人と爲さん。飲食の人は則ち人之を賤む。其の小を養ひ以て大を失ふが爲めなり。飲食の人失ふこと有る無ければ、則ち口腹豈に適尺寸の膚の爲めならんや。

一 象徴すること、四肢五官を平等に愛すること　二 己れ自身に於て養の輕重を考ふる外なし　三 賤と云ひ、小と云ふは肉體を指し、貴と云ひ、大と云ふは心志を指す　四 梧檟は良木、桐梓に同じ、膚は醜類、棘は いばら、何れも惡木なり　五 狼籍の意、よく疾を治し得ず、身を殘ふ意　六 飲食の人も心を養ふ道を失はざれば、口腹の養は豈に尺寸の膚を長ぜしむるのみに非ず、大切なる心の容器を養ふことゝなる

公都子問曰。鈞是人也。或爲二大人一。或爲二小人一。何也。孟子曰。從二其大體一。爲二大人一。從二其小體一。爲二小人一。曰。鈞是人也。或從二其大體一。或從二其小體一。何也。曰。耳目之官不レ思而蔽レ於レ物。物交レ物則引レ之而已矣。心之官。則思。思則得レ之。不レ思則不レ得也。此二天之所レ與レ我者一。先立乎二其大者一。則其小者不レ能レ奪也。此爲二大人一而已也。

公都子問ひて曰く、鈞しく是れ人なり。或は大人と爲り、或は小人と爲るは何ぞや。孟子曰く、其大體に從へば大人と爲り、其小體に從へば小人と爲る。曰く、鈞しく是れ人なり。或は其大體に從ひ、或は其小體に從ふは何ぞや。曰く、耳目の官は思はずして物に蔽はる。物、物に交はれば則ち之を引くのみ。心の官は則ち思ふ。思へば則ち之を得、思はざれば則ち得ざるなり。天の我に與ふる所の者を比し、先づ其大なる者を立つれば、則ち其小なる者奪ふこと能はざるなり。此れ大人となるのみ。

一 大體は心の官、小體は耳目の官を指す　二 役目なり　三 外界の事物を指す　四 我耳目外物に蔽はるれば亦これ一個の物也、物と物とが交れば、力強き外物が我が耳目を引き之を誤惑し去る、固より當然の事のみ　五 耳目を誘惑するなり　六 道理を得るなり　七 天より我れに與へられたる者は大小を比較するなり　八 心志を奪ふこと能はざるなり

孟子曰。有二天爵者一。有二人爵者一。仁義忠信樂レ善不レ倦。此天爵也。公卿大夫。此人爵也。古之人。脩二其天爵一。而人爵從レ之。今之人。脩二其天爵一。以要二人爵一。既得二人爵一。而棄二其天爵一。則惑之甚者也。終亦必亡而已矣。

孟子曰、天爵なる者あり、人爵なる者あり。仁義忠信善を樂みて倦まざるは此れ天爵なり。公卿大夫は此れ人爵なり。古の人は其天爵を脩あて人爵之に從ふ。今の人は其天爵を脩めて以て人爵を要む。既に人爵を得れば、其天爵を棄つるは則ち惑へるの甚しき者なり。終に亦必ず亡はんのみ。

❶ 古の人は道德を修めたる自然の報酬として人爵を受くるなり、然るに今の人は人爵を得んが爲めに天爵を修むるなり ❷ 人爵をも失ふに至る意

孟子曰。欲レ貴者。人之同心也。人人有下貴二於己一者上。弗レ思耳。人之所レ貴者。非二良貴一也。趙孟之所レ貴。趙孟能賤レ之

孟子曰、貴きを欲するは人の同じき心なり。人人己に貴き者あり。思はざるのみ。人の貴くする所の者は良貴に非ざるなり。趙孟の貴くする所は趙孟能く之を賤しくす。詩に云く、既に醉ふに酒を以てし、既に飽くに德を以てすと。仁義に飽くを言ふなり。人の膏粱の味を願はざる所以なり。令聞廣譽身に施く、人の文繡を願はざる所以なり。

詩云。既醉以レ酒。既飽以レ德。言飽レ乎二仁義一也。所二以不レ願二人之文繡一也。

❶ 仁義を云ふ、仁義の心は各人本具のものなればなり ❷ 富貴を云ふ ❸ 天爵を指す ❹ 晉の卿相、權勢ありて人の進退を自由にせしよりかく云ふ ❺ 詩經大雅既醉の篇なり ❻ 飽き足るなり ❼ 肥肉と良米、仁義に飽き精神的滿足を得たるが故に肥肉良米の味を願はざるなり ❽ 善き評判と廣さはまれが身に備はる ❾ 文繡ある衣服を願はず

孟子曰。仁之勝二不仁一也。猶二水勝レ火。今之爲レ仁者。猶下以二一杯水一救中一車薪之火上也。不レ熄則謂二之水不レ勝。火此又與レ於二不仁之甚者也。亦終必亡而已矣。

孟子曰、仁の不仁に勝つや、猶ほ水の火に勝つがごとし。今の仁を爲す者は、猶ほ一杯の水を以て一車薪の火を救ふがごときなり。熄まざれば則ち之を水火に勝たずと謂ふ。此れ又不仁に與するの甚だしき者なり。亦終に必ず亡びんのみ。

❶ 小仁を以て大不仁に勝たんとする喩ふ、一車薪とは車に積みたるたきぎの意 ❷ 不仁者と同じく亦同を亡ぼさんとも

孟子曰。五穀

孟子曰く、五穀は種の美なる者なり。苟も熟せざることを爲さば、荑稗に如

者。種之美者也。苟爲不熟不如荑稗。夫仁亦在乎熟之而已矣。

孟子曰。羿之教人射。必志於彀。學者亦必志於彀。大匠誨人必以規矩。學者亦必以規矩。

かず。夫れ仁も亦之を熟するに在るのみ。

孟子曰く、羿の人に射を教ふる。必ず彀に志さしむ。學ぶ者も亦必ず彀に志す。大匠の人に誨ふる必ず規矩を以てす。學ぶ者も亦必ず規矩を以てす。

一 何れもひえの類、粗惡なれども食ふべし

一 古の弓の名人 二 彀は弓を張ること、射法の祕訣は弓を張るに在り、以上は學者は先づ志を立つべきを云ふ

三 標準、學ぶには當に其法を正すべきを比喩せり

任人有問屋廬子曰。禮與食孰重。曰。禮重。色與禮孰重。曰。禮重。曰。以禮食則飢而死。不以禮食則得食。必以禮乎。親迎則不得妻。不親迎則得妻。必親迎乎。屋廬子不能對。

卷之十二

告子章句下

任人屋廬子に問ふあり。曰く、禮と食と孰か重き。曰く、禮重し。色と禮と孰か重き。曰く、禮重し。曰く、禮を以て食へば則ち飢ゑて死す。禮を以てせずして食へば則ち食を得。必ず禮を以てせんか。親迎すれば則ち妻を得ず。親迎せざれば則ち妻を得。必ず親迎せんか。屋廬子對ふる能はず。明日鄒に之きて以て孟子に告ぐ。孟子曰く、是に答ふるに於て何かあらん。其本を揣らずして其末を齊しうせば、方寸の木も岑樓より高からしむべし。金は羽より重き者なり。豈に一鉤の金と一輿の羽との謂を謂はんや。食の重き者と禮の輕き者とを取りて之を比せば、奚ぞ翅に食重きのみならんや。色の重き者と禮の輕き者とを取りて之を比せば、

明日之鄒以告二孟子一。孟子曰。於レ答レ是也何有。不レ揣二其本一而齊二其末一。方寸之木。可レ使レ高レ於二岑樓一。金重二於羽一者。豈謂下一鉤金與二一輿羽一之謂上哉。取二食之重者一。與二禮之輕者一而比レ之。奚翹食重。取二色之重者一與二禮之輕者一而比レ之。得レ食。不レ紾則不レ得レ食。則將紾レ之乎。踰二東家牆一而摟二其處子一。則得レ妻。不レ摟則不レ得レ妻。則將レ摟レ之乎。

曹交問曰。人皆以可二爲一二堯舜一。有レ諸。孟子曰。然。交聞。文王十尺。湯九尺。今交九尺四寸以長。食レ粟而已。如何則可。曰。奚有レ於レ是。亦爲レ之而已矣。有レ人レ於レ此。力不レ能レ勝二一匹雛一。則爲二無レ力人一矣。今曰舉二百鈞一。則爲二有レ力人一矣。然則舉二烏獲之任一。是亦爲二烏獲一而已矣。夫人豈以レ不レ勝爲レ患哉。弗レ爲耳。徐行後二長者一。謂二之

奚ぞ翹に色重きのみならんや。往きて之に應へて曰へ。兄の臂を紾らして之が食を奪へば、則ち食を得、紾らざれば則ち食を得ず。則ち將に之を紾らさんとするか。東家の牆を踰えて其處子を摟けば則ち妻を得、摟かざれば則ち妻を得ず、則ち將に之を摟かんとするかと。

一 任人は任國の人なり 二 孟子の弟子、名は連 三 結婚の儀式中に於ける一つの儀法、婿自ら嫁の家に至つて新婦を伴ひ來る儀式なり 四 木の本を量らずして木の末を揃ふること 五 方寸は一寸四方なり、岑は山、樓は樓に同じく丘なり 六 凡そ物の比較は根本より之を量らざる可からず、食色の重大なるものと禮の輕微なるものと比較せば、もとより食色を以て重しとせざる可からず 七 紾と同じ 八 手をねぢ上げること 九 隣家なり 一〇 處女 一一 手をひくこと

曹交問ひて曰く、人皆以て堯舜たるべしと、諸れ有りや。孟子曰く、然り。交聞く、文王は十尺、湯は九尺と。今交は九尺四寸以て長じ、粟を食ふのみ。如何にせば則ち可ならん。曰く、奚ぞ是にあらんや、亦之を爲さんのみ。此に人あり、力一匹の雛に勝ふること能はざれば、則ち力なき人と爲さん。今百鈞を舉ぐと曰はば則ち力ある人となさん。然らば則ち烏獲の任を舉げば、是れ亦烏獲たるのみ。夫れ人豈に勝へざるを以て患となさんや、爲さざるのみ。徐行して長者に後る、之を弟と謂ふ。疾行して長者に先だつ、之を不弟と謂ふ。夫れ徐行は豈に人の能はざる所ならむや。爲さざる所なり。堯舜の道は孝弟のみ。子、堯の服を服し、堯の言を誦し、堯の行を行はば是れ堯のみ。子、桀の服を服し、桀の言を誦し、桀の行を行はば是れ桀のみ。曰く、交、鄒の君に見ゆるを得て、以て館を假るべし。願くは留りて業を門に受けん。曰く、夫れ道は大路の若く然り。豈に知り難からんや。人求めざるを病むのみ。子歸りて之を求めば、餘師あらん。

一 曹の國君の弟 二 人の醫不肖は身長の如何に在らず、唯だ道を修むると否とに在り 三 一羽の小さき雛 四 秦の武王の時の力士 五 緩ルするなり 六 早く歩むなり 七 旅館を借ソ受くるなり 八 鄒國に逗留する意 九 誰しも之に由りて歩む道也、六ケ敷ことなきの意 一〇 師の多きこと

弟。疾行先二長者一。謂二之不弟一。夫徐行者。豈人所レ不レ能哉。所レ不レ爲也。堯舜之道。孝弟而已矣。子服二堯之服一。誦二堯之言一。行二堯之行一。是堯而已矣。曰。交得レ見レ於二鄒君一。可二以假レ館。願留而受二業於門一。曰。夫道若二夫路一然。豈難レ知哉。人病レ不レ求耳。子歸而求レ之。有二餘師一。

公孫丑問曰。高子曰。小弁。小人之詩也。孟子曰。何以言レ之。曰。怨。曰。固哉。高叟之爲レ詩也。有レ人レ於レ此。越人關レ弓而射レ之。則己談笑而道レ之。無レ他。疏レ之也。其兄關レ弓而射レ之。則己垂二涕泣一而道レ之。無レ他。戚レ之也。小弁之怨親レ親也。親レ親仁也。固矣夫。高叟之爲レ詩也。曰。凱風何以不レ怨。曰。凱風親之過小者也。小弁親之過大者也。親之過大而不レ怨。是愈疏也。親之過小而怨。是不可レ磯也。愈疏。不孝也。不レ可レ磯亦不孝也。孔子曰。舜其至孝矣。五十而慕。

宋牼將レ之レ楚。孟子遇レ於二石丘一。曰。先生將二何之一。曰。吾聞秦楚構レ兵。我將下見二楚王一說而罷レ之。楚王不レ悅。我將下見二秦王一說而罷レ之。二王我將レ有レ所遇焉。曰。

公孫丑問ひて曰く、高子曰く小弁は小人の詩なり。孟子曰く、何を以てか之を言ふ。曰く、怨みたり。曰く、固なるかな、高叟の詩を爲むるや。此に人あり、越人弓を關きて之を射ば、則ち己談笑して之を道はん。他なし之を疏ずればなり。其兄弓を關きて之を射ば、則ち己涕泣を垂れて之を道はん。他なし之を戚めばなり。小弁の怨むは親を親むなり。親を親むは仁なり。固なるかな。高叟の詩を爲むるや。曰く、凱風は何を以てか怨みざる。曰く、凱風は親の過小なる者なり。小弁は親の過大なる者なり。親の過小にして怨むは是れ磯すべからざるなり。愈〻疏ずるは不孝なり。磯すべからざるも亦不孝なり。孔子曰く、舜は其れ至孝になり、五十にして慕ふと。

宋牼將に楚に之かんとす。孟子、石丘に遇へり。曰く、先生將に何にか之かんとする。曰く、吾聞く、秦楚兵を構ふと。我將に楚王を見て說きて之を罷めしめんとす。楚王悅ばざれば我將に秦王を見て說きて之を罷めしめんとす。二王我將に遇ふ所あらんとすと。曰く、軻や請ふ、其詳なるを問ふことなからん。願はくは其指を聞かん。之を說くこと將に何如にせんとす。曰く、我將に其不利を言はんとす。曰く、先生の志は則ち大なり。先生の號は則ち不可なり。先生利を以て秦

一 齊國の人、子夏の弟子高行子なりと云ふ 二 詩經小雅の篇名、周の幽王褒姒を信じ申后をしりぞけ宜臼を追放す、宜臼此詩を作りて自ら怨む 三 偏固なるなり 四 高子の老人なるを以て云ふ 五 說くと云ふが如し 六 野蠻人が人を射んとするの意に用ふ 七 其の不可を言ひて、之を止めん 八 詩經鄘風の篇名、此の詩は七子ある母他に嫁せんとするを諫めんとて其子の作りしものなり 九 激し易き爲め觸るゝと出來ざるを云ふ

軻也。請無レ問二其詳一。願聞二其指一。說之將二何如一。曰。我將レ言二其不利一也。曰。先生之志則大矣。先生之號則不可。先生以レ利說二秦楚之王一。秦楚之王悅レ於レ利。以罷二三軍之師一。是三軍之士樂レ罷。而悅レ於レ利也。爲二人臣一者。懷レ利以事二其君一。爲二人子一者。懷レ利以事二其父一。爲二人弟一者。懷レ利以事二其兄一。是君臣父子兄弟。終去二仁義一。懷レ利以相接也。然而不レ王者。未之有也。何必曰レ利。

楚の王に說かば、秦楚の王利を悅びて以て三軍の師を罷めん。是れ三軍の士罷むることを樂みて利を悅ぶなり。人の臣たる者利を懷ひて以て其君に事へ、人の子たる者利を懷ひて以て其父に事へ、人の弟たる者利を懷ひて以て其兄に事ふ。是れ君臣父子兄弟終に仁義を去り利を懷ひて以て相接す。然り而して亡びざる者は未だ之れ有らざるなり。先生仁義を以て秦楚の王に說き、秦楚の王、仁義を悅びて三軍の師を罷めば、是れ三軍の士罷むるを樂んで仁義を悅ぶなり。人臣たる者仁義を懷ひて以て其君に事へ、人の子たる者仁義を懷ひて以て其父に事へ、人の弟たる者仁義を懷ひて以て其兄に事ふ。是れ君臣父子兄弟利を去り仁義を懷ひて以て相接するなり。然り而うして王たらざる者は未だ之れあらざるなり。何ぞ必ずしも利と曰はん。

一 宋牼は宋の人 二 地名 三 長者を云ふ、卽ち宋牼を呼ぶ也 四 二王のうち我が志と一致するものあらんとなり 五 旨なり、宋牼が二王に對して說かんとする餘旨の大要を云ふ 六 意味を表はす名號、標榜する所 七 三軍の樂徒卽ち大將より兵卒まで 八 三軍の戰士 九 私利を念頭に懸く

事二其兄一。是君臣父子兄弟。終去二仁義一。懷レ利以相接。然而不レ亡者。未之有也。先生以二仁義一說二秦楚之王一。秦楚之王悅レ於二仁義一。而罷二三軍之師一。是三軍之士。樂レ罷而悅レ於二仁義一也。爲二人臣一者。懷二仁義一以事二其君一。爲二人子一者。懷二仁義一以事二其父一。爲二人弟一者。懷二仁義一以事二其兄一。是君臣父子兄弟。去レ利。懷二仁義一以相接也。然而不レ王者。未之有也。何必曰レ利。

孟子居レ鄒。季任爲二任處守一。以レ幣交。受レ之而不レ報。處レ於二平陸一。儲子爲レ相。以レ幣交。受レ之而不レ報。他日由レ鄒之レ任。見二季子一。由二平陸一之レ齊。不レ見二儲子一。屋廬子喜曰。連得レ間矣。問曰。夫子之レ任。見二季子一。之レ齊。不レ見二儲

孟子鄒に居る。季任、任の處守たり。幣を以て交る。之を受けて報ぜず、平陸に處る。儲子相たり、幣を以て交る。之を受けて報ぜず。他日鄒より任に之きて季子を見る。平陸より齊に之きて儲子を見ず。屋廬子喜びて曰く、連間を得たりと。問ひて曰く、夫子任に之きて季子を見、齊に之きて儲子を見ざるは其の相たるが爲めか。曰く、非なり。書に曰く享に儀多し。儀、物に及ばざれば不享と曰ふ。惟志を享に役せずと。其の享を爲さざるが爲めなり。屋廬子悅ぶ。或ひと之を問ふ。屋廬子曰く、季子は鄒に之くことを得ず、儲子は平陸に之くことを得。

一 任は小國、季任は任君の季弟なり、或は云ふ季任は任季の誤寫と 二 處守は留守なり 三 幣帛、進物のこと 四 返禮せず 五 齊の邑名 六 連は屋廬子の名、問はずきまなり、孟子の處置異なるが故に質問するずきまを見出し得たるなり 七 書經商誥の篇、物を獻ずるの禮には儀式多し、儀式が幣物に及ばざる時は之を不享と云ふ、

子。爲二其爲一レ相與。曰。非也。書曰。享多レ儀。儀不レ及レ物。曰二不享一。惟不レ役二志于一享。爲二其不一レ成レ享也。屋廬子悅。或問レ之。屋廬子曰。季子不レ得レ之レ鄒。儲子得レ之二平陸一。

是れ志を享禮に用ひざるが爲めなりと、享に大切なるは志を用ふること卽ち禮を盡すに在り、儲子は之を缺けり、故に孟子報ゼザ、儲子の禮を缺けるは下の屋廬子の答によりて明かなり

淳于髡曰。先二名實一者爲レ人也後二名實一者自爲也。夫子在二三卿之中一。名實未レ如レ於二上下一而去レ之。仁者固如レ此乎。孟子曰。居二下位一不二以レ賢事二不肖一者伯夷也。五就レ湯五就レ桀者。伊尹也。不レ惡二汙君一。不レ辭二小官一者。柳下惠也。三子者不レ同レ道。其趨一也。一者何也。曰。仁也。君子亦仁而已。何必同。曰。魯繆公之時。公儀子爲レ政。子柳子思爲レ臣。魯之削也。滋甚。若レ是乎賢者之無レ益レ於レ國也。曰。虞不レ用二百里奚一而亡。秦穆公用レ之而霸。不レ用レ賢則亡。削何可レ

淳于髡曰く、名實を先きにする者は人の爲めにするなり。名實を後にする者は自ら爲めにするなり。夫子三卿の中に在りて、名實未だ上下に加はらずして之を去る。仁者固より此の如きか。孟子曰く、下位に居て賢を以て不肖に事へざる者は伯夷なり。五たび湯に就き五たび桀に就く者は伊尹なり。汙君を惡まず、小官を辭せざる者は柳下惠なり。三子者道を同じくせざれども其趨き一なり。一とは何ぞや。曰く、仁なり。君子は亦仁のみ。何ぞ必ずしも同じからん。曰く、魯の繆公の時公儀子政を爲す。子柳・子思臣たり。魯の削らるゝこと滋〻甚し。是の若きか賢者の國に益なきや。曰く、虞は百里奚を用ひずして亡び、秦の穆公は之を用ひて霸たり。賢を用ひざれば則ち亡ぶ、削らるゝこと何ぞ得べけんや。曰く、昔者王紂、洪に處り、河西善く謳ひ、緜駒、高唐に處り、齊右善く歌ふ。華周杞梁の妻善く其夫を哭して國俗を變ず。諸を內に有すれば必ず諸を外に形す。其事を爲して其功無き者は、髡未だ嘗て之を覩ざるなり。是の故に賢者無きなり。有らば則ち髡必ず之を識らん。曰く、孔子魯の司寇たり。用ひられず。從ひて祭る。燔肉至らず。冕を稅がずして行る。知らざる者は以爲らく肉の爲めなりと。其知る者は以爲らく、禮なきが爲めなりと。乃ち孔子は則ち微罪を以て行らんことを欲す。苟も去るを爲すを欲せず。君子の爲す所は衆人固より識らざるなり。

一 名譽と功績　二 進みて人を救ふ　三 消極的に自己を治め　四 大國の諸侯は三人の卿を置けり　五 上未だ君を正すを得ず、下未だ民を濟ふを得ざるを云ふ　六 五たびとは屢々隨身せしをいふと、或は湯桀の非を改めんとして伊尹を以て桀に遊む、桀用ふる能はず、伊尹湯のもとにかへる、湯復之を進む、かくすること凡そ五たびなりしと云ふ　七 心の向ふ所　八 進退を同じくせねばならぬ必要はない　九 魯の宰相、名は休　一〇 泄柳

得與。曰。昔者王豹處於淇。而河西善謳。綿駒處於高唐。而齊右善歌。華周杞梁之妻。善哭其夫。而變國俗。有諸內必形諸外。爲其事而無益者。髡未嘗覩之也。是故無賢者也。有則髡必識之。曰。孔子爲魯司寇。不用。從而祭。膰肉不至。不稅冕而行。不知者以爲爲肉也。其知者。以爲爲無禮也。乃孔子則欲以微罪行。不欲爲苟去。君子之所爲。衆人固不識也。

一 削ちる、位にてすみしは巫意賢人を用ひしが爲めなり 二 衛國の人にて歌を善くす、淇は川の名、衛に在り 三 齊國の人、亦歌を善くす、高唐は齊の邑名、齊右は齊の西部地方 四 共に齊人、莒に於て戰死す 五 齊に賢者無しと云ふ 六 魯君に誤いて郊祭す 七 燒き肉、祭の時に供へ、之を大夫に分つを禮とす 八 冕冠を脫せずして急ぎ去る 九 燔肉を分たざるは魯君及當事者の罪なりと雖も孔子大夫の位にあるを以て己も亦罪ありとなし、此を以て自ら魯を去れり、是より先き隣國齊が魯を亂さんとして女樂を送る、魯君歡樂して朝せざること三日、孔子道の行はれざるを見て魯を去ちんとせり、然れども罪を其君に歸することを欲せず、故に時の來るを待てり、今燔肉不至を以て好機となし、强ひて自らも罪ありとして去る

孟子曰。五霸者。三王之罪人也。今之諸侯。五霸之罪人也。今之大夫。今之諸侯之罪人也。天子適諸侯。曰巡狩。諸侯朝於天子。曰述職。春省耕而補不足。秋省斂而助不給。入其疆。土地辟。田野治。養老尊賢。俊傑在位。則有慶。慶以地。入其疆。土地荒蕪。遺老失賢。掊克在位。則有讁。一不朝則貶其爵。再不朝則削其地。三不朝則六師移之。是故天子討而不伐。諸侯伐而不討。五霸者。摟諸侯。以伐諸侯者也。故曰。五霸者。三王之罪人也。五霸桓公爲盛。葵丘之會。諸侯束牲載

孟子曰、五霸は三王の罪人なり。今の諸侯は五霸の罪人なり。今の大夫は今の諸侯の罪人なり。天子の諸侯に適くを巡狩と曰ひ、諸侯の天子に朝するを述職と曰ふ。春は耕すを省みて足らざるを補ひ、秋は斂むるを省みて給らざるを助く。其疆に入り、土地辟け、田野治り、老を養ひ賢を尊び、俊傑位に在れば則ち慶あり。慶するに地を以てす。其疆に入り、土地荒蕪し、老を遺れて賢を失ひ、掊克位にあれば、則ち讁あり。一たび朝せざれば則ち其爵を貶し、再び朝せざれば則ち其地を削り、三たび朝せざれば則ち六師之に移す。是の故に天子は討じて伐せず、諸侯は伐して討せず。五霸は諸侯を摟きて以て諸侯を伐つ者なり。故に曰く、五霸は三王の罪人なり。

一 春秋時代に於ける諸侯の盟主、齊の桓公、晉の文公、秦の穆公、宋の襄公、楚の莊王是れなり 二 三王は湯武文武なり、文武は父子の關係あるが故に一王として數ふるなり 三 賞與なり 四 自らはこりて人に勝つことを好む人、卽ち不良不正の人を云ふ 五 責む 六 降す 七 大軍をむけて之を討つなり 八 命を下して討たしむ 九 天子の命を奉じて諸侯親征するを云ふ

五霸は桓公を盛なりと爲す。葵丘の會に諸侯牲を束ね、書を載せて血を歃らず。初命に曰く、不孝を誅し樹子を易ふること無かれ。妾を以て妻と爲すこと無か

書而不レ歃レ血。初命曰。誅二不孝一。無レ易二樹子一。無二以レ妾爲レ妻。再命曰。尊レ賢育レ才。以彰二有德一。三命曰。敬レ老慈レ幼。無レ忘二賓旅一。四命曰。士無レ世レ官。官事無レ攝。取レ士必得。無二專殺一。大夫。五命曰。無レ曲レ防。無レ遏レ糴。無二有レ封而不レ告。曰。凡我同盟之人。既盟之後。言歸レ于レ好。今之諸侯。皆犯二此五禁一。故曰。今諸侯。五霸之罪人也。長二君之惡一。其罪小。逢二君之惡一。故曰。今之大夫。今之諸侯之罪人也。

れ。再命に曰く、賢を尊び才を育ひ以て有德を彰せ。三命に曰く、老を敬ひ幼を慈し、賓旅を忘るゝこと無かれ。四命に曰く、士官を世〻にすること無かれ。官の事は攝すること無かれ。士を取るには必ず得よ。專に大夫を殺すこと無かれ。五命に曰く、防を曲ぐること無かれ。糴を遏むるとな無かれ。封あり て告げざること無かれ。曰く、凡そ我が同盟の人既に盟ふの後、言に好に歸せよと。今の諸侯は皆此の五禁を犯せり。故に曰く、今の諸侯は五霸の罪人なりと。君の惡を長ずるは其罪小なり。君の惡を逢ふるは其罪大なり。今の大夫は皆君の惡を逢ふ。故に曰く、今の大夫は今の諸侯の罪人なりと。

一 魯僖公九年の會盟、左傳參照　二 犧牲を壇上に縛したるのみにて殺さざりし意　三 盟の辭を記せるもの　四 會盟には血を歃るべきに歃ちざりしなり　五 五命の文書中の初命なり　六 嗣子　七 有德者　八 旅行者を疎略にすな　九 世襲　一〇 官を襲ぬること　一一 隄防を曲ぐること　一二 隣國が、饑饉などの爲めに米穀を購入する時に之を邪魔すること勿れ　一三 盟主に告げずして封を人に與ふる勿れ　一四 交際の言　一五 君の心に惡心未だ發せざるに　臣其の惡を誘（君に惡に導くは其の罪大なり

魯欲レ使下愼子爲中將軍上。孟子曰。不レ教レ民而用レ之。謂二之殃一。民殃レ民者。不レ容レ於二堯舜之世一。一戰勝レ齊。遂有二南陽一。然且不可。愼子勃然不レ悅曰。此則滑釐所レ不レ識也。曰。吾明告レ子。天子之地。方千里。不二千里一不レ足二以待一諸侯一。諸侯之地。方百

魯、愼子をして將軍たらしめんと欲す。孟子曰く、民を教へずして之を用ふる之を民を殃すと謂ふ。民を殃する者は堯舜の世に容れられず。一たび戰ひて齊に勝ち、遂に南陽を有つて、然も且つ不可なり。愼子勃然として悅ばずして曰く、此れ則ち滑釐の識らざる所なり。曰く、吾明かに子に告げん。天子の地、方千里、千里ならざれば以て諸侯を待つに足らず。諸侯の地、方百里、百里ならざれば以て宗廟の典籍を守るに足らず。周公の魯に封ぜらるゝや方百里を爲す、地足らざるに非ず、而して百里に儉す。太公の齊に封ぜらるゝや、亦方百里を爲す。地足らざるに非ざるなり、而して百里に儉す。今魯方百里の者五つ、子以爲らく、王者作るとあらば則ち魯は損する所に在るか、益する所に在るか、徒に諸を彼に取りて以て此に與ふ。然れども且つ仁者は爲さず。況んや人を殺して以て之を求むる

里。不二百里一。不レ足二以守一宗廟一。周公之典籍。周公之封レ於魯一。爲二方百里一也。地非レ不レ足。而儉レ於二百里一。太公之封レ於レ齊也。亦爲二方百里一也。地非レ不レ足也。而儉レ於二百里一。今魯方百里者五。子以爲有二王者作一。則魯在レ所レ益乎。徒取二諸彼一以與レ此。然且仁者不爲。況於二殺レ人以求レ之乎。君子之事レ君也。務引二其君一以當レ道。志レ於仁而已。

孟子曰。今之事レ君者曰。我能爲レ君辟二土地一。充二府庫一。今之所レ謂良臣。

に於てをや。君子の君に事ふるや、務めて其君を引きて以て道に當り、仁に志さしむるのみ。

一 魯の臣、用兵に巧なる者 二 人民に戰戰を數(て)、父母長上に事ふる人の道を知らしめ、又農業の暇に軍事を習はしめて後人民を戰に使用すべきに然らずして人民を戰に用ふるなり 三 人民に災難を掛くるなり 四 堯舜の如き聖人の世には、其の罪を容赦せられぬ 五 泰山の西南、汶水の北に在る地 六 悅ばざる貌 七 寶子の名なり 八 合點のゆかぬことなり 九 諸侯の朝覲聘問の待遇をすること 一〇 諸侯の祭祀朝會の典例の記錄なり、之れを宗廟に藏め置くが故に宗廟之典籍といふ 一一 百里に制限するなり 一二 戰はずして取るなり 一三 魯を指す 一四 魯を指す 一五 道理に叶へしむるなり

孟子曰く、今の君に事ふる者は曰く、我は能く君の爲めに土地を辟き府庫を充さんと。今の所謂良臣は、古の所謂民の賊なり。君道に鄉はず仁に志さずして之を富まさんことを求む、是れ桀を富ますなり。我れ能く君の爲めに、與國と

古之所レ謂民賊也。君不レ鄉レ道。不レ志レ於レ仁。而求レ富レ之。是富レ桀也。我能爲レ君約二與國一戰必克。今之所謂良臣。古之所謂民賊也。君不レ鄉レ道。不レ志レ於レ仁。而求二爲レ之強戰一。是輔レ桀也。由二今之道一。無レ變二今之俗一。雖レ與二之天下一。不レ能二一朝居一也。

約し戰へば必ず克たんと。今の所謂良臣は古の所謂民の賊なり。君道に鄉はず、仁に志さず　而して之を爲めに強戰することを求む。是れ桀を輔くるなり。今の道に由りて今の俗を變ずること無ければ、之に天下を與ふと雖も、一朝も居ることを能はざるなり。

一 當今の君に仕官する者 二 人民に害をなす者 三 夏の桀王の如き暴君を富ましむるよからざる仕方 四 同盟國 五 正しき道 六 暫くの間も天下を有つこと能はず

白圭曰。吾欲二十而取一。何如。孟子曰。子之道。貉道也。萬室之國。一人陶則可乎。曰。不可。器不レ足レ用也。曰。

白圭曰く、吾二十にして一を取らんと欲す何如と。孟子曰く、子の道は貉の道なり。萬室の國一人陶すれば則ち可ならんや。曰く、不可。器用ふるに足らざるなり。曰く、夫れ貉は五穀生ぜず、惟黍のみ之に生ず。城郭宮室宗廟祭祀の禮無く、諸侯の幣帛饔飧無く、百官有司無し。故に二十にして一を取りて足れり。今中國に居り、人倫を去り君子無ければ、之を如何ぞ其れ可ならんや。陶以て寡きも且つ以

夫貉五穀不レ生。惟黍生レ之。無二城郭宮室宗廟祭祀之禮一。無二諸侯幣帛饔飧一。無二百官有司一。故二十取一而足也。今居二中國一。去二人倫一。無二君子一。如之何其可也。陶以寡。且不レ可二以爲一國。況無二君子一乎。欲レ輕二之於二堯舜之道一者。大桀小桀也。

白圭曰。丹之治レ水也。愈レ於レ禹。孟子曰。子過矣。禹之治レ水。水之道也。是故禹以二四海一爲レ壑。今吾子以二鄰國一爲レ壑。水逆行。謂二之降水一。降水者。洪水也。仁人之所レ惡也。吾子過矣。

て國を爲す可からず。況んや君子無きをや、之を堯舜の道より輕くせんと欲する者は大貉小貉なり。之を堯舜の道より重くせんと欲する者は大桀小桀なり。

㊀ 姓は白、名は丹、字は圭、周人なりと ㊁ 租稅十分の一を徵收するが三代の通則なり、然るに今二十分の一を租稅として取り立てんとす ㊂ 北方異狄の國の名 ㊃ 萬戶ある所にて一人が陶器を燒くこと ㊄ 絹帛の進物 ㊅ 賓客を饗應する禮なり ㊆ 交際の禮をいふ ㊇ 位を以て云ふ、在官の人を云ふ ㊈ 租稅の率は十分の一が最も適當なり、是れ堯舜の古法、之より多くも少くも共に惡しと云ふなり ㊉ 租稅を輕くするによりて大小と云へり ㊊ 重稅又は輕稅によりて云ふ

白圭曰く、丹の水を治むるや、禹より愈れり。孟子曰く、子過てり。禹の水を治むるは水の道なり。是の故に禹は四海を以て壑となす。今吾子は鄰國を以て壑と爲す。水逆行する之を降水といふ。降水とは洪水なり。仁人の惡む所なり、吾子過てり。

㊀ 白圭の名 ㊁ 禹の治水は四方の海に水を注ぎやり天下の害を除くのみ ㊂ 丹の治水は隣國に水を注ぎやり自國の害を除くのみ

孟子曰。君子不レ亮。惡乎執。○魯欲レ使二樂正子一爲レ政。孟子曰。吾聞レ之。喜不レ寐。公孫丑曰。樂正子強乎。曰。否。有二知慮一乎。曰。否。多二聞識一乎。曰。否。然則奚爲喜而不レ寐。曰。其爲レ人也好レ善。好レ善足乎。曰。好レ善優レ於二

孟子曰く、君子亮ならざれば惡にか執らん。○魯、樂正子をして政を爲さしめんと欲す。孟子曰く、吾之を聞き喜びて寐ねられず。公孫丑曰く、樂正子は強か。曰く、否。知慮あるか。曰く、否。聞識多きか。曰く、否。然らば則ち奚爲ぞ喜びて寐られざる。曰く、其の人となりや善を好む。善を好めば足るか。曰く、善を好めば天下に優なり。而るを況んや魯國をや。夫れ苟も善を好めば、則ち四海の内、皆千里を輕んじて、來つて之に告ぐるに善を以てせんとす。夫れ苟も善を好まざれば、則ち人將に曰はんとす、訑訑として予既に已に之を知ると。訑訑の聲音顏色人を千里の外に距む。士千里の外に止まらば、則ち讒諂面諛の人至らん。讒諂面諛の人と居らば、國治を欲すとも得べけんや。

天下に而況魯國乎。夫苟好善。則四海之内。皆將輕千里而來告之以善。夫苟不好善。則人將曰。諂諂予既已知之矣。諂諂之聲音顏色。距人於千里之外。士止於千里之外。則讒諂面諛之人至矣。與讒諂面諛之人居。國欲治可得乎。

一 信なり、信無くば力と恃む者個になしとなり 二 樂正子克なり 三 剛強果斷なり 四 知謀謀慮ありや 五 博聞多識なりや 六 餘裕あること 七 千里を遠しとせざる事 八 自分の智を誇りて他人の言を聽かざること

陳子曰。古之君子。何如則仕。孟子曰。所就三。迎之致敬以有禮。言將行其言也。則就之。禮貌未衰。言弗行也。則去之。其次雖未行其言也。迎之致敬。以有禮。則就之。禮貌衰。則去之。其下朝不食夕不食。飢餓不能出門戶。君聞之曰。吾大者不能行其道。又不能從其言也。使飢餓於我土地。吾恥之。周之亦可受也。免死而已矣。

陳子曰く、古の君子何如なれば則ち仕ふる。孟子曰く、就く所三つ、去る所三つ。之を迎ふるに敬を致して以て禮あり。言ひて將に其言を行はんとすれば、則ち之に就く。禮貌未だ衰へざるも、言行はれざれば則ち之を去る。其次は未だ其言を行はずと雖も、之を迎ふるに敬を致し、以て禮あれば則ち之に就く。禮貌衰ふれば則ち之を去る。其下は朝に食はず夕に食はず、飢餓門戶を出づる能はず。君之を聞きて曰く、吾大にしては其道を行ふ能はず。又其言に從ふ能はず。我土地に飢餓せしむるは、吾之を恥づとて、之を周はば亦受くべきなり、死を免るゝのみ。

一 陳臻 二 仕ふるなり 三 仕へざるなり 四 過するに禮を以てし待つに和顏を以てすること 五 上にしてはと同じ 六 其の次に同じ 七 敬ふなり 八 祿の多くを受けず、死を免かるゝ程度に於て受くるのみ

孟子曰。舜發於畎畝之中。傅說舉於版築之間。膠鬲舉於魚鹽之中。管夷吾舉於士。孫叔敖舉於海。百里奚舉於市。故天將降大任於是人也。必先苦其心志。勞其筋骨。餓其體膚。空乏其身。行拂亂其所爲。所以動心忍性。曾益其所不能。人恒過然後能改。困於心衡慮而後作。徵於色發於聲而後喻。

孟子曰く、舜は畎畝の中に發し、傅說は版築の間に擧げられ、膠鬲は魚鹽の中に擧げられ、管夷吾は士に擧げられ、孫叔敖は海に擧げられ、百里奚は市に擧げらる。故に天の將に大任を是人に降さんとするや、必ず先づ其心志を苦め、其筋骨を勞し、其體膚を餓し、其の身を空乏にし、行其の爲す所に拂亂す。心を動し性を忍び其の能くせざる所を曾益する所以なり。人恒に過ちて然る後に能く改む。心に困し慮に衡して後に作る。色に徵し聲に發して後に喻る。

於是人也。必先苦其心志。勞其筋骨。餓其體膚。空乏其身。行拂亂其所爲。所以動心忍性。曾益其所不能。人恆過。然後能改。困於心。衡於慮。而後作。徵於色。發於聲。而後喻。入則無法家拂士。出則無敵國外患者。國恆亡。然後知生於憂患。而死於安樂也。

孟子曰。教亦多術矣。予不屑之教誨也者。是亦教誨之而已矣。

入りては則ち法家拂士無く、出ては則ち敵國外患無き者は國恒に亡ぶ。然して後に知る、憂患に生きて安樂に死することを。

㊀ 田畝なり、舜初め歷山の下に耕せりと云ふ ㊁ 城壁を築くこと、傳說は其の人夫の中に居りしに、殷の武丁之を擧用せり ㊂ 殷紂を避けて魚鹽を賣る、周の文王之をまぐ ㊃ 管仲は魯より捕はれ齊に送られ、獄官の中より桓公に拔擢せらる ㊄ 孫叔敖海濱に居りしが楚の莊王に擧げらる ㊅ 困窮貧之にす ㊆ 思ふ事皆違ひて一つも爲し遂げられぬこと ㊇ 其心を驚動し ㊈ 其性を堅く忍ばせ ㊉ 增益す ㊊ 思慮の錯亂して通ぜざること ㊋ 微微の中に明かにする能はず、事理論者、以て人の色に論し人の聲に發するに至つて始めてよく覺悟して通曉すと也 ㊌ 法度 ㊍ 賢代の家と幼弱の臣

孟子曰。教も亦術多し。予が之を屑しとして教誨せざる者は、是れ亦之を教誨するのみ。

㊀ 人を教ふるにも種々方法あり、受教者の行よからず、之を教ふるを屑とせずして之を謝絕するも、其の人之に感憤して行を改め學に志すこととならば、謝絕も亦一の教授なり

孟子曰。盡其心者。知其性也。知其性則知天矣。存其心養其性所以事天也。殀壽不貳。脩身以俟之所以立命也。

孟子曰。莫非命也。順受其正。是故知命者不立乎巖牆之下。盡其

卷之十三

盡心章句上

孟子曰く、其心を盡す者は其性を知る。其性を知れば則ち天を知る。其心を存して其性を養ふは、天に事ふる所以なり。殀壽貳せず、身を脩めて以て之を俟つは、命を立つる所以なり。

㊀ 惻隱羞惡辭讓是非の心 ㊁ 人性の善なることを認知す ㊂ 人性は天の賦與する所なれば、性の善なるを知れば之を賦與する天の善を好むことを自ら知り得るとなり ㊃ 殀は短命、貳は疑ふ意、立命は天命を守ること

孟子曰く、命に非ざること莫きなり。順ひて其正を受く。是故に命を知る者は巖牆の下に立たず。其道を盡して死する者は正命に非ざるなり。

桎梏して死する者は正命なり。

道一而死者。正命也。桎梏死者。非二正命一也。

孟子曰。求則得レ之。舍則失レ之。是求有レ益二於得一也。求二在レ我者也一。求レ之有レ道。得レ之有レ命。是求無レ益レ於レ得也。求二在レ外者一也。

孟子曰。萬物皆備レ於レ我矣。反レ身而誠。樂莫レ大レ焉。強恕而行。求レ仁莫レ近レ焉。

孟子曰。行レ之而不レ著焉。習而不レ察焉。終身由レ之。而不レ知二其道一者衆也。

孟子曰。人不レ可二以無一レ恥。無レ恥之恥無レ恥矣。○孟子曰。恥之於レ人大矣。爲二機變之巧一者。無所レ用レ恥焉。不レ恥レ不レ若レ人。何若レ人有。

孟子曰古之賢王好レ善而忘レ勢。古之賢士。何獨不レ然。樂二其道一而忘一

㊀ 人の死は皆天命なりと雖も、善を行ひて正命を受くべく努力すべしとなり ㊁ 天命に順ひて正當なるものを受く ㊂ 爲人知識なり ㊃ 罪人を刑する手械足械なり

孟子曰く、求むれば則ち之を得、舍つれば則ち之を失ふ。是れ求め得るに益あるなり。我に在る者を求むればなり。之を求むるに道あり。之を得るに命あり。是れ求め得るに益無きなり。外に在る者を求むればなり。

㊀ 我身内に在るもの、卽ち天命を云ふ、朱註に仁義禮知凡そ性の有する所の者といへり ㊁ 求むる方法 ㊂ 外より來るもの、人爵を云ふ、富貴利達の類亦皆然り

孟子曰く、萬物皆我に備る。身に反みて誠なれば樂焉より大なるは莫し。強恕して行ふ。仁を求むること焉より近きは莫し。

㊀ 天下の人心皆同じ、故に我心を推して人に譬ちず、故に皆我心に備はると謂ふべし、萬物とは天下の萬事なりと云ふ ㊁ 自ら勉強して忠恕の道を行ふべし、忠恕とは己を推して人に及ぼすこと、卽ち同情なり

孟子曰く、之を行ひて著しからず。習ひて察せず。終身之に由りて而も其

道を知らざる者は衆し。

㊀ 仁義の心を云ふ ㊁ 適者ならしむる能はず ㊂ 仁義の道に從りながちの意

孟子曰く、人以て恥づること無かるべからず。恥無きを之れ恥づれば恥づること無し。○孟子曰く、恥の人に於けるや大なり。機變の巧を爲す者は恥を用ふるに所なし、人に若かざるを恥ぢざれば何ぞ人に若くことか有らむ。

㊀ 無恥の心が無ければならぬ ㊁ 恥づるなき所に恥づれば修身恥辱に遇はずと ㊂ 恥を知ることは人に大切なりと ㊃ 計略々言語を以て人を陷れること ㊄ 人に及ばざるなり

孟子曰く、古の賢王は善を好みて勢を忘る。古の賢士は何ぞ獨り然らざらん。其道を樂みて人の勢を忘る。故に王公も敬を致し禮を盡さざれば則ち亟〻之を見ることを得ず。見ることすら且つ猶ほ亟〻することを得ず。而るを況んや得て之を臣とするをや。

人之勢。故王公不致敬盡禮。則不得亟見之。見且猶不得亟。而況得而臣之乎。

孟子謂宋句踐曰。子好遊乎。吾語子遊。人知之亦囂囂。人不知亦囂囂。曰。何如斯可以囂囂矣。曰。尊德樂義。則可以囂囂矣。故士窮不失義。達不離道。窮不失義。故士得己焉。達不離道。故民不失望焉。古之人得志。澤加於民。不得志。脩身見於世。窮則獨善其身。達則兼善天下。

孟子曰。待文王而後興者。凡民也。若夫豪傑之士。雖無文王猶興。

○孟子曰。附之以韓魏之家。如其自視欿然。則過人遠矣。

孟子曰。以佚道使民。雖勞不怨。以生道殺民。雖死不怨殺者。

孟子曰。霸者

㊀ 人の善を好むなり ㊁ 己の權勢を忘れて賢者を敬すること ㊂ 己の道なり ㊃ 君侯の權勢

孟子、宋句踐に謂ひて曰く、子、遊を好むか。吾、子に遊を語らむ。人之れを知れども亦囂囂、人知らざれども亦囂囂たり。曰く、何如せば斯に以て囂囂たるべき。曰く、德を尊び義を樂めば則ち以て囂囂たるべし。故に士は窮して義を失はず。達して道を離れず。窮して義を失はず、故に士己を得。達して道を離れず、故に民望を失はず。古の人志を得れば澤民に加はり、志を得ざれば身を脩めて世に見はる。窮すれば則ち獨り其身を善くし、達すれば則ち兼ねて天下を善くす。

㊀ 當時の遊說家なり、姓は宋、名は句踐 ㊁ 遊說 ㊂ 自得無欲の說 ㊃ 德は得なり、我身に得たる德なり ㊄ 我身の守る義なり ㊅ 榮達なり ㊆ 己の本分を全うす ㊇ 人民本望通りになる ㊈ 名實諸侯に見はる

孟子曰く、文王を待つて後に興る者は凡民なり。夫の豪傑の士の若きは、文王無しと雖も、猶ほ興る。○孟子曰く、之に附するに韓魏の家を以てするも、如し其れ自ら視ること欿然たらば、則ち人に過ぐること遠し。

㊀ 感化を受くること ㊁ 感愼興起すること ㊂ 益し加ふること ㊃ 晉の卿相の家柄にて富貴なり、後、晉を分割して各々國を立つ ㊄ 不滿の貌

孟子曰く、佚道を以て民を使へば、勞すと雖も怨みず。生道を以て民を殺せば、死すと雖も殺す者を怨みず。

㊀ 安逸ならしむる道 ㊁ 民生を遂げしめんとする道

孟子曰く、霸者の民は驩虞如たり。王者の民は皡皡如たり。之を殺して怨みず、

之民。驩虞如也。王者之民。皡皡如也。殺之而不怨。利之而不庸。民日遷善。而不知爲之者。夫君子所過者化。所存者神。上下與天地同流。豈曰小補之哉。

之て利しを庸とせず。民日に善に遷りて之を爲す者を知らず。夫れ君子過ぐる所の者は化し、存する所の者は神、上下天地と流を同じうす。豈に之を小補すと曰はんや。

㊀ 樂み喜ぶ樣 ㊁ 廣大自得の說 ㊂ 功とせず ㊃ 善に遷らせし者 ㊄ 聖人の意 ㊅ 感化を及ぼすこと ㊆ 聖人の存在する所は其の感化神の如し ㊇ 王業は決して一時の取り繕ひに非ざること

孟子曰。仁言不如仁聲之入人深也。善政不如善教之得民也。善政民畏之。善教民愛之。善政得民財。善教得民心。

孟子曰く、仁言は仁聲の人に入るの深きに如かざるなり。善政は善教の民を得るに如かざるなり。善政は民之を畏れ、善教は民之を愛す。善政は民の財を得、善教は民の心を得。

㊀ 仁言を以て民を論すこと ㊁ 仁君といふ評判が深く人心に感化を與ふるに及ばず ㊂ 政は法度禁制なり ㊃ 教は仁義學樂なり ㊄ 百姓足りて君足らざることなしの意 ㊅ 其親を後にせず君を遠れざる意

孟子曰。人之所不學而能者。其良能也。所不慮而知者。其良知也。孩提之童無不知愛其親也。及其長也。無不知敬其兄也。親親仁也。敬長義也。無他。達之天下也。

孟子曰く、人の學ばざる所にして能くする者は其良能なり。慮らざる所にして知る者は其良知なり。孩提の童も其親を愛するとこを知らざること無し。其長ずるに及びて其兄を敬することを知らざること無し。親を親しむは仁なり。長を敬するは義なり。他無し之を天下に達するなり。

㊀ 人爲を假らず、自然に得たる能力 ㊁ 自然の知識 ㊂ 孩は小兒の笑ふこと、提は提抱なり、二三才の幼兒を云ふ ㊃ 仁義の道を行ふとはこの天性の仁義を天下に推し廣むるのみ

孟子曰。舜之居深山之中。與木石居。與鹿豕遊。其所以異於深山之野人者幾希。及其聞一

孟子曰く、舜の深山の中に居る、木石と居り、鹿豕と遊ぶ、其の深山の野人と異なる所以の者幾ど希なり。其の一の善言を聞き、一の善行を見るに及びて、江河を決して沛然として之を能く禦むること莫きが若し。

㊀ 歷山の麓 居りし故爾く云ふ ㊁ 舜の深山に住する狀態は卑賤の凡人とさして異なる處なし ㊂ 其の趨向することの旺盛なる狀を形容していふ

善言聞一善行。若決江河。沛然莫之能禦也。

孟子曰。無爲其所不爲。無欲其所不欲。如此而已矣。○孟子曰。人之有德慧術知者。恒存乎疾疾。獨孤臣孽子其操心也危。其慮患也深。故達。

孟子曰。有事君人者。事是君。則爲容悅者也。有安社稷臣者。以安社稷爲悅者也。有天民者。

孟子曰、其の爲さざる所を爲すこと無く、其の欲せざる所を欲する無かれ、此の如くせんのみ。○孟子曰く、人の德慧術知ある者、恒に疾疾に存す。獨り孤臣孽子其の心を操るや危く、其の患を慮るや深し。故に達す。

㊀ 己の爲すを欲せざることを他人に要求せざるなり。朱注にては其の行ふべき事を行ふなく、其の欲すべき事を欲するなしと解す　㊁ 德の聰なる術の巧なる　㊂ 熟病、凡て人は災厄に遭うて憂憤し其の知德を成就するものなり　㊃ 君に用ひられざる孤立の臣下、親に疎んぜらるゝ庶子、かゝる不遇に居るものは常に危きに居るが如く用心するものなり　㊄ 心持の安かちぬなり　㊅ 消理に達す

孟子曰、君に事ふる人といふ者あり。是の君に事ふれば則ち容悅を爲す者なり。社稷を安ずる臣といふ者あり。社稷を安ずるを以て悅と爲す者なり。天民といふ者あり。達して天下に行ふべくして、而る後に之を行ふ者なり。大人といふ者あり。己を正しうして物正しき者なり。

遂可行於天下。而後行之者也。有大人者。正己而物正者也。

㊀ 顏色を悅ばせて取り入ること　㊁ 社は土地の神、稷は五穀の神、轉じて國家の意に用ふ　㊂ 己の滿足　㊃ 德有りて隱れて人に役せられざる民　㊄ 聖人と同じ　㊅ 君と民とを兼ねて物と云へり

孟子曰、君子有三樂。而王天下不與存焉。父母俱存。兄弟無故。一樂也。仰不愧於天。俯不怍於人。二樂也。得天下英才。而教育之。三樂也。君子有三樂。而王天下不與存焉。

孟子曰く、君子に三樂あり。而して天下に王たるは與り存せず。父母俱に存し兄弟故無きは一樂なり。仰いで天に愧ぢず俯して人に怍ぢざるは二樂なり。天下の英才を得て之を教育するは三樂なり。君子に三樂あり。而して天下に王たるは與り存せず。

㊀ 王者たることは三樂の中に加はり居らず　㊁ 事故

孟子曰。廣土衆民。君子欲之。所樂不存焉。

孟子曰く、廣土衆民は君子之を欲す。樂しむ所は存せず。天下に中して立ち四海の民を定む。君子之を樂しむ。性とする所は存せず。君子の性とする所は大に

焉。中二天下一而立。定二四海之民一。君子樂レ之。所レ性不レ存焉。君子所レ性。雖二大行一不レ加焉。雖二窮居一不レ損焉。分定故也。君子所レ性。仁義禮智根レ於心一。其生レ色也。睟然見レ於レ面。盎レ於レ背。施レ於四體一。四體不レ言而喻。

行ふと雖も加へず。窮居すと雖も損せず。分定まるが故なり。君子の性とする所は、仁義禮智心に根ざす。其の色に生ずるや、睟然として面に見はれ、背に盎れ、四體に施き、四體言はずして喻る。

一きたる樂しむ所には足らぬ　二天下の中央に都すること　三君子の性とする所ではない　四天賦の性の分量定まる　五心に根をおろす　六仁義禮智の身の外に見はるゝや　七潤澤の貌　八以下は行き渡る意　九四肢も命令を受けずとも我が意を解る、古注にては睟を人之を喻るなりと解す

孟子曰。伯夷辟レ紂。居二北海之濱一。聞二文王作興一曰。盍レ歸乎來。吾聞。西伯善養レ老者。天下有二善養レ老。則仁人以爲二己歸一矣。五畝之宅。樹二牆下一以レ桑。匹婦蠶レ之。則老者足二以衣レ帛矣。五母雞。二母彘。無レ失二其時一。老者足二以無レ失レ肉矣。百畝之田。匹夫耕レ之。八口之家。可二以無レ飢矣。所レ謂西伯善養レ老者。制二其田里一。敎二之樹畜一。導二其妻子一。使レ養二其老一。五十非レ帛不レ煖。七十非レ肉不レ飽。不レ煖不レ飽謂二之凍餒一。文王之民。無二凍餒之老者一。此之謂也。

孟子曰。伯夷紂を辟けて北海の濱に居り、文王作興すと聞き、曰く、盍ぞ歸せざる、吾聞く西伯は善く老を養ふ者と。太公紂を辟けて東海の濱に居り、文王作興すと聞き、曰く、盍ぞ歸せざる、吾聞く西伯は善く老を養ふ者と。天下に善く老を養ふあれば則ち仁人以て己の歸となす。五畝の宅牆下に樹うるに桑を以てし、匹婦之に蠶せば、則ち老者は以て帛を衣るに足れり。五母雞二母彘其時を失ふ無くば、老者は以て肉を失ふ無きに足れり。百畝の田、匹夫之を耕せば、八口の家を以て飢うる無かるべし。所謂西伯善く老を養ふとは其田里を制し、之に樹畜を敎へ、其妻子を導き其老を養はしむ。五十は帛に非ざれば煖ならず。七十は肉に非ざれば飽かず。煖、かならず飽かざる之を凍餒と謂ふ。文王の民凍餒の老無しとは此の謂なり。

一本章は離婁上に出づ　二己の歸すべき所となす　三以下梁惠王上篇に見ゆ、文に少異あり　四五畝の母雞　五二匹の牝家　六人民の田地と宅地とを制限するなり　七穀物と桑とを植うる事及び雞と彘とを飼ふ事

孟子曰。易二其田疇一。薄二其稅斂一。民可レ使レ富

孟子曰く、其田疇を易め其稅斂を薄くせば、民は富ましむべきなり。之を食ふに時を以てし、之を用ふるに禮を以てせば、財勝げて用ふべからざるなり。民水

也。食之以時。用之以禮。財不可勝用也。民非水火不生活。昏暮叩人之門戶求水火。無弗與者。至足矣。聖人治天下。使有菽粟如水火。菽粟如水火而民焉有不仁者乎。

火に非ざれば生活せず。昏暮に人の門戸を叩きて水火を求むるに與へざる者無し。至りて足ればなり。聖人の天下を治むる、菽粟有る水火の如くならしむ。菽粟水火の如くにして、民焉ぞ不仁なる者有らんや。

㊀ 嗇は一井の田なり、一説に毎年耕し得べき田と ㊁ 一説に休なりと解す、地力を休むるなりと ㊂ 其の時節時節を過へぬ事必要なるを云ふ、食は一に養也と解す、又通ずるに似たり ㊃ 決度なり ㊄ 豆と米とが濕山あることを形容す

孟子曰。孔子登東山而小魯。登泰山而小天下。故觀於海者難爲水。遊於聖人之門者難爲言。觀水有術。必觀其瀾。日月有明。容光必照焉。流水之爲物也。不盈科不行。君子之志於道也。不成章不達。

孟子曰く、孔子東山に登りて魯を小とし、泰山に登りて天下を小とす。故に海に觀る者は水を爲し難く、聖人の門に遊ぶ者は言を爲し難し。水を觀るに術あり、必ず其瀾を觀る。日月明有り。容光必ず照す。流水の物爲るや、科に盈たざれば行かず、君子の道に志すや、章と成さざれば達せず。

㊀ 魯の城東の山 ㊁ 海を觀る者は大水を知る、故に之を説くに小水を以てし難し、聖人の門に遊ぶ者は大道を聞く、故に之に説くに小道を以てし難し ㊂ 水大なれば波も大なり ㊃ 微小の間隙を云ふ ㊄ 内に盈ちて外に章をなすに非ざれば ㊅ 眞に其道に通達せりとなさず

孟子曰。雞鳴起。孳孳爲善者。舜之徒也。雞鳴而起。孳孳爲利者。蹠之徒也。欲知舜與蹠之分。無他。利與善之間也。

孟子曰く、雞鳴きて起き、孳孳として善を爲す者は舜の徒なり。雞鳴きて起き孳孳として利を爲す者は蹠の徒なり。舜と蹠との分を知らんと欲せば、他無し、利と善との間なり。

㊀ 勤めて已まぬまこと ㊁ 盜跖のこと、大盜賊なり

孟子曰。楊子取爲我。拔一毛而利天下。不爲也。墨子兼愛。摩頂放踵利天下。爲之。

孟子曰く、楊子は我が爲めに爲るを取る。一毛を拔きて天下を利するも爲さざるなり。墨子は兼ね愛す。頂を摩し、踵に至るも、天下を利するは之を爲す。子莫は中を執る。中を執るは之に近しと爲す。中を執りて權なきは猶ほ一を執るがごとし、一を執ることを惡む所の者は、其の道を賊ふが爲めなり。一を舉げて百

之。子莫執中。執中爲近之。執中無權。猶執一也。所惡執一者。爲其賊道也。舉一而廢百也。

孟子曰。飢者甘食。渴者甘飲。是未得飲食之正也。飢渴害之也。豈惟口腹有飢渴之害。人心亦皆有害。人能無以飢渴之害爲心害。則不及人。不爲憂矣。

孟子曰。柳下惠。不以三公易其介。○孟子曰。柳下惠。不以三公易其介。○孟子曰。有爲者。辟若掘井。掘井九刱而不及泉。猶爲棄井也。○孟子曰。堯舜性之也。湯武身之也。五霸假之也。久假而不歸。惡知其非其有也。

公孫丑曰。伊尹曰。予不狎。予不順。放大甲于桐。民大悅。大甲賢。又反之。民大悅。賢者之爲人臣也。其君不賢。則固可放與。孟子曰。有伊尹之志。則可。無伊尹之志。則篡也。

を廢すればなり。

㊀ 名は宋、前出 ㊁ 利己主義を主張すること ㊂ 名は霍、漢樂論者 ㊃ 自恣を平等に愛すること ㊄ 頭の上より足の踵まですりつぶすこと ㊅ 魯の賢者 ㊆ 前二者の中間を執る ㊇ 聖人の道に近し ㊈ 物事に輕重なきをいふ ㊉ 固執して權宜を知らざれば、楊墨と同じく一方に偏するものなり

孟子曰く、飢ゑたるものは食を甘んじ、渴する者は飲を甘んず。是れ未だ飲食の正を得ざるなり。飢渴之を害すればなり。豈に惟に口腹のみ飢渴の害あるらんや。人心も亦皆害有り。人能く飢渴の害を以て心の害と爲すこと無ければ、則ち人に及ばざるは憂と爲さず。

㊀ 飢渴が人の味覺を害するを云ふ ㊁ 人心の和欲に害せらるゝを云ふ

孟子曰く、柳下惠は三公を以て其介を易へず。○孟子曰く、爲すこと有る者は辟へば井を掘るが若し。井を掘ること九刱にして泉に及ばざれば猶ほ井を棄つとなす。○孟子曰く、堯舜は之を性にするなり。湯武は之を身にするなり。五霸は之を假るなり。久しく假りて歸さず。惡んぞ其の有に非ざるを知らんや。

㊀ 太傅太保之を三公と云ふ ㊁ 節操 ㊂ 古註にては、爲すある者は得られずと知れば中道にて棄く前に行ひし所を棄てて他の事をなすと解し、朱註によれば、道に志して中道にて止むは井を掘りて九仞の深さに達せるに泉に至らずとて止むに等しく自ら止むなり、成功に為なきなりと解す ㊃ 刱は仞なり、仞は普通八尺をいふ ㊄ 之の字は仁義を指す、堯舜は天性自然に仁義を好み、湯武は身に行ひて體得す ㊅ 體得したるなり ㊆ 借用す ㊇ 久しく假りて歸さざれば遂に己れのものとなる故に仁義も亦勉めて行ふに在るなり

公孫丑曰く、伊尹曰く、予不順に狎れずと。大甲を桐に放く。民大に悅ぶ。大甲賢にして又之を反す。民大に悅ぶ。賢者の人臣たるや、其君不賢ならば則ち固より放くべきか。孟子曰く、伊尹の志有らば則ち可なり。伊尹の志無くば則ち簒へるなり。

㊀ 書經太甲篇に見ゆ ㊁ 義理に從はざること ㊂ 幽閉す ㊃ 都の名（臨す

公孫丑曰。詩曰。不素餐兮。君子之不耕而食何也。孟子曰。君子居是國也。其君用之。則安富尊榮。其子弟從之。則孝弟忠信。不素餐兮。孰大於是。

公孫丑に曰く、詩に曰く、素餐せずと。君子の耕さずして食ふは何ぞや。孟子曰く、君子の是の國に居るや、其君之を用ふれば則ち安富尊榮、其子弟之に從へば則ち孝弟忠信、素餐せざること、孰れか是より大ならん。

一 詩經魏風伐檀の篇 二 功なくして食祿を食むこと 三 暗に孟子を指す

王子墊問曰。士何事。孟子曰。尚志。曰。何謂尚志。曰。仁義而已矣。殺一無罪非仁也。非其有而取之非義也。居惡在。仁是也。路惡在。義是也。居仁由義。大人之事備矣。

王子墊問ひて曰く、士何をか事とする。孟子曰く、志を尚くす。曰く、何を か志を尚くすと謂ふ。曰く、仁義のみ。一無罪を殺すは仁に非ざるなり。其有に非ずして之を取るは義に非ざるなり。居惡にか在る。仁是なり。路惡にか在る。義是なり。仁に居り義に由る、大人の事備れり。

一 齊王の子 二 學者の通稱 三 高尚にす 四 公卿大夫をいふ

孟子曰。仲子不義與二之齊國一而弗受。人皆信之。是舍二簞食豆羹一之義也。人莫大焉。馮亡親戚君臣上下。以二其小者一信二其大者一。奚可哉。桃應問曰。舜爲二天子一。皐陶爲レ士。瞽瞍殺レ人。則如レ之何。孟子曰。執レ之而已矣。然則舜不レ禁與。曰。夫舜惡得而禁レ之。夫有レ所レ受レ之也。然則

孟子曰く、仲子は不義にして之に齊國に與ふるも受けず。人皆之を信ず。是れ簞食豆羹を舍つるの義なり。人、戚君臣上下を亡するより大なるは莫し。其小なる者を以て其大なるを信ず、奚ぞ可ならんや。

一 齊の陳仲子、前出 二 一說に「之に齊國を與ふるも不義として受けず」と讀む 三 賢者なりと信ず 四 一簞の食一豆の羹、之を捨つるは小事なり 五 其大なる罪の意 六 賢者となす可からず

桃應問ひて曰く、舜天子たり。皐陶士たり。瞽瞍人を殺さば則ち之を如何にせん。孟子曰く、之を執へんのみ。然らば則ち舜禁ぜざるか。曰く、夫れ舜惡んぞ得て之を禁ぜん。夫れ之を受くる所有るなり。然らば則ち舜之を如何にせん。曰く、舜天下を棄つる視るがごとし。竊かに負ひて逃れ、海濱に遵ひて處り、身を終ふるまで訢然として樂みて天下を忘れん。

一 桃應の弟子 二 刑獄の官 三 舜の父 四 其儀に及ばずと雖止めないか 五 法令は先代より傳受する所にて私に變す可からざればなり 六 破れたる草履 七 欣然に同じ

舜如レ之何。曰。舜視レ棄二天下一猶レ棄二敝蹝一也。竊負而逃遵二海濱一而處、終身訢然樂而忘二天下一。

孟子白レ范之齊。望二見齊王之子一。嚬然歎曰。居移レ氣。養移レ體。大哉居乎。夫非二盡人之子一與。孟子曰。王子宮室車馬衣服。多與レ人同。而王子若レ彼者。其居使二之然一也。況居二天下之廣居一者乎。魯君之宋。呼レ於二垤澤之門一。守者曰。此非二吾君一也。何其聲之似二我君一也。此無レ他。居相似也。

孟子曰。食而

孟子、范より齊に之き、齊王の子を望み見、嚬然として歎じて曰く、居は氣を移し、養は體を移す。大なるかな居や。夫れ盡く人の子に非ざるか。孟子曰く、王子の宮室車馬衣服多く人と同じくして、王子彼の若きは其居之をして然りしむるなり。況んや天下の廣居に居る者をや。魯の君宋に之き、垤澤の門に呼ぶ。守る者曰く、此れ吾が君に非ざるなり。何ぞ其聲の我が君に似たるや。此れ他なし居相似たればなり。

(一) 齊の邑なり (二) 歎息する貌 (三) 居所は氣象を轉移せしむ (四) 奉養は形體を移し易ふ (五) 種々の說あるも孟子曰を衍文と見ずして端を改めて細說するの意を示すべく此三字を用ひしと見るべきか (六) 氣象の同じからざるなり (七) 仁を云ふ (八) 宋の城門の名 (九) 宋の君

孟子曰く、食ひて愛せざるは之を豕交するなり。愛して敬せざるは之を獸畜するなり。恭敬は幣の未だ將はざる者なり。恭敬して實なければ君子は虛しく拘す可からず。

(一) 祿を與へて養ふ (二) 豕として交際すること (三) 犬馬を飼ふやうに取扱ふなり (四) 恭敬は儐擯を行ふことの即ち儀式以前より存する精神なり、此の精神なく單なる虛禮を以てしては君子を引き留むること能はずとなり

孟子曰く、形色は天性なり。惟聖人にして然る後以て形を踐む可し。○齊の宣王喪を短くせんと欲す。公孫丑曰く、朞の喪をなすは猶ほ已むに愈るか。孟子曰く、是れ猶ほ其兄の臂を紾らすものあり、子之に謂つて姑く徐徐にせよと言ふがごとし。亦之に孝弟を敎へんのみ。王子其母死する者あり。其傅之が爲めに數月の喪を請ふ。公孫丑曰く、此の若き者は何如ぞや。曰く、是れ之を終へんと欲して得可からざるなり。一日を加ふと雖も已むに愈れり。夫の之を禁ずる莫くして爲さざる者を謂ふなり。

(一) 形體と顏色 (二) 仁義禮智の天性 (三) 暴動の禮に合するを云ふ (四) 三年の喪を短くして一年となさんとす

弟一而已矣。王子有二其母死者一。其傅爲レ之請二數月之喪一。公孫丑曰。若此者何如也。曰。是欲レ終レ之而不レ可レ得也。雖レ加二一日一愈於レ已。謂下夫莫之禁一而弗レ爲者上也。

なり　㊄ 初の喪は一年の喪なり　㊅ 緩やかにするなり　㊆ 匠子の賃母に對する喪期は短し、故に更に數月の喪を延出せるなり　㊇ 三年の王制の喪を禁止せられしものならずして

孟子曰。君子之所二以教一者五。有下如二時雨化一レ之者上。有二成レ德者一。有二答レ問者一。有二私淑艾者一。此五者。君子之所二以教一也。

孟子曰く、君子の教ふる所以の者五、時雨の之を化するが如き者有り。德を成す者有り。財を達する者有り。問に答ふる者あり。私は淑艾する者あり。此五者は君子の教ふる所以なり。

㊀ 財は材即ち才なり　㊁ 淑艾は善く治むること、直接に業を受くること能はず他人より傳へて修業すること

公孫丑曰。道則高矣美矣。宜二若レ登レ天然一。

公孫丑曰く、道に則ち高し美し。宜しく天に登るが若く然るべし。及ぶ可からざるに似たり。何ぞ彼をして幾及す可きを爲して日々に孳孳せしめざる。孟子曰く、大匠は拙工の爲めに繩墨を改廢せず。羿は拙射の爲めに其彀率を變ぜず。君子は引きて發せず、躍如たり。中道にして立つ。能者之に從ふ。

㊀ 卑近にして企て及ぶべき道を作りて常人をして日に之を勤行せしめざる　㊁ 孜々に同じ　㊂ 勝れたる工匠は拙き工匠の爲にすみなはを改め又はやめず　㊃ 古の弓の名人　㊄ 弓を張る程度　㊅ 君子人を教ふるの道を工匠の法及び射法に比して云ふ　㊆ 物の目前に躍り出づる有様　㊇ 萬人に見安く道の中央に立つ

似レ不レ可レ及也。何不レ使下彼爲レ可二幾及一而日孳孳上也。孟子曰。大匠不下爲二拙工一改中廢繩墨上。羿不下爲二拙射一變中其彀率上。君子引而不レ發。躍如也。中道而立。能者從レ之。

孟子曰。天下有レ道。以レ道殉レ身。天下無レ道。以レ身殉レ道。未レ聞下以レ道殉レ人者上也。公都子曰。滕更之在レ門也。

孟子曰く、天下道有れば道を以て身に殉ず、天下道無ければ身を以て道に殉ず。未だ道を以て人に殉ずる者を聞かざるなり。

㊀ 身用ひられ道行はるゝこと　㊁ 道行はれず身從つて退くこと　㊂ 道を曲げて人に從ふこと

公都子曰く、滕更の門に在るや、禮する所にあるが若し。而も答へざるは何ぞや。孟子曰く、貴を挾みて問ひ、賢を挾みて問ひ、長を挾みて問ひ、勤勞有る

若レ在レ所レ禮。而不レ答何也。孟子曰。挾貴而問挾賢而問挾長而問。挾レ有レ勳勞而問。挾レ故而問。皆所レ不レ答也。滕更有二焉。

を挾みて問ひ、故を挾みて問ふは、皆答へざる所なり。滕更(五)に二つあり。

㊀ 滕君の弟 ㊁ 孟子の門に來りて學ぶをいふ ㊂ 恃むなり ㊃ 故舊、知り合ひのこと ㊄ 貴と賢とを挾めりとなり

孟子曰。於不可已而已者。無所不已。於二所厚者一薄。無所不薄也。其進銳者。其退速。

孟子曰く、已むべからざるに於て已む者は、已まざる所無し。厚くする所の者に於て薄くすれば薄うせざる所なし。其進むこと(二)銳き者は其退くこと速かなり。

㊀ 爲さざる可からざるに爲さず、厚くすべきに薄きものとは共に及ばざるの弊あるをいふ ㊁ 熱中し易きものは又冷め易し、其の弊は過ぐるにあり

孟子曰。君子之於レ物也。愛之而弗レ仁。於民也仁之而弗レ親。親レ親而仁レ民。仁レ民而愛レ物。

孟子曰く、君子の物に於けるや、之を愛して(三)仁せず。民に於けるや、之を仁して親しまず。親を親しみて民に仁し、民に仁して物を愛す。(四)

㊀ 禽獸草木 ㊁ 取るに時あるを云ふ ㊂ 人類に對するが如き仁愛を以てせず ㊃ 骨肉に對するが如き親愛を以てせず、親疎の仁愛に自ら差別あるを知るべし

孟子曰。知者無レ不レ如也。當レ務之爲レ急。仁者無レ不レ愛也。急レ親賢之爲レ務。堯舜之知而不レ徧レ物。急二先務一也。堯舜之仁不レ徧レ愛人。急レ親賢也。不レ能二三年之喪一。而緦小功之察。放飯流歠而問無二齒決一。是之謂レ不レ知レ務。

孟子曰く、知者は知らざる無きなり。務むべきを之れ急と爲す。仁者は愛せざる無きなり。賢を親しむを急にするを之れ務と爲す。堯舜の知にして、物に(一)徧からざるは先務を急にするなり。堯舜の仁にして人を愛するに徧からざるは賢を親しむことを急にするなり。三年の喪を能くせずして(二)緦小功を之れ察し、(三)放飯流歠して(四)齒決無きを問ふ。是れ之を務を知らずと謂ふ。(五)(六)(七)

㊀ 天下の事を徧く知らぬ ㊁ 父母の喪にして、最服の重きもの ㊂ 緦は、緦麻にして三箇月の喪、小功は、五箇月の喪にして最服の輕きもの ㊃ 細かに注意す ㊄ 際限もなく飯を食ひ、際限もなく汁物を啜ることにして、大なる無作法なり ㊅ 乾きたる肉を噛み切らずして、手にて裂きて食ふ醜なり、之れを噛み切るは、小さき無作法なり ㊆ 問題にしてやかましくいふ

孟子曰。不仁哉。梁惠王也。仁者以二其所レ愛。及二其所レ不レ愛。不仁者以二其所レ不レ。及二其所レ愛。公孫丑曰。何謂也。梁惠王以二土地之故一糜二爛其民一而戰レ之。大敗。將レ復レ之。恐レ不レ能レ勝。故驅二其所レ愛子弟一以殉レ之。是之謂下以二其所レ不レ愛及中其所レ愛也。

卷之十四

盡心章句下

孟子曰く、不仁なるかな、梁の惠王、仁者は其の愛する所を以て其の愛せざる所に及ぼし不仁者は其の愛せざる所を以て其の愛する所に及ぼす。公孫丑曰く、何の謂ぞや。梁の惠王は土地の故を以て其民を糜爛して之を戰はせ、大に敗る。將に之を復せんとす。勝つ能はざるを恐る。故に其の愛する所の子弟を驅りて以て之に殉す。是れ之を其の愛せざる所を以て其の愛する所に及ぼすと謂ふなり。

一 愚澤を自國の民より遠く天下の民に及ぼすを云ふ 二 遠く他國を攻伐するより其害遠に己の民に及ぶを云ふ 三 再戰す 四 太子の申及び數人の子弟を指す 五 國羅に殉ぜしむ

孟子曰。春秋無二義戰一。彼善レ於レ此則有レ之矣。征者。上伐レ下也。敵國不二相征一也。

孟子曰。盡信レ書。則不レ如レ無レ書。吾於二武成一取二二三策一而已矣。仁人無レ敵レ於二天下一。以二至仁一伐二至不仁一。而何其血之流レ杵也。

孟子曰。有レ人曰。我善爲レ陣。我善爲レ戰。大罪也。國君好レ

孟子曰く、春秋に義戰無し。彼此より善きは則ち之れ有り。征とは上下を伐つなり。敵國は相征せざるなり。

一 孔子の作書名 二 義に合へる戰 三 かの國とこの國とを比較して褒貶をきめる位のことに之れ有るなり 四 上下とは天子と諸侯とを指す 五 名分相等しき國

孟子曰く、盡く書を信ずれば書無きに如かず。吾武成に於て二三策を取るのみ。仁人は天下に敵無し。至人を以て至不仁を伐つ。而るに何ぞ其れ血の杵を流さん。

一 書經を云ふ、一說には凡ての書と 二 書經の篇名、此の一篇中に於て二三章を信ずるのみとなり 三 古昔竹にて簡策となすより云ふ 四 武王を指す 五 紂王を指す 六 杵或は鹵に作る、鹵は楯なり、戰ひの爲め人を殺し、血杵を流すに至る、かゝる事に至らない筈との意

孟子曰く、人あり、曰く、我善く陣を爲し、我善く戰を爲すと。大罪なり。國君仁を好めば天下に敵無し。南面して征すれば北狄怨み、東面して征すれば西夷怨む。曰く、奚爲ぞ我を後にすると。武王の殷を伐つや、革車三百兩、虎賁三千人。

仁、天下無敵焉。南面而征。北狄怨。東面而征。西夷怨。曰。奚爲後我。武王之伐殷也、革車三百兩。虎賁三千人。王曰。無畏。寧爾也。非敵百姓也。若崩厥角稽首。征之爲言正也、各欲正己也。焉用戰。

王曰く、畏るゝ無かれ、爾を寧ぜん、百姓を敵とするに非ざるなりと。崩るゝが若く角を厥して稽首す。征の言たる正なり。各〻己を正しくせんと欲するなり。焉んぞ戰を用ひん。

㊀ 陣に同じ　㊁ 合戰　㊂ 此句欒黍王下篇に既出　㊃ 兵車、兩は輛に同じ　㊄ 弓矢、勇をとる戰士を云ふ　㊅ 厥は頓首の頓に同じ、厥角は獸が頭を地に觸れるが如く、民の武王を迎へて、頓首するを云ふ

孟子曰。梓匠輪輿。能與人規矩。不能使人巧。○孟子曰。舜之飯糗茹艸也。若將終身焉。及其爲天子也。被袗衣。鼓琴。二女果。若固有之。

孟子曰く、梓匠輪輿は能く人に規矩を與ふるも、人をして巧ならしむる能はず。○孟子曰く、舜の糗を飯ひ艸を茹ふや、將に身を終へんとするが若し。其の天子と爲るに及びて袗衣を被り琴を鼓し二女果す。之を固有するが若し。

㊀ 大工と車を作る人、滕文公下篇に既出　㊁ 野菜　㊂ 單衣　㊃ 堯の二女を侍べちすこと

孟子曰。吾今而後知殺人親之重也。殺人之父。人亦殺其父。殺人之兄。人亦殺其兄。然則非自殺之也一間耳。

孟子曰。古之爲關也。將以禦暴。今之爲關也。將以爲暴。○孟子曰。身不行道。不行於妻子。使人不以道。不能行於妻子。孟子曰。周于利者。凶年不

孟子曰く、吾今にして後人の親を殺すの重きを知る。人の父を殺せば人も亦其父を殺す。人の兄を殺せば人も亦其兄を殺す。然らば則ち自らこれを殺すに非ざるなるや一間のみ。

㊀ 親族　㊁ 吾れ我が父兄を殺したるに非ざれども、殆ど殺したると大差なく、中間に一人餘計に加はるのみ

孟子曰く、古の關を爲くるや、將に以て暴を禦がんとす。今の關を爲くるや、將に以て暴を爲さんとす。○孟子曰く、身道を行はざれば妻子に行はれず。人を使ふに道を以てせざれば妻子に行ふ能はず。

㊀ 古昔の關を設けたる理由　㊁ 非常に厳へる　㊂ 今世の關を設くる理由　㊃ 旅人のち重稅を取らんとすることをいふ　㊄ 妻子を使ふこと

孟子曰く、利に周き者は凶年も殺すこと能はず。德に周き者は邪世も亂すこと能はず。○孟子曰く、名を好む人は能く千乘の國を讓る。苟も其人に非ざれ

能レ殺。周レ于レ德者。邪世不レ能レ亂。○孟子曰。好レ名之人、能讓二千乘之國一。苟非二其人一。簞食豆羹見レ於レ色。

ば簞食豆羹も色に見はる。

㊀ 用意の周到なること ㊁ 邪説の行はるゝ世 ㊂ 善い意味の名なり、即ち不朽の名なり ㊃ 名を好まざる人は利を好む、故に一簞の食、一豆の汁にても之を爭ひて顏色を變ず

孟子曰。不レ信二仁賢一。則國空虛。無二禮義一。則上下亂。無二政事一。則財用不レ足。○孟子曰。不仁而得レ國者。有レ之矣。不仁而得二天下一。未二之有一也。

孟子曰く、仁賢を信ぜざれば則ち國空虛す。禮儀無ければ則ち上下亂る。政事無ければ則ち財用足らず。○孟子曰く、不仁にして國を得る者之れ有り。不仁にして天下を得るは未だ之れあらざるなり。

㊀ 國中に人無きに等し ㊁ 上下の順亂る ㊂ 諸侯となること

孟子曰。民爲レ貴。社稷次レ之。君爲レ輕。是故。得二乎丘民一而爲二天子一。得レ乎二天子一爲二諸侯一。得レ乎二諸侯一爲二大夫一。諸侯危二社稷一。則變置。犧牲既成。粢盛既潔。祭祀以レ時。然而旱乾水溢。則變二置社稷一。

孟子曰く、民を貴しと爲す。社稷之に次ぎ、君を輕しと爲す。是故に丘民に得て天子となり、天子に得て諸侯と爲り、諸侯に得て大夫となる。諸侯社稷を危くせんとすれば則ち變置す。犧牲既に成り、粢盛既に潔く、祭祀時を以てす。然り而して旱乾水溢あれば則ち社稷を變置す。

㊀ 田野の民なり ㊁ 供物

孟子曰。聖人百世之師也。伯夷柳下惠是也。故聞二伯夷之風一者頑夫廉。懦夫有レ立レ志。聞二柳下惠之風一者薄夫敦。鄙夫寬。奮レ乎二百世之上一。百世之下聞者莫レ不二興起一也。非聖人而能若レ是乎。而況於下親二炙之一者上乎。

孟子曰く、聖人は百世の師なり。伯夷・柳下惠是なり。故に伯夷の風を聞く者は頑夫も廉に、懦夫も志を立つること有り。柳下惠の風を聞く者は薄夫も敦く、鄙夫も寬なり。百世の上に奮ひて、百世の下聞く者興起せざるは莫し。聖人に非ずして能く是くの若くならんや。而るに況んや之に炙する者に於てをや。

㊀ 萬章下篇を見よ ㊁ 感動して奮發す ㊂ 親しく接して教を受くること

孟子曰。仁也者人也。合而言之道也。○孟子曰。孔子之去魯。曰。遲遲吾行也。去父母國之道也。去齊接淅而行。去他國之道也。

孟子曰。君子之厄於陳蔡之間。無上下之交也。○貉稽曰。稽大不理於口。孟子曰。無傷也。士憎玆多口。詩云。憂心悄悄。慍于羣小。孔子也。肆不殄厥慍。亦不殞厥問。文王也。

孟子曰。賢者以其昭昭。使人昭昭。今以其昏昏。使人昭昭。○孟子曰。高子曰。山徑之蹊。間介然用之而成路。爲間不用。則茅塞之矣。今茅塞子之心矣。

孟子曰。禹之聲。尙文王之聲。孟子曰。何以言之。曰。以追蠡。曰。是奚

孟子曰。仁とは人なり。合して之を言へば道なり。○孟子曰く、孔子の魯を去るに曰く、遲遲として吾れ行くなりと。父母の國を去るの道なり。齊を去るに淅を接して行く。他國を去るの道なり。

一 仁と人とを合するなり 二 此章は萬章下篇に出づ

孟子曰く、君子の陳蔡の間に厄するは上下の交無ければなり。○貉稽曰く、稽大に口に理ならず。孟子曰く、傷む無かれ。士憎玆に多口なり。詩に云く、憂心悄悄、羣小に慍みらるとは孔子なり。肆に厥の慍を殄たず。亦厥の問を殞さずとは文王なり。

一 孔子のこと 二 厄に同じ 三 君臣上下共に惡みて交接せざればなり 四 理は賴なり、大勢に誹られて頼みなきこと 五 士となれば大勢から誹られるものなり、憎は增に同じ 六 噂せらるゝ事多し 七 詩經邶風柏舟の篇 八 憂ふる貌 九 多くの小人 一〇 詩經大雅緜篇の字面 一一 聲聞即ち評判なり

孟子曰く、賢者は其昭昭を以て人をして昭昭たらしむ。今は其昏昏を以て人をして昭昭たらしむ。○孟子、高子に謂つて曰く、山徑の蹊、間く介然として之を用ふれば路を成す。間くも用ひざるを爲せば則ち茅之を塞ぐ。今茅子の心を塞げり。

一 明德なり 二 昏德なり、亂れたる政を云ふ 三 齊の人、孟子の弟子 四 山間の小路の足跡、一說に「山徑の蹊間、介然として」と訓ず 五 堅固の貌、固くそれのみを用ふること 六 十路を成就す

高子曰く、禹の聲は文王の聲に尙れり。孟子曰く、何を以て之を言ふ。曰く、追の蠡せるを以てなり。曰く、是れ奚んぞ足らむや。城門の軌は兩馬の力ならんや。

一 音樂の聲なり 二 追は鐘を釣りかくる處、鐘頭、蠡は磨滅し）絕えんとすること 三 是れ奚ぞ之を知るに

足哉。城門之軌。兩馬之力與。

足らんや　城門の車轍のきしれる跡は單に一車兩馬の力に非ず、歲月を積むこと久しきに由る、兩馬とは夏代の制なり

齊饑。陳臻曰。國人皆以爲夫子將復爲發。

齊饑う。陳臻曰く、國人皆以らく、夫子將に復た爲めに粟を發せんとすと。

復ど復すべからざるか。孟子曰。是爲馮婦者。晉人馮婦といふ者あり。善く虎を搏つ。卒に善士となる。則ち野に之く。衆有り虎を逐ふ。虎嵎を負ふ。之に敢て攖る莫し。馮婦を望み見て趨りて之を迎ふ。馮婦臂を攘げ車を下る。衆皆之を悅ぶ。其の士たる者は之を笑ふ。

一　邑の名、こゝに米倉あり、先に飢饉ありし時、孟子齊王に勸めて此米倉を開かしめ、米を出して貧窮を賑恤したることあり　二　二度と謂ふ事は出來ぬか　三　人名　四　手どりにする　五　終に荒業を止めて善士となる　六　山隅を背にして人に向ふを云ふ　七　觸れ近づく　八　腕まくり　九　心ある者

孟子曰。口之於味也。目之於色也。耳之於聲也。鼻之於臭也。四肢之於安佚也。性也。有命焉。君子不謂性也。仁之於父子也。義之於君臣也。禮之於賓主也。智之於賢者也。聖人之於天道也。命也。有性焉。君子不謂命也。

孟子曰く、口の味に於ける、目の色に於ける、耳の聲に於ける、鼻の臭に於ける、四肢の安佚に於ける、性なり。命有り。君子は性と謂はざるなり。仁の父子に於ける、義の君臣に於ける、禮の賓主に於ける、知の賢者に於ける、聖人の天道に於ける、命なり。性有り。君子は命と謂はざるなり。

一　五官の欲は皆天性なり、然れども世上の物皆己が圖ふまゝに享け得らるべきに非ず、故に君子は其天命ある事を知つて、強ひて之を求むることを爲さゞるなり　二　人の性質に密墨正邪の別あるはもとより天の命ずる所なり、然れども人の本性は善、故に君子は之を天命と言はずして、吾身を修め其の不善を去つて本性の善を明かにせんと務むるなり　三　天運

浩生不害問曰。樂正子何人也。孟子曰。善人也。信人也。何謂善。何謂信。曰。可欲之謂善。有諸己之謂信。充實之謂美。充實而有光輝之謂大。大而化之之謂聖。聖而不可知之之謂神。樂正子

浩生不害問ひて曰く、樂正子は何人ぞや。孟子曰く、善人なり、信人なり。何を か善と謂ひ、何をか信と謂ふ。曰く、欲すべき之を善と謂ひ、諸れを己に有する之を信と謂ひ、充實する之を美と謂ひ、充實して光輝ある之を大と謂ひ、大にして之を化する之を聖と謂ひ、聖にして之を知るべからざる之を神と謂ふ。樂正子

之謂レ善。有二諸己一之謂レ信。充實之謂レ美。充實而有二光輝一之謂レ大。大而化レ之之謂レ聖。聖而不レ可レ知レ之之謂レ神。樂正子。二之中。四之下也。

は二の中四の下なり。(六)

㊀ 姓は樂生、名は不害、魯人なり ㊁ 何人も親しみ好むを善と云ふ ㊂ 善を體得して居るを信と云ふ ㊃ 善と信とを充實すること ㊄ 心を用ひずして道に叶ふ ㊅ 善信の中間に在り、美大聖神の下に位するなり

孟子曰。逃レ墨必歸レ於楊。逃レ楊必歸レ於儒。歸斯受レ之而已矣。今之與二楊墨一辯者。如レ追二放豚一。既入二其苙一。又從招レ之。

孟子曰。有二布縷之征一。粟米之征。力役之征。君子用二其一一緩一其二一。用二其二一而民有レ殍。用二其三一而父子離。○孟子曰。諸侯之寶三。土地人民政事。寶二珠玉一者。殃必及レ身。

孟子曰く、墨を逃るれば必ず楊に歸し、楊を逃るれば必ず儒に歸す。歸すれば斯に之を受けんのみ。今の楊墨と辯ずる者は放豚を追ふが如し。既に其苙に入れば又從つて之を招ぐ。(一)(二)

㊀ 墨は墨子、楊は楊朱、何れも孟子學說上の敵なり ㊁ かこひの苙にて豚を入れる所 ㊂ 足をいはひつけること

孟子曰く、布縷の征、粟米の征、力役の征有り。君子は其一を用ひて其二を緩くす。其二を用ふれば民殍有り。其三を用ふれば父子離る。○孟子曰く、諸侯の寶は三。土地人民政事。珠玉を寶とする者は殃必ず身に及ぶ。(三)(四)(五)(六)(七)

㊀ 布と糸とを取り立てること ㊁ 年貢の米 ㊂ 夫役 ㊃ 飢え死ぬもの ㊄ 諸侯の寶とすべきものを寶とせずして世俗の寶とする珠玉を寶とする者は誤れるをいふ

孟子曰。逃レ於レ齊。孟子曰。死矣盆成括。盆成括仕レ於レ齊。見レ殺。門人問曰。夫子何以知二其將一レ見レ殺。曰。其爲レ人也。小有レ才。未レ聞二君子之大道一也。則足二以殺一其軀一而已矣。

盆成括、齊に仕ふ。孟子曰く、死なんかな盆成括と。盆成括殺さる。門人問ひて曰く、夫子何を以て其の將に殺されんとするを知る。曰く、其の人と爲りや小にして才あり。未だ君子の大道を聞かず。則ち以て其軀を殺すに足るのみ。(一)(二)(三)

㊀ 姓は盆成、名は括 ㊁ 其の器量小なるをいふ ㊂ 器少に才ありて未だ君子の大道を聞かざることの結果は其の自身を殺すに至る理由なり

孟子之レ滕館レ

孟子滕に之きて上宮に館す。(一)屨上に業屨有り。館人之を求めて得ず。或ひ

於上宮有業屨於牖上館人求之弗得。或問之曰若是乎從者之廋也。曰子以是爲竊屨來與曰殆非也。夫予之教科也。往者不追求者不拒。苟以是心至。斯受之而已矣。

と之を問ひて曰く、是の若きか、從者の廋せるや。曰く、子是れ屨を竊むが爲めに來ると以へるか。曰く、殆ど非なり。夫れ予の科を設くるや、往く者は追はず、來る者拒まず。苟も是の心を以て至らば、斯に之を受けんのみ。

一 旅館の名、或は館の樓上の室、又は地名など云ふ　二 宿をとる　三 織りさして未だ成らざる屨を密に置くなり　四 隠き匿る言葉　五 孟子の從者　六 匿なり、暗に盜むの意を含ませて言へるなり　七 孟子の言とすべし　八 教授科目なり　九 往く人來る人と解すべし　一〇 道を學ぶ心

孟子曰。人皆有所不忍。達之於其所忍。仁也人皆有所不爲。達之於其所爲。義也。人能充無欲害人之心。而義不可勝用也。人能充無穿踰之心。而義不可勝用也。人能充無受爾汝之實。無所往而不爲義也。士未可以言而言。是以言餂之也。可以言而不言。是以不言餂之也。是皆穿踰之類也。

孟子曰く、人皆な忍びざる所有り。之を其の忍ぶ所に達するは仁なり。人皆爲さざる所有り。之を其の爲す所に達するは義なり。人能く人を害するを欲する無きの心を充てば、仁勝げて用ふ可からざるなり。人能く穿踰する無きの心充てば、義勝げて用ふ可からざるなり。人能く爾汝を受くる無きの實を充てば、往く所として義たらざる無きなり。士未だ以て言ふ可からずして言ふは、是れ言ふを以て之を餂るなり。以て言ふ可くして言はざるは、是れ言はざるを以て之を餂るなり。是れ皆穿踰の類なり。

一 氣の毒なと思ふ心　二 穿は壁に穴をあけること、踰は墻をこえること、故に竊盜の意となる　三 呼びすてにせらるゝこと、輕蔑せらるる、意なり　四 實心　五 取ること

而仁不可勝用也。人能充無穿踰之心。而義不可勝用也。人能充無受爾汝之實。無所往而不爲義也。是皆穿踰之類也。

孟子曰。言近而指遠者善言也。守約而施博者善道也。君子之言也。不下帶而道存焉。君子之守。脩其身而天下平。人病舍其田而

孟子曰く、言近くして指遠きは善言なり。守ること約にして施すこと博きは善道なり。君子の言や帶を下らずして道存す。君子の守其身を脩めて天下平かる所以の者輕ければなり。人其田を舍てて人の田を芸るを病む。人に求むる所重くして、自ら任ずる所以の者輕ければなり。

一 言葉がわかり易くして　二 意味深きこと　三 朱注に云ふ、古人親ること帶より下らず、則ち帶の上は乃ち目前常に見る至近の處なり、目前の近事を以て、而も至理存すと　四 自己を修めずして他人の世話を焼く譬

芸人之田。所求於人者重。而所以自任者輕。

孟子曰。堯舜性者也。湯武反之也。動容周旋中禮者。盛德之至也。哭死而哀。非爲生者也。經德不回。非以干祿也。言語必信。非以正行也。君子行法以俟命而已矣。

孟子曰。說大人則藐之。勿視其巍巍然。堂高數仞。榱題數尺。我得志弗爲也。食前方丈。侍妾數百人。我得志弗爲也。般樂飲酒。驅騁田獵。後車千乘。我得志弗爲也。在彼者皆我所不爲也。在我者皆古之制也。吾何畏彼哉。

孟子曰、心を養ふは寡欲より善きは莫し。其の人と爲りや欲寡ければ存する者ありと雖も寡し。其の人と爲りや欲多ければ存する者ありと雖も寡し。

曾晳羊棗を嗜む。曾子羊棗を食ふに忍びず。公孫丑問ひて曰く、膾炙と羊棗と孰か美なる。孟子曰く、膾炙なるかな。公孫丑曰く、然らば則ち曾子何爲れぞ膾

(一)人を說くには則ち之を藐ぜよ。(二)其の巍巍然たるを視ること勿れ。(三)堂の高さ數仞、(四)榱桷數尺、我が志を得るも爲さざるなり。(五)食前方丈、侍妾數百人、我が志を得るも爲さざるなり。(六)般樂して酒を飲み、(七)驅騁田獵し、後車千乘、我

(一)仁義禮智を性のまゝ行ふ　(二)本性にかへるなり　(三)動作容儀の細微なること　(四)禮節にかなふ　(五)平常、德行に少しの邪曲なきこと

(一)大人を說くには則ち之を藐ぜよ。(二)其の巍巍然たるを視ること勿れ。(三)堂の高さ數仞、(四)榱桷數尺、我が志を得るも爲さざるなり。(五)食前方丈、侍妾數百人、我が志を得るも爲さざるなり。(六)般樂して酒を飲み、(七)驅騁田獵し、後車千乘、我

(一)當時の王公貴人　(二)輕視すること　(三)立派なる有樣　(四)たる木の端　(五)食物の獸立方丈に及ぶ　(六)大に音樂をなすこと　(七)馬に乘りて駈け廻る　(八)先王の禮法

志を得るも爲さざるなり。彼に在るもの皆我が爲さざる所なり。我に在る者は皆(八)古の制なり。吾何ぞ彼を畏れんや。

孟子曰く、心を養ふは寡欲より善きは莫し。其の人と爲りや欲寡ければ存せざる者ありと雖も寡し。其の人と爲りや欲多ければ存する者ありと雖も寡し。

(一)仁義の心　(二)欲寡ければ德の存せざるものありとも、その存せざるもの甚だ寡し、多欲なる者は之に反す

曾晳羊棗を嗜む。曾子羊棗を食ふに忍びず。公孫丑問ひて曰く、膾炙と羊棗と孰か美なる。孟子曰く、膾炙なるかな。公孫丑曰く、然らば則ち曾子何爲れぞ膾

丑問曰。瞻炙與羊棗執美。孟子曰。瞻炙哉。公孫丑曰。然則曾子何爲食瞻炙而不食羊棗。曰。瞻炙所同也。羊棗所獨也。諱名不諱姓。姓所同也。名所獨也。

萬章問曰。孔子在陳。曰。盍歸乎來。吾黨之士。狂簡進取。不忘其初。孔子在陳。何思魯之狂士。孟子曰。孔子不得中道而與之。必也狂

炙を食ひて羊棗を食はざる。曰く、瞻炙は同する所なり。羊棗は獨する所なり。名を諱みて姓を諱まず。姓は同じくする所なり。名は獨する所なり。

㊀ 曾は曾子の父 ㊁ 羊棗はなつめなり ㊂ 瞻はなます、炙は燒肉 ㊃ 然ちば曾皙も常然瞻炙を嗜みしならん然るに ㊄ 瞻炙は何人も同じく好む所なり、羊棗は曾皙の獨り好む所なり、諱の法に名は諱めども姓を諱まず、是れ姓は同族の共に有する所なれども名は各人の獨り有する所なればなりとこれと同じ理なりとの意

萬章問ひて曰く、孔子陳に在り。曰く、盍ぞ歸らざる。吾黨の士、狂簡進んで取り其初を忘れずと。孔子陳にあり、何ぞ魯の狂士を思ふ。孟子曰く、孔子中道を得て之に與せざれば、必ずや狂猥か。狂者は進みて取り、猥者は爲さざる所有り。孔子豈に中道を欲せざらんや。必ずしも得べからず、故に其次を思ふ。敢て問ふ、何如なる斯に狂と謂ふ可きと。曰く、琴張、曾皙、牧皮の如きは孔子の所謂狂なり。何を以て之を狂と謂ふ。曰く、其志嘐嘐然たり。曰く、古の人、

獧乎。狂者進取。獧者有所不爲也。孔子豈不欲中道哉。不可必得。故思其次也。敢問何如斯可謂狂矣。曰。如琴張曾皙牧皮者。孔子之所謂狂矣。何以謂之狂。曰。其志嘐嘐然。曰。古之人。古之人。夷考其行。而不掩焉者也。狂者又不可得。欲得不屑之士而與之。

古の人と、夷に其行を考へて掩はざる者なり。狂者又得べからず。不潔を屑しとせざるの士を得て之に與せんと欲す。是れ獧なり。是れ又其次ぎなり。孔子曰く、我門を過ぎて、我室に入らざるも我憾みざる者は其れ惟鄉原かと。鄉原は德の賊なればなり。曰く、何如なる斯に之を鄉原と謂ふべき。曰く、何を以てか是れ嘐嘐たるや。言行を顧みず、行ひ言を顧みず。則ち曰く、古の人、古の人と。行何爲ぞ踽踽涼涼たる。斯の世に生れては斯の世に爲すなり。善なれば斯に可なりと。閹然世に媚ぶる者は是れ鄉原なり。萬章曰く、一鄉皆原人と稱す。往く所として原人爲らざることなし。孔子以て德の賊となすは何ぞや。曰く、之を非らんとするも舉ぐる無きなり。之を刺らんとするも刺る無きなり。流俗に同じ汙世に合はせ、之に居ること忠信に似、之を行ふこと廉潔に似、衆皆之を悅び、自ら以て是と爲して、而して與に堯舜の道に入る可からず。故に德の賊と曰ふなり。孔子曰く、似て非なる者を惡む。莠を惡むは其の苗を亂るを恐れてなり。佞

是獧也。是又其次也。孔子曰。過我門而不入我室。我不憾焉者。其惟鄉原乎。鄉原德之賊也。曰。何如斯可謂之鄉原矣。曰。何以是嘐嘐也。言不顧行。行不顧言。則曰古之人。古之人。行何爲踽踽涼涼。生斯世也。爲斯世也。善斯可矣。閹然媚於世也者。是鄉原也。萬章曰。一鄉皆稱原人焉。無所往而不爲原人。孔子以爲德之賊何哉。曰。非之無

を悪むは其の義を亂るを恐れてなり。利口を悪むは其の信を亂るを恐れてなり。鄭聲を悪むは其の樂を亂るを恐れてなり。紫を悪むは其の朱を亂るを恐れてなり。鄉原を悪むは其の德を亂るを恐れてなりと。君子は經に反らんのみ。經正しければ則ち庶民興る。庶民興れば斯に邪慝無し。

一 孔子陳國に在り、道行はれず、魯に歸らんとして此の語を述べられたり、論語公冶長篇參照 二 魯にある弟子 三 理想高くして實行の之に伴はざるもの 四 其舊を改めざるなり 五 狂簡の士、論語子路參照 六 過不及なく道を行ふ人 七 獧は狷に同じ、狷介にして不義を爲さず 八 孔子の弟子、名は牢 九 孔子の弟子 一〇 志す所大、言亦大、口に古人を誦し、之を慕へども、其行を考察すれば言論は實行より多く、言行相當らず 一一 言葉だけを掩ひ果さぬなり 一二 鄉黨の間に謹嚴を以て名ある人、所謂律儀なり 一三 德の有害物、論語陽貨篇參照 一四 鄉原の人が狂者を評して曰く 一五 踽行、人に親まざること 一六 淋しきなり 一七 世の所業と爲す 一八 其所業圓滿 一九 自己を閹ひかくすなり、ねこをかぶること 二〇 之をそしらんとするも其證として擧ぐべき事實なきこと 二一 過失を攻擊す 二二 下流の風俗 二三 汚濁なる時世 二四 身を行ふ 二五 苗に似て苗を害する草の名 二六 口才ある者 二七 口の上手なること、論語陽貨篇參照 二八 鄭國の音樂、淫聲なり 二九 正しき音樂 三〇 五色以外にて間色なれば云ふ、五色とは青黃赤白黑なり 三一 赤なり、紫は赤青の間色なれば、赤と相ならべば之を亂す也 三二 位あり德ある人 三三 常道に立ち歸る

也。刺之無刺也。同乎流俗。合乎汙世。居之似忠信。行之似廉潔。衆皆悅之。自以爲是。而不可與入堯舜之道。故曰德之賊也。孔子曰。惡似而非者。惡莠恐其亂苗也。惡佞恐其亂義也。惡利口恐其亂信也。惡鄭聲恐其亂樂也。惡紫恐其亂朱也。惡鄉原恐其亂德也。君子反經而已矣。經正則庶民興。庶民興斯無邪慝矣。

孟子曰。由堯舜至於湯。五百有餘歲。若禹皐陶則見而知之。若湯則聞而知之。由湯至於文王。五百有餘歲。若伊尹萊朱則見而知之。若文王則聞而知之。由文王至於孔子。五百有餘歲。若太公望

孟子曰く、堯舜より湯に至るまで五百有餘歲、禹皐陶の若きは則ち見て之を知り、湯の如きは則ち聞きて之を知る。湯より文王に至るまで五百有餘歲、伊尹萊朱の若きは則ち見て之を知り、文王の若きは則ち聞きて之を知る。文王よりも孔子に到るまで五百有餘歲、太公望散宜生の若きは則ち見て之を知り、孔子の若きは則ち聞きて之を知る。孔子より來今に至るまで百有餘歲、聖人の世を去ること此の若く其れ未だ遠からざるなり。聖人の居に近きこと此の若く其れ甚しきなり。然り而して有る無きのみ。則ち亦有る無からんのみ。

一 其道なり 二 湯の賢臣 三 文王の賢臣散は姓名は宜生 四 孟子の生國なる鄒と孔子の生國なる魯と甚だ相接近したるをいふ 五 年代も遠からず、居處も近くしてありながら之を見聞して知れる者あることなし、然らば後世遂に亦之を見聞して知るの人君無からんのみと也、蓋し深く道の行はれざるを歎じたるの言也

21988

375
42x
7302
3

散宜生一則見而知之。若孔子一則聞而知之。由孔子而來至於今。百有餘歲。去聖人之世若此其未遠也。近聖人之居若此其甚也。然而無有乎爾。則亦無有乎爾。

孟子終

購入

衆議院
4.3.25
圖書館

昭和二年六月十五日印刷
昭和二年六月十八日發行

漢文叢書 四書（非賣品）

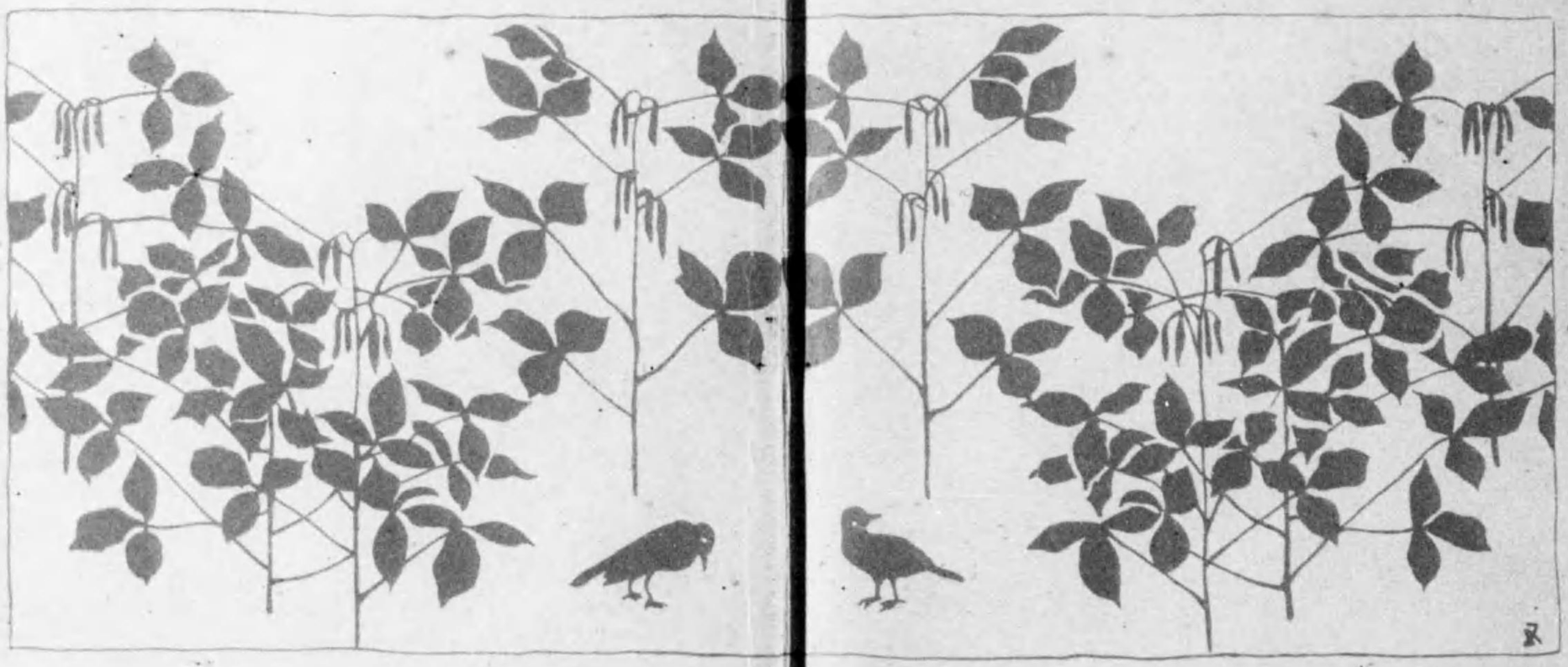
編輯者 東京府下大久保町西大久保二百三十六番地 塚本哲三

印刷兼發行者 東京市神田區錦町一丁目十九番地 三浦理

印刷所 東京市神田區錦町三丁目九番地 有朋堂印刷所（岡山製本）

發行所 東京市神田區錦町一丁目十九番地 有朋堂書店

不許複製



終